



ProGator™ ユーティリティビークル 2020A、2030A

オペレータマニュアル

**ProGator™ ユーティリティビークル
2020A、2030A**

OMTCU37314 J3 号 (JAPANESE)

John Deere Turf Care

北米版
Printed in U.S.A.



John Deere 製品を購入されたお客様への謝辞

当社はお客様に感謝し、末永く機械を安全に満足してご利用いただけるよう願っています。

オペレータマニュアルの使用

このマニュアルは機械の重要な部分です。機械を売却する場合は一緒に引き渡してください。

オペレータマニュアルを読み、ユーザーやその他の人のけが、または機械の損傷の防止に役立ててください。このマニュアルでは、最も安全で最も効果的な機械の使用について説明しています。この機械の安全で正しい操作方法を理解することにより、この機械を操作することがある他の人を訓練することもできます。

アタッチメントを所有している場合は、機械のオペレータマニュアルと一緒にアタッチメントのオペレータマニュアルの安全および操作情報を使用して、アタッチメントを安全に正しく操作してください。

このマニュアルと機械上の安全標示ラベルは、他の言語でも入手可能です (注文するには、認定取扱店にお問い合わせください)。

オペレータマニュアルの各セクションは、すべての安全メッセージの理解とコントロール類の学習を進めやすいように特定の順序で配置されています。したがって、この機械を安全に操作できます。また、このマニュアルを使用して、特定の運転や整備に関する質問に答えることもできます。このマニュアルの最後にある便利な索引を使用すると、必要な情報をすばやく見つけることができます。

このマニュアルに示す機械は、お客様の機械とは少し異なる場合がありますが、説明を理解するうえで十分な類似性を有しています。

「右側」と「左側」は、前進している機械の進行方向に向かった状態で判断します。破線 (-----) が使用されている場合、参照しているアイテムは表示されていません。

この機械を納入する前に、取扱店は機械が最高の性能を発揮できるよう納品前点検を実施しています。

特殊なメッセージ

このマニュアルには、潜在的な安全上の懸念、機械の損傷に注意をうながす特殊なメッセージに加え、役に立つ運転および整備情報が掲載されています。すべての情報を注意深く読み、けがや機械の損傷を防止してください。

⚠ 警戒：けがを防止してください! この記号とテキストは、危険要素や手順を無視した場合に発生する可能性がある、オペレータや近くににいる人の潜在的な危険または死亡事故の可能性について強調しています。

重要：損傷を防止してください! このテキストは、機械の損傷の原因になる可能性があるオペレータの操作や条件を伝えるために使用されています。

注記：オペレータが機械を運転または整備するときに役立つ一般情報は、このマニュアル全体にわたって掲載されています。

機械のアタッチメント

お客様の機械がローントラクターであるか、コンパクトユーティリティトラクターであるか、ユーティリティ車両であるかに関係なく、機械でより多くの作業を実施したり、多機能な機械にすることできる John Deere アタッチメント/キットがあります。

JohnDeere.com でお客様の機械に適したアタッチメントの製品ライン全体を確認するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。エアレーターから電動リフトキットさらにチャーに至るまで、すべてのニーズを満たす John Deere アタッチメント/キットがあります。

目次

導入	2
製品識別	4
安全ラベル：テキストあり	5
安全ラベル：テキストなし	8
安全	11
コントロール類の操作	18
操作	19
交換部品	36
整備間隔	37
整備潤滑	39
エンジンの整備	40
トランスミッションの整備	52
油圧の整備	57
ステアリングとブレーキの整備	59
電気系統の整備	60
その他の整備	64
トラブルシューティング	72
保管	78
仕様	80
保証	84
John Deere 品質に関する声明	89
整備記録	90

本文書は翻訳版です。記載されているあらゆる情報、
画像、仕様は、原本発行時の最新情報に基づきます。
予告なしに変更する場合がありますので、ご了承ください。

COPYRIGHT © 2013
DEERE & COMPANY
Moline, Illinois
All rights reserved
A John Deere ILLUSTRATION © Manual
Previous Editions
Copyright © 2010, 2011

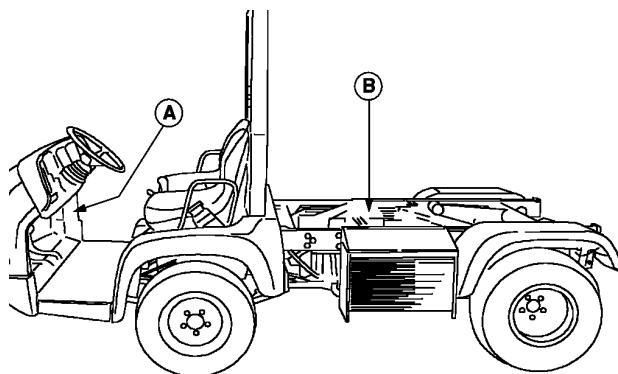
識別番号の記録

ユーティリティビークル ProGator™

シリアル番号 (075001 -)

整備について認定サービスセンターに問い合わせる必要がある場合は、必ず製品のモデルとシリアル番号を用意してください。

お使いの作業機とエンジンの型番およびシリアル番号を確認し、以下に示す情報を書き留めてください。



購入日 :

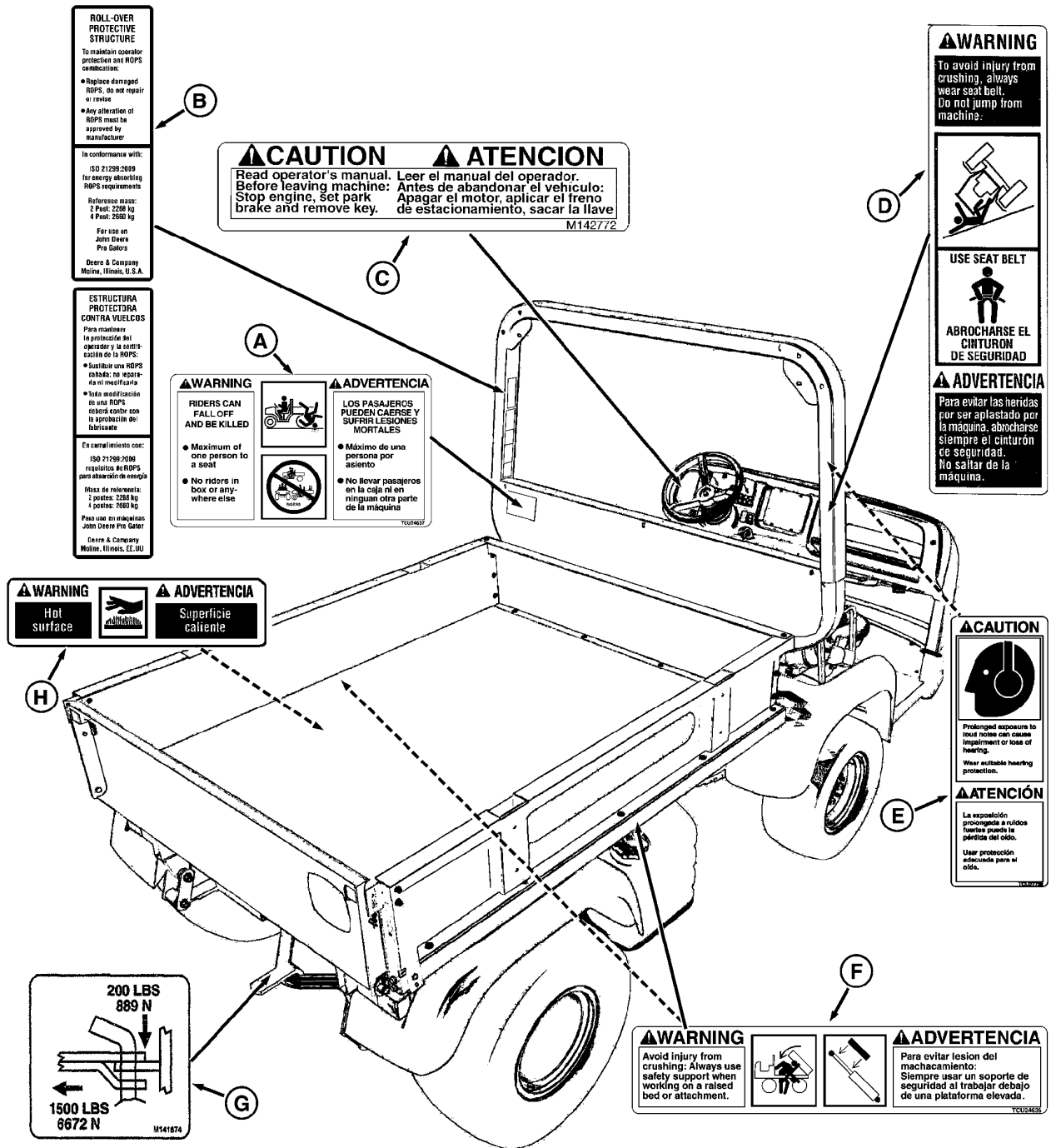
取扱店名 :

取扱店の電話番号 :

製品識別番号 (A) :

エンジンシリアル番号 (B) :

安全ラベルの位置



この図に続く安全ラベルのメッセージ全文を確認してください。

A : 警告 TCU24637
 B : ROPS TCU29978/TCU29979
 C : 注意 M142772
 D : 警告 MT4391
 E : 注意 TCU27738

F : 警告 TCU24636
 G : ドローバー M141874
 H : 警告 TCU13554 (ガソリンのみ)

作業機の安全ラベルの意味



このセクションで説明する作業機の安全ラベルは、安全に関わる潜在的なリスクに対する注意を喚起するため作業機の重要な部分に表示されています。

お使いの作業機の安全ラベルには、安全警告マークとともに「危険」、「警告」、および「注意」の文字が表示されています。「危険」は最も重大な危険要素を示します。

オペレータマニュアルでは、必要に応じて「注意」の文字と安全警告マークとともに特別な安全に関するメッセージを記載し、安全に関わる潜在的なリスクについて説明しています。

安全標示ラベルが足りない場合は補充し、状態の悪いラベルは交換します。適切な安全標示ラベルの位置については、このオペレータマニュアルを使用してください。

販売業者から供給される部品については、このオペレータマニュアルに転載されていない追加の安全情報が存在する可能性があります。

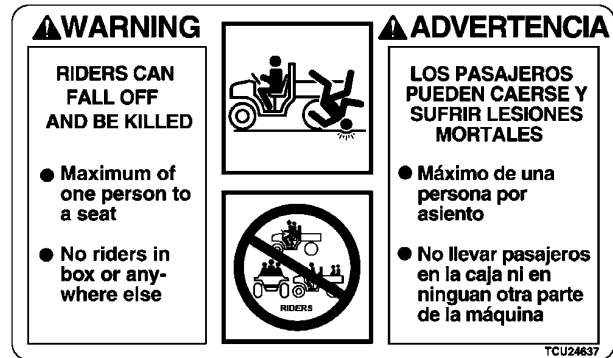
スペイン版安全標示ラベルとオペレータマニュアル

John Deere 認定取扱店から、スペイン版のオペレータマニュアルと安全標示ラベルをお求めいただけます。John Deere 取扱店にお問い合わせください。

注記：ここでは文字と絵柄による両方のラベルが記載されています。お使いの作業機にはこのうちいずれかのラベルのみが取り付けられています。

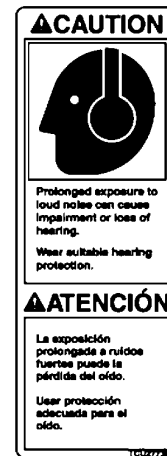
警告

荷台に人を乗せると、転倒事故につながり死傷することがあります。



- 1つの座席に座る人数は、1人が限度です。
- ボックスや他の場所には乗らないでください。

注意



- 騒音に長期間さらされると、聴覚の障害や損失を引き起こすことがあります。
- 適切な聴覚保護具を着用してください。

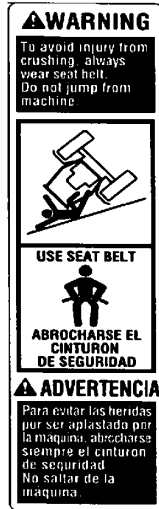
注意



- オペレータマニュアルを確認してください。作業機から離れる前に：エンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、キーを抜いてください。

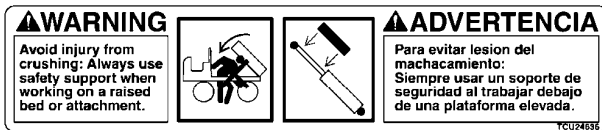
警告

シートベルトを着用してください



- 衝突によるけがを防ぐため、常にシートベルトを着用してください。作業機から飛び降りないでください。

警告

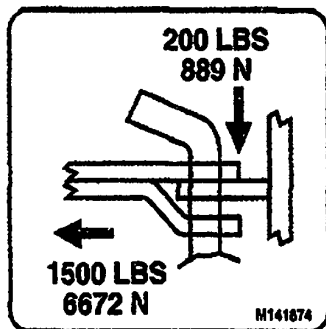


ラベルは各車両の側面レールに配置されています。

- 衝突によるけがの防止：上昇させた荷台やアタッチメントの上で作業するときは、必ず安全支持具を使用してください。

ドローバー荷重

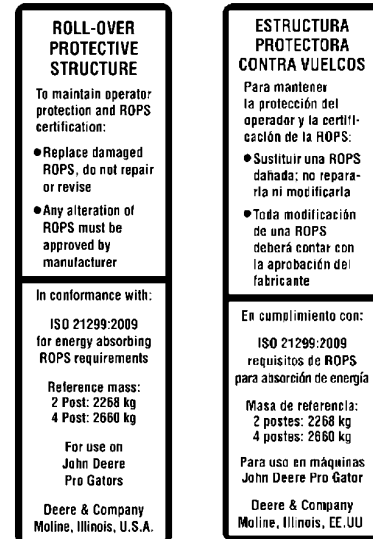
ラベルに記載された推奨ドローバー荷重を超えないでください。



- 水平方向 1500 lb (6672 N)

- 垂直方向 200 lb (889 N)

転倒時保護構造



オペレータ保護と ROPS 認定を維持するための注意事項：

- 損傷した ROPS は修理や改変をせず、交換してください。
- ROPS の改造にはメーカーの承認が必要です

準拠規格：

ISO 21299:2009 (エネルギー吸収用 ROPS の要件)

基準質量：

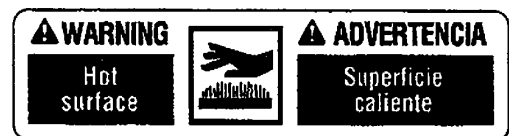
2 ポスト (支柱)：2268 kg

4 ポスト (支柱)：2660 kg

John Deere Pro Gator 用

Deere & Company Moline, Illinois, U.S.A.

警告



表面は高温です。

安全ラベル：テキストなし

安全ラベルの位置



この図に続く安全マークのメッセージ全文を確認してください。

A : 警告 MT3562

B : 注意 M120056

C : 注意 M142773

D : 注意 TCU27739

E : 警告 : MT6349 (EU 地域) TCU31360 (非 EU 地域)

F : 警告 M141954

G : ドローパー M141875

H : 危険 MT6350

I : 警告 TCU13555 (ガソリンのみ)

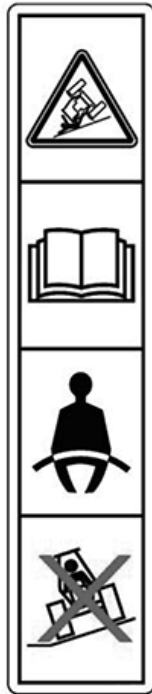
テキストのない機械安全ラベルの意味



この機械のいくつかの重要な場所には、潜在的な危険を知らせるために安全標示ラベルが貼られています。危険要素は、警告用三角ラベルの絵で示されます。隣接する絵はけがを防ぐための情報を提供します。これらの安全標示ラベル、機械上のラベルの位置、および簡単な説明をこの「安全」セクションに示します。

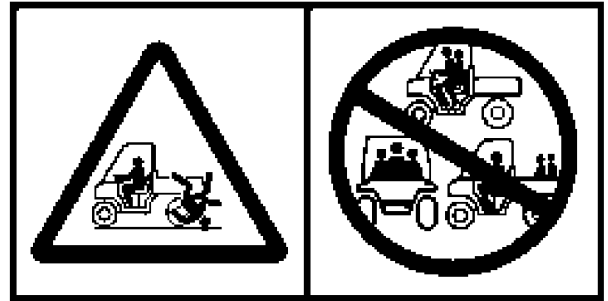
販売業者から供給される部品については、このオペレータマニュアルに転載されていない追加の安全情報が存在する可能性があります。

転倒の防止



- 衝突によるけがを防ぐため、常にシートベルトを着用してください。作業機から飛び降りないでください。
- オペレータマニュアルを確認してください。
- 常にシートベルトを着用してください。
- 安全操作のため傾斜を確認して、作業機の横転を防止してください。

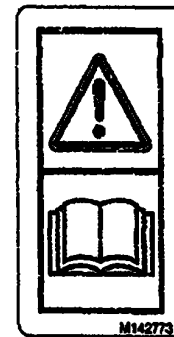
荷台に人を乗せると、転倒事故につながり死傷することがあります。



- 1つの座席に座る人数は、1人が限度です。
- ボックスや他の場所には乗らないでください。

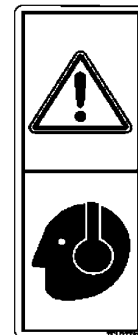
オペレータマニュアルをお読みください

機械の安全な運転



このオペレータマニュアルには機械を安全に運転する上で必要な情報が記載されています。事故を回避するために、すべての安全ルールを守ってください。

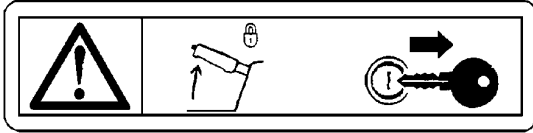
大きな騒音によるけがの防止



安全ラベル：テキストなし

- 騒音に長期間さらされると、聴覚の障害や損失を引き起こすことがあります。
- 適切な聴覚保護具を着用してください。

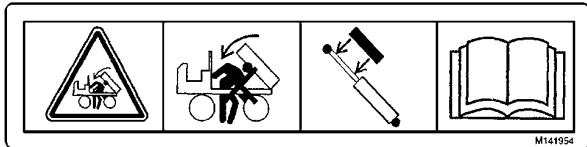
機械の安全な駐車



運転席から離れる前に：

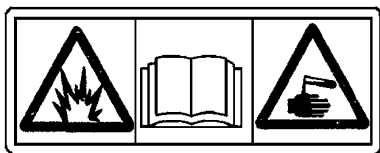
- エンジンを停止してください
- パーキングブレーキをかけてください
- キーを抜いてください

衝突によるけがの防止



上昇させた荷台やアタッチメントの上で作業するときは、必ず安全支持具を使用してください。

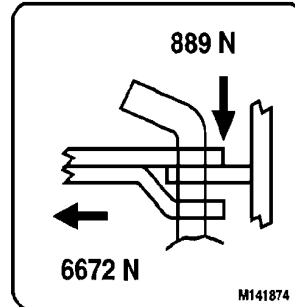
バッテリーから出るガスと酸による負傷が起きないように注意して下さい。



- 起爆性ガスは失明もしくは怪我の危険があるので、目を保護してください。
- 火花、炎、喫煙は禁じられています。
- 硫酸による失明もしくは重度の火傷の危険があります。
- 子供が触らないようにしてください。
- 傾けないでください。
- 通気キャップは、水平かつ確実に締めた状態に保ってください。
- ただちに水で目を洗い流してください。速やかに医師の処置を受けてください。

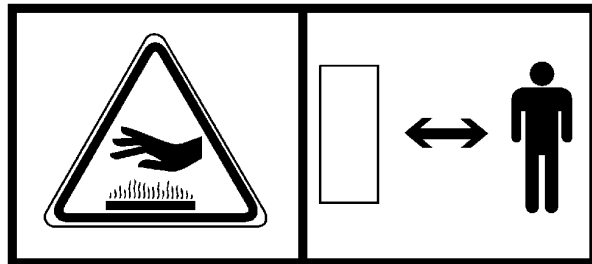
ドローバー荷重

ラベルに記載された推奨ドローバー荷重を超えないでください。



- 水平方向 6672 N (1500 lb)
- 垂直方向 889 N (200 lb)

高温面



高温面には触れないでください。

管理者の安全性に対する責任

- この機械のすべてのオペレータが、完全なトレーニングを受けて、オペレータマニュアルの内容に習熟し、機械の警告ラベルを理解していることを確認してください。
- 必ず既存の作業条件に対して特別な安全手順を確立し、オペレータにその手順をトレーニングします。
- 管理者、オペレータ、整備士は、この機械に適用される安全基準を理解して作業する必要があります。

オペレータトレーニング必須

- オペレータマニュアルおよびその他のトレーニング資料をお読みください。オペレータや整備士が英語を読めない場合は、所有者がこの資料について説明する責任があります。このマニュアルは他の言語でも用意されています。
- 装置の安全な操作、オペレータコントロール、安全標示ラベルをよく理解してください。
- すべてのオペレータと整備士がトレーニングを受けてください。機械の所有者はユーザーのトレーニングについて責任があります。
- 子供またはトレーニングを受けていない人に絶対に装置の操作や整備をさせないでください。現地の法規制によりオペレータの年齢が限定される場合があります。
- 所有者/ユーザーは自分自身、他の人、所有物に対し事故やけがを予防でき、またそうする責任があります。
- トレーニング時の機械の操作は、障害物のない広々とした場所で、熟練したオペレータの指導の下で行ってください。

安全な操作

- 作業を開始する前に、オペレータマニュアルや、機械上の手順説明をすべて読んで理解し、安全のためのビデオの説明を見て、これらに従ってください。
- ユーティリティビークルの目的外使用は避けてください。ユーティリティビークルはレクリエーション用の車両ではありません。
- ユーティリティビークルのタイヤは、オフロード専用で設計されています。舗装された路面では、車両の取り扱いやコントロールに重大な影響を受ける場合があります。舗装された路面で操作する必要がある場合は、ゆっくり走行し、急旋回や急停止はしないでください。
- 凍った湖や池などでは操作しないでください。氷が割れてけがや死亡する恐れがあります。
- 雪面や凍結面で運転する場合は、特に慎重にゆっくり運転してください。
- 道路周辺で作業したり道路を横切るときは速度を下げ、交通に注意してください。見通しの悪い曲がり角、植木の茂み、樹木、その他の視界を遮る物に近づいているときは注意してください。
- オペレータは同乗者がユーティリティビークルでの走行中の正しい安全手順を理解していることを常に確認してください。

- 車道付近で操作する場合は、車両の正しいフラグ、ライト、およびフレクターを使用して他の運転者に注意を促してください。これらが 500 ft (152 m) 先から明確に確認できるようにしておく必要があります。
- 同乗者は必ず手すりにつかまってください。
- 大けがを防止するため、車両を起動する前に必ずシートベルトをしっかりと締めるようにしてください。
- 競馬やレクリエーション用の運転は、死傷事故につながる可能性があります。曲芸的やジャンプなどの操作、または急速に加速しないでください。前輪が上に上がって地面から離れるので危険です。これらの動作は、事故や車両が転倒する原因になります。
- シートの中央に座り、両足は常にフットプラットフォームの範囲内に置きます。フットプラットフォームが汚れたらきれいにし、フットコントロール周辺のごみはすべて除去します。
- エンジン室、特にトランスアスクルの両側にあるブレーキリンケージの周りにごみがないか点検します。
- 操縦は常に両手で行ってください。
- 各コントロールの位置、操作方法、操作対象を理解してください。
- 立ったままの姿勢では絶対にユーティリティビークルを運転しないでください。
- カーゴボックスを上げたままでユーティリティビークルを運転しないでください。
- 車両の操作を始める前にブレーキの効き具合を点検します。必要に応じてブレーキを調整または整備します。
- 適切なブレーキ性能とトラクションを得るために、カーゴボックスがいっぱいでなければ、荷物を積んだトレーラーや付属物を引っ張らないでください。
- 後退にシフトする前に、必ず機械の後ろに障害物や人がいないか点検してください。
- ゆっくりとバックしてください。
- 操作の前に車両を点検します。金具が締まっていることを確認してください。損傷、摩耗、または損失した部品を修理あるいは交換してください。ガードとシールドの状態が良好で所定の位置に固定されていることを確認してください。必要な調整はすべて、作業を開始する前に済ませます。
- 運転中の車両のそばを離れないでください。
- 日中または十分な人工照明のもとで操作し、夜間に走行する場合はライトを使用してください。
- アルコールまたは薬物の影響を受けている場合は、車両を操作しないでください。
- 急発進、急停止、急旋回を避けてください。
- 必ず平らな旋回場所を使用してください。
- 操作中にラジオや音楽用ヘッドフォンを着用しないでください。整備点検および操作を安全に行うには十分な注意が必要です。

スパークアレスタの使用

この機械のエンジンにスパークアレスタマフラーは装備されていません。カリフォルニア公的資金規約 (California Public Resources Code) セクション 4442.5 には次のように記載されています。

安全衛生規約のセクション 13005 ではなく、セクション 4442 または 4443 に従い、何人も誰に対してもいかなる内燃エンジンの販売、販売提案、リース、またはレンタルを行わないこととします。ただし、販売時点またはリース/レンタル契約の開始時点において、森林、雑木林、草地でエンジンを作動させることがセクション 4442 または 4443 に違反することを述べている書面による通知を購入者または受託者に提供している場合を除きます。また、セクション 4442 に定義されているスパークアレスタがエンジンに装備され、正常に作動する状態に維持されているか、セクション 4443 に従って防火用にエンジンが構成、装備、維持されている場合を除きます。カリフォルニア 公的 資金 規約 4442.5。

他の州または管轄地域にも同様の法律が存在する場合があります。各機械のスパークアレスタは認定取扱店から入手できます。取り付けられたスパークアレスタは、オペレータが正常に作動する状態に維持する必要があります。

安全な駐車

1. 車両を傾斜地ではなく、水平な場所に停止させます。
2. ギアシフトレバーをファースト位置か後退位置に入れます。
3. パーキングブレーキをロックします。
4. エンジンを停止します。
5. キーを抜きます。
6. 運転席から離れる前に、エンジンおよびすべての可動部が停止するのを待ちます。
7. 機械の整備前に、バッテリーのマイナスケーブルの接続を外すか、スパークプラグ配線を外します (ガソリンエンジンの場合)。

子供の保護と事故の防止



- 16 歳以下の者がこのユーティリティビークルを操作することは許されていません。
- 若年の運転者は機械の制御が身体的にできなかったり、安全運転の心がけが十分でない場合があります。
- 子供を同乗者として乗せないでください。子供は同乗者シートに安全に座ったり、ハンドホールドを正しく使用できない可能性があります。
- 同乗者は、運転中は必ずハンドホールドを使用してください。

- ユーティリティビークルに取り付けられている、乗員保護構造 (OPS) を備えたシートベルトは子どもをおさえるようには設計されていません。
- 同乗者、特に子供をカーゴボックスエリアには絶対に乗せないでください。またカートやトレーラに子供を乗せて引っ張ってはいけません。
- 絶対に子供が同じ場所にじっとしているだろうと考えないでください。子供の存在に常に注意してください。
- 後退または旋回する前には、子供がいらないかユーティリティビークルの後ろと周りを見てください。
- 前進および後退とも、常に細心の注意を払ってください。特に子供は、運転席にすぐに入ってきます。
- 見通しの悪いコーナー、植木の茂み、生い茂った木、その他の視界を遮る物の近くを走行する場合には、十分注意して下さい。
- 不正な使用やレクリエーションのような運転は、けがや死亡事故を引き起こす可能性があります。

シートベルトの適切な着用



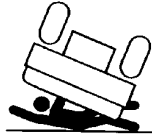
- 転倒時保護構造 (ROPS) の機械を操作する際はシートベルトを使用し、転倒などの事故によるけがの危険性を最小限にしてください。
- シートベルトの改造、分解、修理は絶対に行わないでください。
- シートベルトの取り付け具、バックル、ベルト、引き込み部に損傷の見られる場合は、シートベルト全体を交換してください。
- シートベルトと取り付け金具は少なくとも年に 1 回点検してください。金具の緩みや、ベルトの傷み (切れ、ほつれ、過剰または異常な擦り切れ、変色、摩耗など) の兆候に注意してください。John Deere 認定の交換部品のみを使用してください。
- 厚目の衣服の重ね着はシートベルトの正しい位置決め障害となり、ベルトの効果が低減する可能性があります。

ROPS (転倒時保護構造) の適切な取り付けの維持

- ROPS を取り付けしていない機械を絶対に運転しないでください。
- ROPS の構造が緩んでいたり、何らかの理由で取り外されている場合には、ROPS のすべての部品が正しく取り付けられていることを確認します。ROPS のすべての金具は、メーカー推奨事項にある適切なトルクで締め付けられている必要があります。
- ROPS の改造にはメーカーの承認が必要です。ROPS が構造的な損傷を受けた場合、横転事故にあった場合、または溶接、曲げ、穴あけ、または切断により何らかの改造を施された場合、ROPS の保護機能が損なわれます。

- シートは ROPS の安全ゾーンの一部です。John Deere 認定のシートのみを交換してください。
- 損傷あるいは改造された ROPS は、絶対に修理しようとししないでください。メーカーの認定を維持するのに交換は必要です。

転倒の防止



ユーティリティビークルが転倒すると、重大な怪我や死亡事故が発生するおそれがあります。以下の点に注意して事故を防止してください。

- ユーティリティビークルの目的外使用は避けてください。ユーティリティビークルは娯楽用に設計されていません。
- 旋回時は速度を十分に下げてください。急旋回すると車両が転倒するおそれがあります。
- 傾斜地や粗い地面では速度を落とし、最大限の注意を払ってください。
- 車両への負荷の超過を避け、負荷を移動させないでください。粗い地形や丘陵地で操作する際は負荷を減らしてください。
- 上り坂や下り坂では急停止や急発進をしないでください。傾斜地で方向変換する際は特に注意してください。
- 穴、岩、その他の地形に隠れている障害物がないか注意してください。
- 急斜面、溝、盛り土や、池などの水が多い場所に近づかないでください。ホイールが崖や溝の縁を越えたり地盤の陥没部にはまると、機械が突然横転する可能性があります。
- 坂の頂上や隆起を越える際は、前輪をまっすぐ維持してください。
- 下り坂では、アクセルから足を離してブレーキをかけて減速しながら、制御を維持してください。
- ユーティリティビークルの変更や改造をしないでください。

同乗者の禁止



- 座席はオペレータと他に成人同乗者 1 人分があります。
- シートが取り付けられていないカーゴボックスやその他の場所に絶対に人を乗せないでください。

- 同乗者は、異物に当たったり、車両から投げ出されたりしてけがを負い、重大な損傷や死亡に至ることもあります。
- 同乗者は、オペレータの車両制御能力と車両の重心に影響を及ぼします。また、同乗者はオペレータの視界の妨げとなり、車両の安全運転が損なわれます。

荷物の安全な輸送

- 荷物がカーゴボックスに均等に配置されていることを確認します。
- 積載ガードを超えて積載しないでください。
- カーゴボックスのすべての荷物をしっかりと固定してください。
- 凹凸や傾斜が多い地形で運転するときは、カーゴボックスの荷物を減らします。

ユーティリティビークルでの荷物の安全な牽引

- 十分なブレーキ能力とトラクションを維持するため、牽引する荷物の重量 (トレーラー + 積み荷) は車両の有効積載量 (オペレータ + 同乗者 + カーゴボックス荷重) を絶対に超えないでください。
- このオペレータマニュアルで指定されている、この車両の最大許容牽引荷重を超えた荷物を牽引しないでください。
- 停車距離は、速度、牽引物の重量に伴い長くなります。ゆっくりと走行し、停止するまでの時間と距離の余裕を確保してください。
- コントロールが維持できる十分ゆっくりした速度で牽引します。
- 牽引荷重が過大な場合、トラクションが失われたり、傾斜地で制御できなくなる可能性があります。傾斜地での運転時は牽引重量を減らしてください。
- 被牽引装置に子供や他の人を絶対に乗せないでください。
- 認可されているヒッチのみを使用してください。牽引用のヒッチを備えた機械でのみ牽引してください。認可されたヒッチポイント以外の場所に被牽引装置を取り付けしないでください。
- 牽引式装置および傾斜地での牽引時の重量制限については、メーカーの推奨事項に従ってください。
- 牽引荷重がある状態で傾斜地を後退できない場合は、牽引荷重に対し傾斜がきつすぎます。牽引負荷を減らすか、運転しないでください。
- 急旋回しないでください。路面条件の悪いところでの方向転換や運転では、さらに注意してください。後退するときは、十分注意してください。
- 下り坂でギアをニュートラルに入れて惰走しないでください。

運転前

1. フットプラットフォームが汚れたらきれいにし、フットコントロール周辺のごみはすべて除去します。シートの中央に座り、両足は常にフットプラットフォームの範囲内に置きます。
2. ユーティリティビークルに摩耗や損傷がないか点検します。
3. 全ての安全装置が良好な状態で、所定の位置に固定されている必要があります：
 - ライト
 - シールド
 - 安全スタート装置
4. 走行する前に、ユーティリティビークルの周囲を点検し、近くに誰もいないことを確認してください。
5. 使用前には必ず車両の機械の状態を点検し、けがや作動できなくなり立ち往生する可能性を最小限にします。1日歩いて移動できる距離よりも多くを1時間で走行できることを銘記してください。
タイヤ、ホイール、ホイールの金具のトルクの状態を必ず点検して、適切なタイヤ圧を維持してください。
6. すべての荷物をしっかりと固定してください。

起伏の多い地形での運転



- 地面に付けられたタイヤの跡を走行してください。危険な傾斜地や通り抜けられない沼地を避けてください。盛り上がり、穴、溝、柔らかい地面、障害物などには十分注意してください。
- 真っ直ぐ前を見てください。起こることを予測して、反応できるようにしてください。危険領域を警戒してください。
- 坂の頂上や隆起を越える際は、前輪をまっすぐ維持してください。
- タイヤの跡、地面、視界条件に合わせて、速度を落としてください。
- 同乗者は必ず手すりにつかまってください。

坂の上り下り



- 坂を下りるとき、ユーティリティビークルは速度アップ(フリーホイール)する場合があるので、坂を下りる際は必ずブレーキを使用してください。エンジンまたはクラッチのブレーキ効率は最小限です。

- 積載物を均等にバランスよく載せて固定してください。ブレーキをかけると積載物が荷崩れして、車両が不安定になります。
- シートの中央に座り、両足はフットプラットフォームの範囲内に置きます。
- 視界の制限を超えた運転は絶対にしないでください。坂の頂上付近では、反対側がよく見えるようになるまで、速度を落としてください。坂を高速では絶対に越えないでください。坂の向こう側には、障害物、落下物、他の車両、または人がいる場合があります。
- 坂の頂上や隆起を越える際は、前輪をまっすぐ維持してください。
- 上り坂や下り坂では急停止や急発進をしないでください。傾斜地で方向変換する際は特に注意してください。
- 坂を上っている途中で車両が停止またはガス欠になった場合は、パーキングブレーキをロックして、車両を傾斜面で維持します。走行方向を維持し、ブレーキをゆっくりと解除します。制御を保ちながら、ゆっくりと坂をまっすぐ後ろに下ります。車両を横向きにしないでください。車両はまっすぐ前または後ろを向いた位置にある方が安定します。
- 下り坂では、アクセルから足を離してブレーキをかけて減速しながら、制御を維持してください。

斜面を横切る運転



- 速度を落として、傾斜と急旋回に注意してください。
- 穴、岩、その他の地形に隠れている障害物がないか注意してください。
- 柔らかい地面上を運転するときは、前輪をわずかに上り坂側に向け、坂を横切る直線上にユーティリティビークルを維持します。
- ユーティリティビークルが傾き始めたら、前輪を下り坂側に向け、コントロールを確保してから操作を続けます。

水域での運転

- 水域はできる限り運転を避けてください。
- 深さのわからない水域を渡らないでください。運転のガイドラインとして、152 mm (6 in) を超える水深を深い水域と呼ぶことにします。タイヤが浮く可能性があるため、制御を保つのが難しくなります。
- 両岸が徐々に傾斜した水路の中のコースを選んでください。安全とされている地点を渡ります。
- 水面下の障害物と滑りやすい岩を避けるために、ゆっくりと一定の速度で運転します。
- ユーティリティビークルの運転で、水路の床を損傷したり、水路の縁を壊したりする原因になる水域を渡ることは避けてください。

ホイール金具の点検

- ホイール金具がきちんと締めつけられていないと重大な事故が発生して大けがをするおそれがあります。
- 最初の 100 運転時間の間は、ホイール金具の締め具合を頻繁に点検してください。
- ホイール金具が緩んでいるときは常に、適切な手順に従って規定のトルクで締め付ける必要があります。

適切な衣服の着用



- ぴったりした衣類と作業に適した安全具を着用してください。
- 操作条件によっては、車両の操作中にオペレータと同乗者が適切な安全具を着用する必要があります。作業機を操作する前に、経験済みの状況や発生する可能性がある状況に対して十分に準備してください。
- 現地の安全規制により、保護メガネやヘルメット等の追加安全具の着用が求められる場合があります。
- 必ず厚手の靴と長ズボンを着用してください。裸足やサンダル履きで装置を操作しないでください。

回転している駆動系に近づかない



回転しているドライブラインに巻き込まれると、深刻な人身事故につながる可能性があります。

- ぴったりした衣類を着用してください。
- PTO に近づく前にエンジンを停止し、PTO ドライブラインが停止したことを確認してください。

高圧流体の回避



- 物理的な損傷、ねじれ、経時変化、暴露により油圧ホースやラインが破損する場合があります。ホースやラインを定期的に点検してください。損傷しているホースやラインは交換してください。
- 作動油の接続部は物理的な損傷や振動により緩む可能性があります。定期的に接続部を点検してください。緩んだ接続部を締め付けます。
- 圧力のかかった液体が噴き出すと、皮膚に侵入して大けがをする恐れがあります。油圧パイプや他のパイプを外す前に圧力を解放して、危険を回避してください。また、圧力をかける前にすべての接続をしっかりと締めてください。
- ポール紙で漏れを探してください。手や身体を高圧流体から保護してください。
- 事故が発生した場合は、直ちに医師の診察を受けてください。皮膚にかかった液体は、数時間以内に外科的に除去する必要があります。除去しないと、壊疽を引き起こす場合があります。このような外傷に慣れていない医師は、専門医療機関に問い合わせてください。このような情報は、Deere & Company Medical Department (Moline, Illinois, U.S.A) から入手可能です。米国およびカナダでこの情報を得るには、1-800-822-8262 までお電話ください。

安全メンテナンスの実行



- 資格を備え、訓練を受けた成人に限り本作業機の整備を行ってください。
- 作業を開始する前に、整備の手順を確認してください。作業域を清潔で乾いた状態に保ってください。
- 機械が動いている間は、絶対に潤滑、整備、調整を行わないでください。安全装置を所定の位置に取り付け、良好な作動状態に維持してください。
- 手、足、衣類、装飾品、長髪を可動部品から遠ざけて、巻き込まれないようにしてください。
- 修理を行う前に、バッテリーの接続を外すか、スパークプラグワイヤ (ガソリンエンジンの場合) を取り外してください。
- ナットとボルトはすべて締め付けた状態に保ちます。
- 整備作業で持ち上げる必要のある機械部品はしっかりと支持してください。アタッチメントが上昇した状態の機械を整備する前に、整備用ラッチをロックしてください。

- パーキングブレーキをかけていない場合は絶対にエンジンを作動させないでください。
- すべての部品を良好な状態、および正しく取り付けられた状態に保ってください。破損は速やかに修理してください。摩耗、または破損している部品は交換してください。磨耗、または破損している安全指示ステッカーはすべて交換してください。
- 火災防止のため、機械（特にエンジン）からたまっているグリース、オイル、ごみをすべて取り除いてください。
- 機械や安全装置を改造しないでください。認可されていない改造を行うと、機能や安全性が損なわれる恐れがあります。
- 機械の整備中にラジオや音楽用ヘッドフォンを着用しないでください。安全な整備のためには最大限の注意が必要です。
- 機械の溶接前に機械のバッテリーアースケーブル (-) の接続を外すか、機械からアタッチメントを取り外します。

火災予防

- 冷める前に機械を保管した場合、機械の重要な部分からごみを取り除いていない場合、または可燃物の近くに機械を保管した場合、機械や構造物の火災が発生する恐れがあります。
- 機械操作の前後にエンジンルームとマフラー周辺から草やごみを取り除きます。
- 機械に燃料遮断機能がある場合は、機械を保管または輸送するときに必ず燃料を遮断します。
- 給湯器やボイラーなどの直火や点火源の近くに機械を保管しないでください。
- 燃料ライン、タンク、キャップ、継手に亀裂や漏れがないか頻繁に点検します。必要に応じて交換します。

機械を改造しないでください。

認可されていない改造は、いかなるものであっても機械に対して行わないでください。

改造によって機械が不安定になることがあり、転倒する危険性が高まり、重大な身体障害や死亡事故につながります。

タイヤの安全

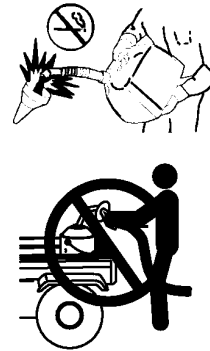


タイヤやリム部品の破裂は死傷事故の原因となることがあります。

- 適切な装置と十分な経験がない場合は、タイヤの取り付けを行わないでください。
- 常に正しいタイヤ空気圧を維持してください。推奨タイヤ空気圧を超えてタイヤに空気を入れないでください。決して、ホイールおよびタイヤアセンブリを溶接したり加熱したりしないでください。加熱すると空気圧が上がり、タイヤが爆発します。溶接すると、ホイールが構造的に弱くなったり、変形することがあります。

- タイヤに空気を入れるときは、クリップオン式のチャックと、タイヤアセンブリの前や上ではなく片側に立つことができる程度に十分長い延長ホースを使用してください。
- タイヤに圧不足、切れ、泡、リムの損傷、ラグボルトとナットの不足がないか点検します。

燃料の安全な取り扱い



けがや器物破損の防止のため、燃料の取扱いは慎重に行ってください。燃料は非常に引火性が高く、燃料蒸気は爆発性があります。

- タバコ、葉巻、パイプ、その他の発火の原因となるものをすべて消してください。
- 認定された燃料容器のみを使用してください。Underwriter's Laboratory (UL) または米国試験材料協会 (ASTM) により認定された非金属のポータブル燃料容器のみを使用してください。じょうごを使用する場合は、プラスチック製であり、金網やフィルタがないことを確認してください。
- エンジン運転中は、絶対に燃料タンクのキャップを取り外したり、燃料を追加したりしないでください。燃料を補給する前にエンジンが冷めるまで待ちます。
- 絶対に屋内で機械に燃料を追加したり、燃料を抜き取ったりしないでください。機械を屋外に出し、適切な換気措置をとってください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。燃料が衣服にこぼれた場合は、すぐに着替えてください。機械の近くに燃料がこぼれた場合は、エンジンを始動しないで、こぼれた場所から機械を遠ざけてください。燃料蒸気が消散するまで、発火の原因を作らないでください。
- 絶対に直火、火花、または給湯器その他の電気器具内などの点火用ライトがあるところに機械または燃料容器を保管しないでください。
- 静電気放電による火災や爆発を防止してください。静電気放電により、アース接続されていない燃料容器内の燃料蒸気に点火する可能性があります。
- 車両内またはトラックやトレーラーのプラスチックライナー付き荷台の上では絶対に容器に注入しないでください。燃料を補充する前に、必ず車両から離れた地面の上に容器を置いてください。
- 燃料駆動の装置はトラックやトレーラーから移動させ、地面の上で燃料を補充してください。これが不可能な場合は、燃料ディスペンサノズルからではなく携帯容器でこれらの装置に燃料を補充してください。

- 燃料補充が完了するまで、ノズルを燃料タンクの縁や容器の開口部に常に接触させてください。ノズルロック開放装置は使用しないでください。
- 絶対に燃料タンクに入れすぎないでください。燃料タンクにキャップを戻してしっかり締めます。
- 使用後は燃料容器のキャップをすべて確実に戻してください。
- ガソリンエンジンの場合、メタノール混合ガソリンを使用しないでください。メタノールは健康と環境に有害です。

廃棄物と薬剤の取り扱い

使用済みのオイル、燃料、クーラント、ブレーキ液、バッテリーなどの廃棄物は環境および人にとって有害です。

- 飲料容器を廃液に使用しないでください。誤飲の恐れがあります。
- 廃棄物のリサイクルや処分の方法については、現地のリサイクルセンターまたは認定取扱店にお問い合わせください。
- 製品安全データシート (MSDS) は、化学製品に関する具体的な情報を提供します。物理的危険や健康上の危険、安全手順、緊急時の対処方法が記載されています。各機械で使用されている薬剤製品の販売業者はその製品の MSDS を提供する責任があります。

リフトシリンダ安全支持具の使用

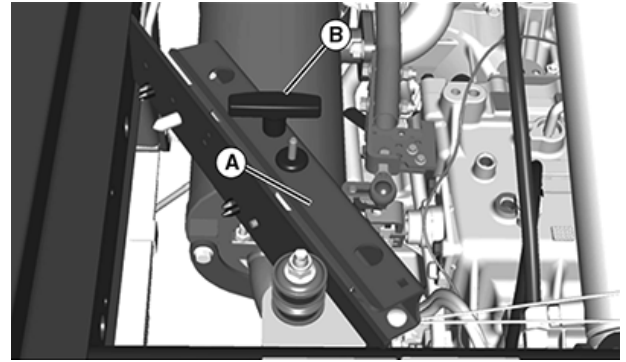
車両を安全に整備するため、必ずリフトシリンダ安全支持具を使用してください。

⚠ 警戒：アタッチメントは重量があるため危険です。

- 整備の前に、持ち上げたアタッチメントを機械式ロックか他の安全な方法で支持してください。
- 整備の前にアタッチメントからすべての材料を空にしてください。

取り付け：

1. アタッチメントを空にします。
2. アタッチメントを整備位置まで完全に上げます。
3. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」参照。）



4. ハンドル (B) を使用して、車両後部左側の保管位置から安全指示具 (A) を取り外します。



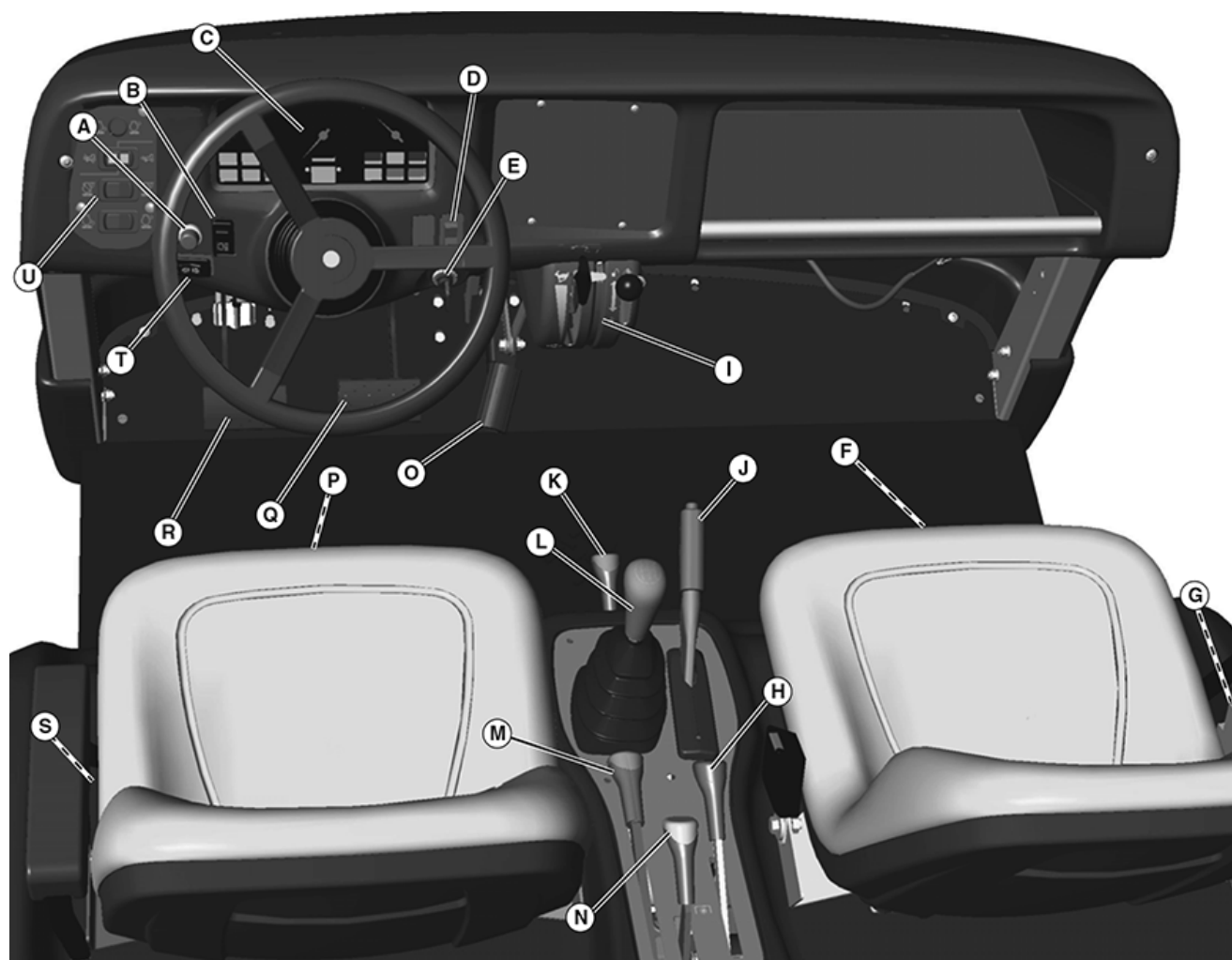
5. リフトシリンダロッド (B) に安全指示具を取り付けます。安全指示具のゴム製グロメット (C) の間にリフトシリンダロッドが正しくはまっていることを確認します。

取り外し：

1. リフトシリンダロッドから安全支持具を取り外します。
2. 安全指示具を保管位置に戻します。
3. アタッチメントを下ろします。

コントロール類の操作

オペレータステーションのコントロール類



キー	説明
----	----

A	ホーン
B	ライトスイッチ
C	計器盤
D	ハザードスイッチ (オプション)
E	キースイッチ
F	助手席調整レバー
G	助手席シートベルト
H	リフトシリンダレバー
I	スロットルガバナークontrol (ディーゼルモデルオプション)
J	パーキングブレーキレバー

キー	説明
----	----

K	2WD/4WD レバー (オプション)
L	ギアシフトレバー
M	デフロックレバー (トラクションアシスト)
N	油圧 PTO レバー (オプション)
O	アクセルペダル
P	オペレータシート調整レバー
Q	ブレーキペダル
R	クラッチペダル
S	運転者用シートベルト
T	方向指示器スイッチ (オプション)
U	マルチモードスロットルコントロール (ガソリンモデルオプション)

日常運転チェックリスト

- 安全インターロックシステムをテストします。
- タイヤを点検し、空気圧をチェックします。
- 機械からごみを取り除きます。
- 部品に緩み、欠損、損傷がないか点検します。
- エンジンオイルレベルとオイル漏れがないかを点検します。
- トランスアクスルオイルレベルとオイル漏れがないかを点検します。
- クーラントレベルとクーラント漏れがないかを点検します。
- 吸気スクリーンとファンシュラウドを点検して清掃します。
- 燃料タンクレベルと燃料漏れがないかを点検します。
- 機械の下部分で漏れがないかを点検します。

プラスチック面や塗装面の損傷の回避

- 最初に水で洗っていない限り、プラスチック部品を拭かないでください。乾いた布を使用すると、傷の原因になります。
- 防虫スプレーは、プラスチックや塗装面を傷める可能性があります。機械の近くで防虫剤を噴霧しないでください。
- 機械に燃料をこぼさないように注意してください。燃料は機械の面を傷める可能性があります。こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。
- 長期にわたって日光にさらされると、ボンネット面が損傷します。

シートの調整

1. 運転席または助手席に座ります。



2. レバー (A) を左に引き、保持します。
3. シートを前後にずらし、希望の位置にします。
4. レバーを放します。

シートベルトの着用

⚠ 警戒： 転倒時保護構造 (ROPS) やキャビン付きの機械を操作する際は必ずシートベルトを着用してください。機械が傾いたときは、機械から飛び降りないでください。

シートベルトを接続するには：



- 一回の連続した動きでシートベルトをリトラクタ (A) から引き、腰と胸にぴったり合わせます。

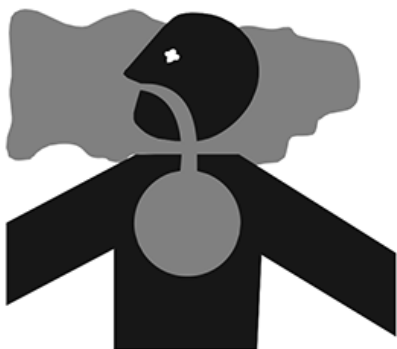
注記：シートベルトが短くてラッチに挿入できない場合は、リトラクタに戻してからもう一度引き出します。

- バックルをシートの反対側のラッチ (B) に挿入します。ラッチに正しく挿入すると、カチッという音がするはずです。

シートベルトの接続を外すには：

- 赤いボタン (C) を押します。シートベルトをリトラクタに戻します。

安全システムのテスト



⚠ 警戒：エンジンの排気ガスは一酸化炭素を含んでおり、深刻な病気や死亡事故の原因になります。

• エンジンを運転する前に、機械を屋外に移動させてください。

• 適切な換気装置がない密閉された場所ではエンジンを運転しないでください。

• エンジンの排気管に延長管を接続して、排気ガスをエリア外に排出してください。

• 屋外の新鮮な空気を作業エリアに取り込み、排気ガスを除去してください。

機械を使用する前に、機械に装備されている安全システムを点検する必要があります。これらの安全システムの点検を実施する前に、機械のオペレータマニュアルをよく読み、機械の運転を完全に習得してください。

機械の通常の運転のための点検手順については、以下に従ってください。

これらの手順中に故障が確認された場合は、機械を運転しないでください。整備については、認定された取扱店にお問い合わせください。

これらのテストは、開放されたエリアで行ってください。関係者以外は近づけないでください。

シートとパーキングブレーキスイッチのテスト

1. オペレータがシートに着席します。
2. パーキングブレーキをロックします。
3. ギアシフトレバーを「ニュートラル」位置に動かします。
4. エンジンを始動します。

5. エンジンをスローアイドル状態にして、シートで腰を上げます。
6. エンジンが作動し続けます。
7. オペレータがシートに着席します。
8. パーキングブレーキのロックを解除します。
9. シートから腰を上げます。

結果：エンジンは5秒で停止します。エンジンが停止しない場合、安全インターロック回路に問題があります。その場合は認定取扱店にお問い合わせください。

ニュートラルスイッチのテスト

1. オペレータがシートに着席します。
2. パーキングブレーキをロックします。
3. ギアシフトレバーを「R」(後退)の位置に動かします。
4. キースイッチを始動位置に回します。
5. エンジンはクランクしてはいけません。
6. それぞれのギアにシフトレバーを入れて、始動を繰り返します。
7. エンジンはクランクしてはいけません。
8. ギアシフトレバーを「ニュートラル」位置に動かします。
9. キースイッチを始動位置に回します。

結果：エンジンはクランクします。ギアシフトレバーが「ニュートラル」以外の位置にあるときにエンジンが始動する場合は、安全インターロック回路に問題があります。その場合は認定取扱店にお問い合わせください。

補助油圧システムスイッチのテスト

⚠ 警戒：PTO インターロックスイッチは、PTO コントロールレバーが ON 位置にあるときに、補助クイックカブラーへの供給圧力を除去してエンジンの始動を防止するように設計されている安全機能です。PTO インターロックシステムが故障または接続されていない場合は、絶対に車両を操作しないでください。車両の始動時に、補助アタッチメントが突然急発進する場合があります。

注記：車両後部の補助油圧クイックカブラーに、いかなるアタッチメントも接続されていないことを確認します。

1. オペレータがシートに着席します。
2. パーキングブレーキをロックします。
3. ギアシフトレバーを「ニュートラル」位置に動かします。
4. 油圧 PTO レバーを ON 位置まで引き上げます。
5. キースイッチを始動位置に回します。

結果：エンジンはクランクしてはいけません。エンジンがスタートする場合は、安全インターロック回路に問題があります。認定取扱店にお問い合わせください。

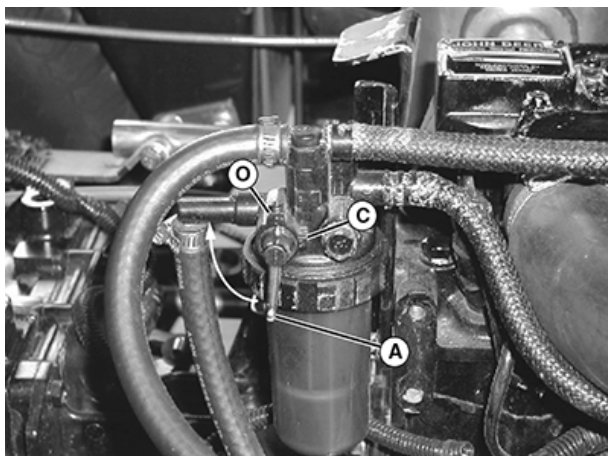
ライトスイッチの使用

注記：エンジンを始動していないときに長時間ヘッドライトを使用すると、バッテリーが消耗します。

1. ロッカースイッチの上部を押すと、点灯します。
2. ロッカースイッチの下部を押すと、消灯します。

燃料シャットオフバルブの使用 (ディーゼルモデル)

1. エンジンの右側にある燃料フィルタセグメントボウルアセンブリの位置を確認します。



「開」位置の燃料シャットオフバルブ。

2. 2 ポジションの燃料シャットオフバルブのレバー (A) を「O」 (開) 位置か「C」 (閉) 位置に回します。

「C」 (閉) 位置

- エンジンの整備を行う場合。
- 輸送中。
- 長期保管中。

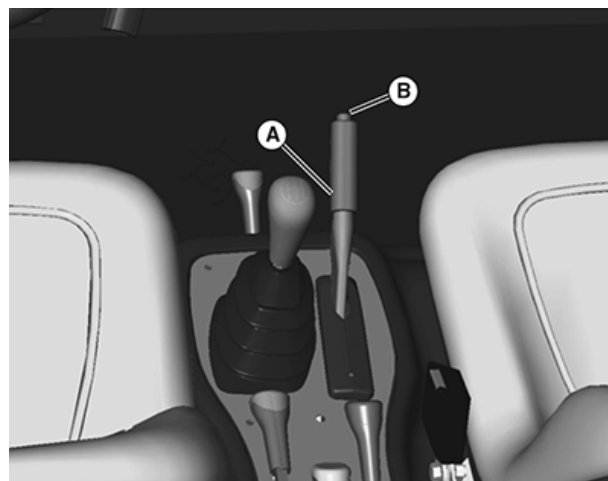
「O」 (開) 位置

- 燃料をエンジンに正しく供給するには、燃料シャットオフバルブが「全開」になっていなければなりません。

パーキングブレーキの使用

- ⚠ 警戒：**ユーティリティビークルから離れる場合は、必ずパーキングブレーキをロックしてください。パーキングブレーキがロックされていない場合は、無人で車両が動き出す場合があります。

パーキングブレーキをロックするには



- レバー (A) を引き上げてラッチを所定の位置に入れます。

パーキングブレーキのロックを解除するには

- レバー (A) を引き上げます。
- ボタン (B) を押し下げます。
- レバー (A) を完全に押し下げます。計器盤の表示灯が消えます。

デフロックレバーの使用

- ⚠ 警戒：**デフロックがかかっている場合は、車両が転倒しやすくなります。傾斜面や坂で車両の方向を変えようとしないでください。車両を高速運転しないでください。

デフロックは、車両の後輪がスリップし始めた際により良いトラクションを得るために使用します。デフロックレバーをかけると、左右のリア車軸がいっしょにロックされ、最大のトラクションを得るために両方の後輪が同じ速度で回転することになります。

- 重要：**ディファレンシャルの損傷防止のために、どちらかの後輪がスリップしているときはデフロックをかけないでください。

注記：デフロックがかかっている場合は、車両の回転半径が長くなります。

デフロックをかけるには：

- 車両を停止します。
- デフロックレバーを引き上げ、上げた位置に保ちます。後輪がスリップする間は、上げた位置にレバーを保ちます。

デフロックを解除するには：

- デフロックレバーを下げます。

4 輪駆動 (4WD) の使用

これは手動シフトの 4WD システムで、パワートレインで後輪に加えて前輪も駆動し、悪条件の地面でのトラクションを改善します。

4WD の損傷を避けるため、仕様に一覧表示されたタイヤのみ使用してください。

4WD の作動と停止

重要：後輪がスリップしているときは 4WD を作動させないでください。内部ギアが損傷する場合があります。4WD を作動させるには、機械を停止するか、一定の速度で一直線に走行する必要があります。

- 4WD レバーを押し下げて、オンにします。
- 4WD レバーを引き上げて、オフにします。前進している場合は、4WD を解除するためにアクセルから一瞬足を離すことが必要な場合もあります。

4WD の操作のヒント：

- すべての路面条件で最適な性能を得るには、前輪と後輪で推奨されているタイヤ圧を維持します。
- 舗装された路面や固い路面を機械で走行するときは、フロントタイヤの耐用期間を延ばし、駆動系の摩耗を減らすために 4WD をオフにします。

油圧 PTO コントロールレバーの使用

この操作手順は、補助油圧キットが装備されている車両用です。油圧 PTO レバーをかけると、その機能を必要とするアタッチメントに補助油圧を提供します。

PTO がかけられると、ダッシュボードの表示灯が点灯します。

重要：補助アタッチメントが接続されていない場合は、PTO コントロールレバーを操作しないでください。油圧流量はブロックされ、圧力は油圧コントロールバルブのリリーフポートを介してバイパスされるので、過熱状態が発生し、構成部品が故障する可能性があります。

使用する前には必ず補助油圧オイルレベルを点検してください。

油圧 PTO をかけるには：

- 油圧 PTO レバーを ON 位置まで引き上げます。

油圧 PTO を解除するには：

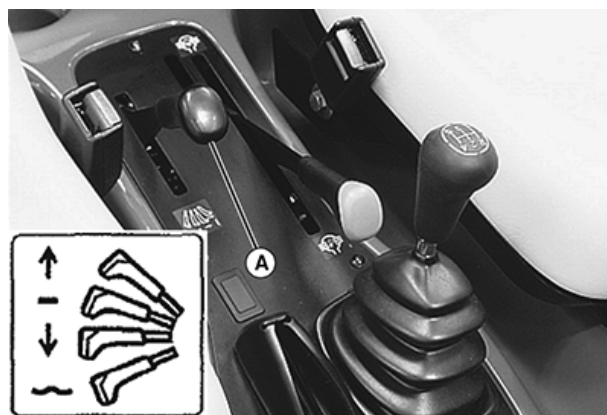
- 油圧 PTO レバーを OFF 位置に押し下します。

リフトシリンダレバーの使用

⚠ 警戒：カーゴボックスを持ち上げる前に、車両が硬く平らな面にあり、パーキングブレーキがロックされていることを確認してください。カーゴボックスを持ち上げた状態で車両が坂を上る場合は、カーゴボックスの重量によって車両が転倒する恐れがあります。リフトシリンダ安全支持具が適切に取り付けられていない場合は、持ち上げられたアタッチメントの下で整備機能を実行しないでください。

アタッチメントを上げるには

1. エンジンを始動します。



2. アタッチメントを持ち上げるには、レバー (A) を後ろに引いて保持します。
3. レバーを放します。レバーは「ニュートラル」位置に戻り、リフトシリンダが定位置にロックされた状態で、アタッチメントが所定の位置に保たれます。

アタッチメントを下ろすには

注記：エンジンが運転または停止している状態でアタッチメントを下ろすことができ、リフトシリンダは収縮します。

1. アタッチメントが下ろされる、あるいは目標位置に置かれるまで、レバーを押し続けます。
2. レバーを放します。レバーは「ニュートラル」位置に戻り、リフトシリンダが定位置にロックされた状態で、アタッチメントが所定の位置に保たれます。

注記：補助油圧 PTO がかった状態で機械を操作する場合は、アタッチメントが下ろされた後に一瞬間、リフトシリンダレバーを下にしておくことをお勧めします。リフトシリンダが所定の位置にロックする、リフトシリンダプールの負荷点検チェックがしっかり行われます。

テールゲートリリースキットが取り付けられているカーゴボックスアタッチメントの付いた機械を操作する場合、ボックスが下ろされた後に一瞬間リフトシリンダレバーを下にしておく必要があります。これはテールゲートをロックし、テールゲートのガタ音を解消します。

アタッチメントをフロートにするには

注記：フロート位置は、付属装置の下付しているアース端子で使用するためにリフト・シリンダを自由に動くようにします。

フロート位置にリフトシリンダレバーを置くと、持ち上げられていたアタッチメントが完全に下になるまで重力によって下ろされます。持ち上げた荷物を完全に制御するために、アタッチメントを下ろすのにフロート位置を使用しないことをお勧めします。

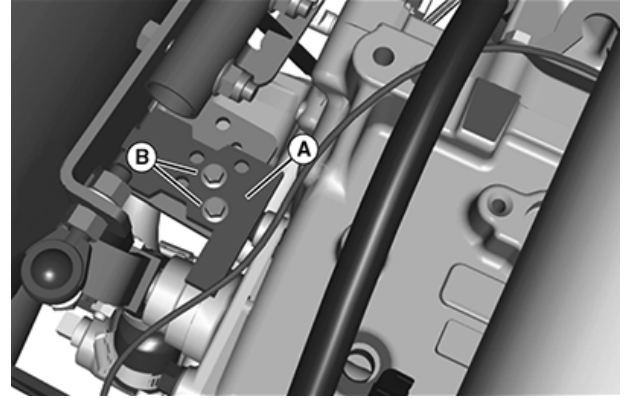
1. レバー (A) を押して、「下部」位置を超えます。さらに力を加えて、レバーを押してデテントを過ぎ、レバーをフロート位置にロックします。
2. レバーを引き上げてフロート位置を解放します。
3. レバーを放します。レバーは「ニュートラル」位置に戻り、リフトシリンダが定位置にロックされた状態で、アタッチメントが所定の位置に保たれます。

4 速/5 速のギアロックアウトの使用

⚠ 警戒：ブレーキ操作や旋回の前、積荷の運搬時、および障害物の周辺や危険なオフロード条件での作動中は、減速してください。

注記：ギアロックアウトの設定には、リア車軸の上で、トランスミッションの左側にあるトランスミッションシフト入力シャフトへのアクセスが必要です。アタッチメントが取り付けられている場合は、アタッチメントを空にして整備位置まで持ち上げ、安全に停車し（「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の使用」参照）、安全支持具を取り付けます。

4 速/5 速のギアロックアウトを設定する前に、車両が硬く平らな面にあり、パーキングブレーキがロックされていて、トランスミッションが「ニュートラル」位置にあり、キースイッチが「停止」位置に回されていることを確認してください。



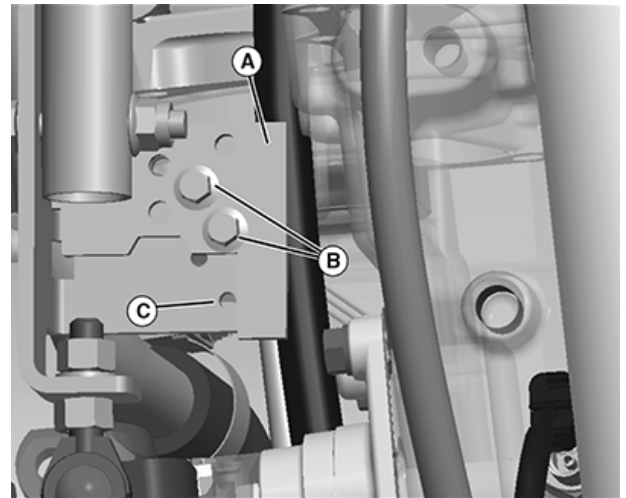
この車両には 4 速/5 速のギアロックアウト用のロックブラケット機能 (A) が装備されています。運転条件によっては、車両対地速度制限中に 4 速/5 速のギアの使用を防止することをお勧めします。

ロックアウト機能はすべてのギアを使用できる状態に工場で設定されています。ロックアウト機能の使用には、2 個の工場ねじ (B) の取り外しと直径 4.8 mm (3/16 in) の掛け金の南京錠の取り付けが必要です。

注記：南京錠は車両に付属していません。

5 速のギアをロックアウトするには：

注記：4 速/5 速のギアロックアウトを設定する前に、車両が硬く平らな面にあり、パーキングブレーキがロックされていて、トランスミッションが「ニュートラル」位置にあり、キースイッチが「停止」位置に回されていることを確認してください。

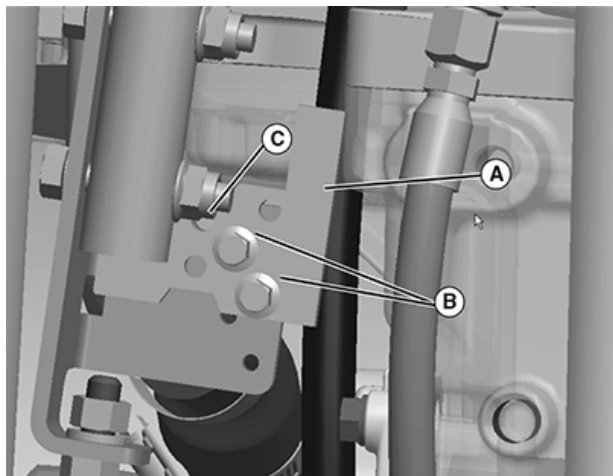


注記：車両のトランスミッションがすでに 5 速ギアになっている場合は、ロックが作動しません。

1. ギアシフトレバーを 5 速ギア以外の位置に動かします。
2. ロックブラケット (A) から南京錠 (取り付けがある場合) のロックを解除し、取り外します。

3. ロックブラケットを図のように配置し、ねじ 2 本 (B) で固定します。
4. 南京錠をロックブラケットスロット (C) に取り付けます。
5. 安全支持具を取り外して、アタッチメントを下ろします。

4 速と 5 速のギアをロックアウトするには：

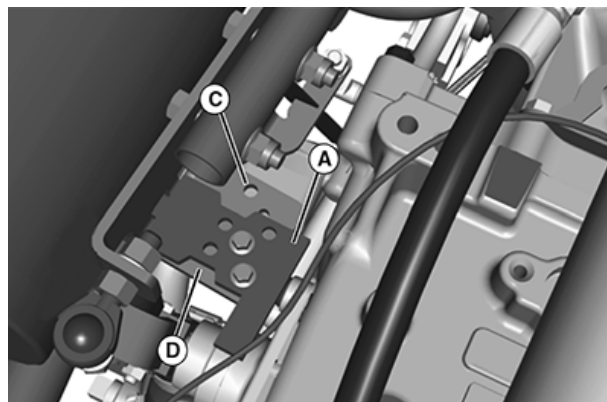


注記：車両のトランスミッションがすでに 4 速または 5 速ギアになっている場合は、ロックが作動しません。

1. ギアシフトレバーを 4 速または 5 速ギア以外の位置に動かします。
2. ロックブラケット (A) から南京錠 (取り付け有る場合) のロックを解除し、取り外します。
3. ロックブラケットを図のように配置し、ねじ 2 本 (B) で固定します。
4. 南京錠をロックブラケットスロット (C) に取り付けます。
5. 安全支持具を取り外して、アタッチメントを下ろします。

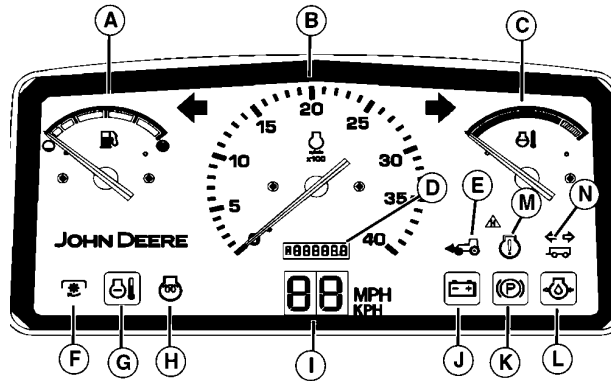
4 速/5 速ギアのロックを解除するには：

注記：ギアロックアウトの設定には、リア車軸の上で、トランスミッションの左側にあるトランスミッションシフト入力シャフトへのアクセスが必要です。アタッチメントが取り付けられている場合は、アタッチメントを空にして整備位置まで持ち上げ、安全に停車し (「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の使用」参照)、安全支持具を取り付けます。



1. 南京錠のロックを解除し、取り外します。
2. ねじを取り外して、図のようにスロットをシフトブラケット (D) の穴に合わせながら、ロックブラケット (A) を後ろにスライドさせ、ねじ 2 本で固定します。
3. 南京錠をシフトブラケットスロット (C) に取り付けます。
4. 安全支持具を取り外して、アタッチメントを下ろします。

計器盤



- A: 燃料計
- B: タコメータ
- C: エンジンクーラント温度計
- D: 積算時間計
- E: 4 輪駆動 (4WD) 表示灯 (装備されている場合)
- F: PTO 表示灯
- G: エンジンクーラント温度表示灯
- H: グロープラグ回路インジケータ (ディーゼルモデル)
- I: 速度計 LED ディスプレイ
- J: バッテリー低電圧インジケータ
- K: パーキングブレーキ表示灯
- L: エンジンオイル圧表示灯
- M: エンジン表示灯の点検: 故障表示ランプ (MIL) (ガソリンモデル)
- N: 不使用

燃料ゲージ (A) は燃料タンクにあるおおよその燃料残量を示します。

タコメータ (B) は速度を測定するための計器です。エンジン回転数は 100 rpm 単位で表示されます。例: インジケータが 20 を指している場合は、 $20 \times 100 = 2000$ rpm を意味します。

エンジンクーラント温度計 (C) は、エンジンの温度が上がりすぎているかどうかを表示します。温度計のインジケータの針が赤ゾーンに達した場合は、直ちに車両のエンジンを停止して原因を調べてください。

ガソリンモデルのみ: エンジンの回転数および出力は、インジケータの針が赤ゾーンに 10 秒以上ある場合は、自動的に減少します。

積算時間計 (D) は、エンジンのおおよその作動時間を表示します。積算時間計と「整備間隔表」により、車両の整備時期を判断してください。

4 輪駆動 (4WD) 表示灯 (装備されている場合) (E) は、ライトが点灯している時のみ表示され、4 輪駆動 (4WD) を使用すると点灯します。

PTO 表示灯 (F) は、ライトが点灯している時のみ表示され、油圧 PTO レバーを使用すると点灯します。

エンジンクーラント温度表示灯 (G) は、エンジンクーラントが危険な高温に近づいているときに点灯します。エンジン回

転数をアイドル回転数に下げます。エンジンクーラントレベルを点検し、ラジエータへの空気の流れが遮られていないことを確認します。連続作業を行うと温度が上がり、損傷するおそれがあります。

ガソリンモデルのみ: エンジン回転数と出力は、ライトが点灯しているときは自動的に減少します。

グロープラグ表示灯 (ディーゼルモデル) (H) は、ライトが点灯している時のみ表示され、キースイッチを RUN 位置に回すと点灯します。キースイッチを RUN 位置まで回してから約 3 秒後に表示灯が消えます。このインジケータは、エンジンのグロープラグがオンになり、エンジンの燃焼室が予熱で暖められたことを知らせます。

速度計 LED ディスプレイ (I) は、キースイッチが RUN 位置に回されると点灯します。LED ディスプレイは車両速度を表示します。

バッテリー放電表示灯 (J) は、キースイッチが RUN 位置に回されると点灯します。このインジケータは、エンジンが始動すると消えます。点灯されたままになっている場合は、オルタネータで十分な電流が作られていない可能性があります。エンジンを止めて原因を調べてください。

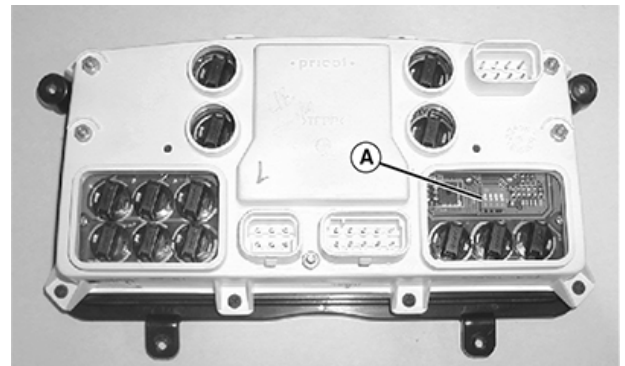
パーキングブレーキ表示灯 (K) は、パーキングブレーキがロックされているときに点灯します。

エンジンオイル圧表示灯 (L) は、エンジンオイル圧が低下すると点灯します。エンジン作動中にこのランプが点灯したら、直ちにエンジンを停止してください。この表示灯は、エンジンのオイルが少ないか、エンジンが大きく損傷していることを示しています。

エンジン表示灯の点検: 故障表示ランプ (MIL) (ガソリンモデル) (M) は、始動時に点灯しますが、消灯します。エンジン作動中にこのランプが点灯したら、直ちにエンジンを停止して、原因を調べてください。

エンジン回転数計の切り替え

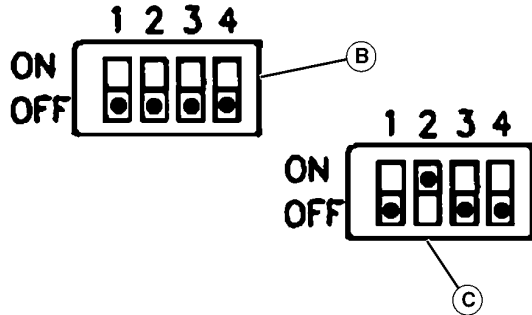
1. バッテリーのマイナスケーブルの接続を外します。
2. フロントグリルを取り外します。



3. 機械の計器盤の裏にある mph/kph スイッチ (A) の位置を確認します。

操作

注記：標準タイヤを使用する機械でスイッチが設定されています。



4. ドライバーを使用して各スイッチを動かし、スイッチを工場設定の mph (B) から kph (C) に切り替えます。
5. フロントグリルを取り付けます。
6. バッテリーのマイナスケーブルを接続します。

5 速同期トランスミッションの操作

クラッチペダルの使用

重要： 不必要な摩耗を避けるために、車両運転中にクラッチペダルに足を絶対に置いたままにしないでください。

1 速、2 速ギア、または後退ギアの状態で車両から離れる場合や、クラッチペダルを踏み込んだまま坂を下りる場合に、極端に速度が出る可能性があります。クラッチをオフにしたギアの状態の間は、絶対に車両にフリーホイールさせないでください。

クラッチペダルの機能：

- エンジン出力をトランスミッションに接続したり切り離したりします。
- ギアをシフトするギアシフトレバーと併せて操作します。

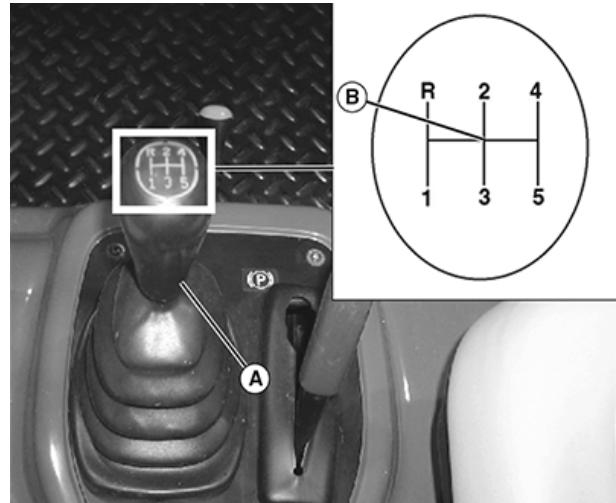
クラッチを解除するには

- クラッチペダルを完全に踏み込みます。これにより、トランスミッションがエンジン出力から切り離されます。

クラッチを入れるには

- クラッチペダルから足をゆっくりと離します。これにより、トランスミッションがエンジン出力に接続されます。

ギアシフトレバーの使用



ギアシフトレバー (A) は運転席右のコンソールにあります。ギアシフトレバーには、5 種類の前進走行速度と 1 種類の後退速度があります。

ギアシフトレバーで、希望する速度と方向に一致するギアを選びます。1 速と 2 速ギアは低速で、重い荷物を牽引するときに使用します。

ギア	標準サイズのタイヤで回転数 3300 rpm のときの最大対地速度
1	4.5 km/h (2.8 mph)
2	7.4 km/h (4.6 mph)
3	12.7 km/h (7.9 mph)
4	24.1 km/h (15 mph)
5	30.7 km/h (19.1 mph)
R	5.8 km/h (3.6 mph)

前進走行

1. パーキングブレーキをロックします。

注記：エンジンを始動するには、ギアシフトレバーが「ニュートラル」位置にある必要があります。

2. ギアシフトレバーをギア「2」と「3」の間の「ニュートラル」位置 (B) に動かします。
3. クラッチペダルを踏み込んでエンジンを始動させます。
4. ギアシフトレバーを望ましい始動ギアに移動します。
 - 荷物を積んだ車両：1 速ギア
 - 荷物を積んでいない車両：2 速または 3 速ギア
5. パーキングブレーキのロックを解除します。
6. クラッチを徐々に放して、ゆっくりと荷物を積み込みます。

重要：この車両をダウンシフトする場合は、一度に複数のギアをスキップしないことが重要です。例えば 5 速から 4 速ギアへのシフトは推奨されます。5 速から 3 速へのシフトは許容されます。5 速から 2 速ギアへのシフトは推奨されません。1 回で 2 ギア以上ダウンシフトする場合は、クラッチを制限の 10,000 rpm 以上回転することが可能です。10,000 rpm、またはそれ以上にクラッチを回転させると、クラッチが壊れたり、故障する可能性があります。

7. 動作中のシフトギア：

- クラッチを踏み込んで次のギアにシフトします。
- クラッチをゆっくりと放します。

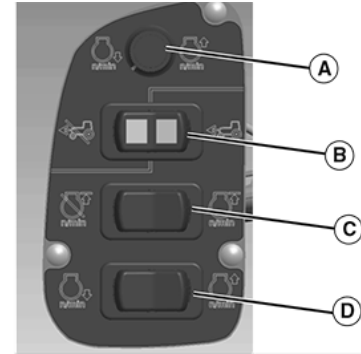
後退走行

1. 車両を完全に停止します。
2. クラッチを踏み込みます。
3. ギアシフトレバーを後退に動かします。
4. クラッチをゆっくりと放します。

オプションのマルチモードスロットルコントロールの使用 (ガソリンモデルのみ)

この機能によりオペレータは 3 種類の異なるスロットル操作のモードから選択できます。

- モード 0 (通常モード)：エンジン回転数はフットペダルのスロットル位置を最大ガバナースピードまで追従します。
- モード 1：(PTO モード)：エンジンコントロールはフットペダルスロットルを無視し、エンジン回転数をハンドスロットルコントロールダイヤルで指示される一定値に維持 (最大ガバナースピードまでアイドル) します。このモードはハンドスプレーで素材を適用する際に使用されます。
- モード 2：(モバイルモード)：オペレータが代替ガバナースピードエンジン回転数 (最大値以下) を設定できるようになります。ペダルが完全なストロークで押し込まれている場合でも、エンジン回転数はこの代替速度までフットスロットルに追従します。このモードは、一定の車両速度が必要なときのスプレーまたはトップドレッシングに使用されます。



- A：ハンドスロットルコントロールダイヤル
B：モード選択スイッチ
C：設定/クリアスイッチ
D：加速/減速スイッチ

モード 0 の使用：

通常操作、モード選択スイッチ (B) を中央位置に入れます。

モード 1 の使用：

1. 機械を安全に駐車します。(パーキングブレーキをかける必要があります)。
 2. トランスミッションを「ニュートラル」に入れます。
 3. ハンドスロットルコントロールダイヤルを反時計回りに完全に回します。
 4. モード選択スイッチ (B) の左側を押します。スイッチは点灯し、PTO が静止モードであることを示します。
 5. ハンドスロットルコントロールダイヤル (A) を時計回りに回し、エンジン回転数を上げ、目標のエンジン回転数に達成するまで、反時計回りに回し、エンジン回転数を下げます。
- このモードに入ったら、スロットル入力に関わらず、エンジンは目標回転数を維持します。ブレーキ、ニュートラル、またはスイッチを失うとシステムがモード「0」(通常操作)に戻る原因になります。

モード 2 の使用：

1. オペレータのシートに座りながら、トランスミッションを作動させます。
2. モード選択スイッチ (B) の右側を押します。スイッチは点灯し、モバイルモードであることを示します。
3. フットスロットルを目標の走行速度になるまで押します。
4. 一瞬の間、設定/クリアスイッチ (C) の右側を押し込み、現在のエンジン回転数を目標の最大ガバナースピードエンジン回転数として設定します。ECU はこれ为目标回転数として記憶します。設定した回転数をクリアするには、左側を押します。ECU は工場設定された最大ガバナースピード回転数に戻ります。

いったんこのモードに入ると、エンジン設定回転数が新しい最大エンジン回転数になります。エンジン回転数は設定点までスロットル入力を追従しますが、スロットル入力に関わらず、それ以上は追従しません。これにより、オペレータはペダルをどこかの中間位置に維持するよりも、目標の車両速度を維持するために、フットペダルスロットルをフロアに維持することができます。

操作

加速/減速スイッチの使用：

モバイルモードで操作中、加速/減速スイッチ (D) の右側を押し込むと、スイッチを解放するまでガバナーが設定した回転数が徐々に増加します。エンジンコントロールユニット (ECU) はこれを新しい最大エンジン回転数として記憶します。同様に、スイッチの左側を押し込むと、スイッチを解放するまで、ガバナーが設定した回転数が下がります。スイッチを一時的に押すと、エンジン設定回転数は 100 rpm ずつ増減します。

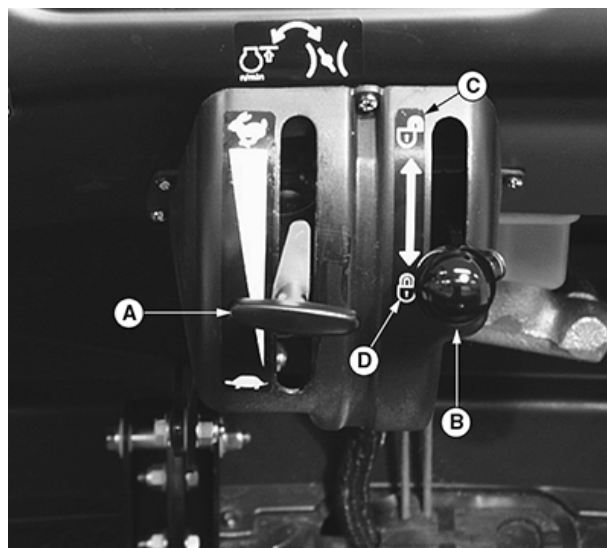
注記：エンジンの不意の加速を防止するために、エンジンコントロールユニット (ECU) はフットペダルスロットルがアイドル位置にないかぎり、「クリア」の入力を認識しません。

オプションのスロットル/ガバナーコントロール (ディーゼルユニットのみ) の使用

スロットル/ガバナーコントロールは 3 種類の異なるモードで操作することができます。

- 解除垂直モード：スロットル/ガバナーコントロールなしでも通常の車両操作が可能です。
- スロットルモード：車両静止中の操作専用であり、クルーズコントロールとして操作してはいけません。車両のトランスミッションを「ニュートラル」位置にしているときのみ使用してください。
- ガバナーモード：最高対地速度を制御するために車両を特定の回転数に設定することができます。

解除垂直モードの使用



1. スロットル/ガバナーセレクト T ハンドル (A) を引き出して、「解除垂直モード」(ポインタが上がる) に回します。T ハンドルを放します。
2. クランプレバー (B) を「ロック解除」の位置 (C) に移動します。
3. T ハンドル (A) を最高の「高速」位置に動かし、保持します。
4. クランプレバー (B) を「ロック」の位置 (D) に下げます。

スロットルモードの使用

注記：適切にスロットルを作動させるため、スロットルモードで操作を始める時には、足をアクセルペダルから離しておいてください。

1. 車両のパーキングブレーキをロックします。
2. ギアシフトレバーを「ニュートラル」位置に動かします。
3. 車両のエンジンをかけます。

スロットルの作動



1. クランプレバー (A) を「ロック解除」の位置 (B) に動かします。
 - スロットル/ガバナーセクタ T ハンドル (C) は、最低の「低速」位置に落とします。
2. T ハンドル (C) を引き出して、ポインタ (E) が右を向くように、T ハンドルをスロットルモード (D) に動かします。T ハンドルを放します。

注記：車両タコメータを使用してエンジン回転数をモニターします。アタッチメントの操作に設定された回転数が必要な場合は、各アタッチメントのオペレータマニュアルを参照してください。

3. T ハンドルを動かして、エンジンの回転数を上げます。目標のエンジン回転数に達したら、セクターレバーをその位置に保ちます。
4. クランプレバー (A) を「ロック解除」の位置 (F) に下げます。
 - T ハンドルが「解除垂直モード」に動かされ、クランプレバーが「ロック」位置のままの場合、スロットルのあらかじめ設定された位置は維持されます。
 - あらかじめ設定されたエンジン回転数で車両の操作を再開するには、アクセルペダルを踏み込んで回転数を上げます。車両タコメータで確認しながら、以前に設定したエンジン回転数を上回るまで回転数を上げます。T ハンドルを「スロットルモード」に戻し、アクセルを放します。

スロットルの解除

1. スロットル/ガバナーセクタ T ハンドル (A) を引き出して、「解除垂直モード」(ポインタが上がる) に回します。T ハンドルを放します。
2. クランプレバーを「ロック解除」の位置に動かします。

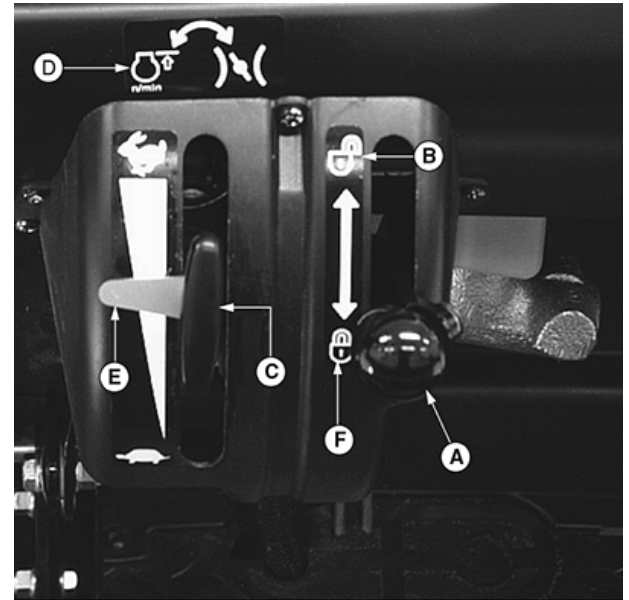
3. T ハンドルを最高の「高速」位置に動かし、保持します。
4. クランプレバーを「ロック」位置に下げます。

ガバナーモードの使用

注記：適切にガバナーを作動させるため、ガバナーモードの操作を始める時には、足をアクセルペダルから離しておいてください。

1. 車両のパーキングブレーキをロックします。
2. 車両のエンジンをかけます。

ガバナーの作動



1. クランプレバー (A) を「ロック解除」の位置 (B) に動かします。
 - スロットル/ガバナーセクタ T ハンドル (C) は、最低の「低速」位置に落とします。
2. T ハンドル (C) を引き出して、ポインタ (E) が左を向くように、T ハンドルをガバナーモード (D) に動かします。T ハンドルを放します。

注記：車両タコメータを使用してエンジン回転数をモニターします。アタッチメントの操作に設定された回転数が必要な場合は、各アタッチメントのオペレータマニュアルを参照してください。

3. アクセルペダルを踏み込んで、エンジンの回転数を上げます。
4. アクセルペダルを目標回転数レベルで所定の位置に保った状態で、クランプレバー (A) を「ロック」位置 (F) に下ろします。
 - アクセルペダルを放すと、ペダルは元の上った位置に戻り、エンジンの回転数はアイドリングに戻ります。
 - アクセルペダルが踏み込まれている場合、エンジンは設定された回転数に制限されますが、スロットル/ガバナーセクタで設定された最大値以下の回転数なら運転します。

- T ハンドルが「解除垂直モード」に動かされ、クランプレバーが「ロック」位置のままの場合、ガバナーのあらかじめ設定された位置は維持されます。あらかじめ設定された回転数での車両の運転が希望のときは、T ハンドルを「ガバナーモード」に戻します。
- 設定速度が決定されたら、パーキングブレーキのロックを解除し、車両の走行を始めます。

ガバナーの解除

1. スロットル/ガバナーセレクト T ハンドルを引き出して、「解除垂直モード」(ポイントが上がる)に回します。T ハンドルを放します。
2. クランプレバーを「ロック解除」の位置に動かします。
3. T ハンドルを最高の「高速」位置に動かし、保持します。
4. クランプレバーを「ロック」位置に下げます。

エンジンの始動

⚠ 警戒：エンジンの排気ガスは一酸化炭素を含んでおり、深刻な疾患や死亡の原因になります。

• エンジンを運転する前に、機械を屋外に移動させてください。

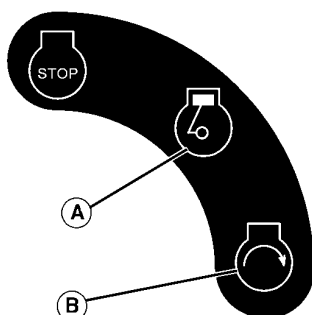
• 適切な換気装置がない密閉された場所ではエンジンを運転しないでください。

• エンジンの排気管に延長管を接続して、排気ガスをエリア外に排出してください。

• 屋外の新鮮な空気を作業エリアに取り込み、排気ガスを除去してください。

注記：ディーゼルモデル：燃料シャットオフバルブが開いていることを確認してください。

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
2. 油圧 PTO レバーを OFF 位置に押します。
3. ギアシフトレバーを「ニュートラル」位置に動かします。



4. キースイッチを RUN 位置 (A) に回します。
5. 次の表示灯を点検します：
 - バッテリー放電表示灯が点灯しているはずですが。

- パーキングブレーキ表示灯が点灯しているはずですが。
- エンジンオイル圧表示灯が点灯しているはずですが。
- ディーゼルモデル：グロープラグ表示灯が点灯しているはずですが。約 3 秒後、表示灯が消えます。エンジンはこれで始動可能な状態です。

重要：スタータは 1 回に 20 秒以上作動させると、損傷するおそれがあります。エンジンが始動しない場合は、2 分以上待ってから再度試みてください。

6. キースイッチを始動位置 (B) に回します。

注記：エンジンは始動時にスローアイドルになるよう工場較正されています。

• ディーゼルエンジン：1250 rpm ± 50

• ガソリンエンジン：1000 rpm ± 10

7. エンジンが始動したら、キースイッチを放して RUN 位置にします。

- バッテリー放電表示灯が消えるはずですが。
- エンジンオイル圧表示灯が消えるはずですが。

8. パーキングブレーキのロックを解除します。
 - パーキングブレーキ表示灯が消えるはずですが。

エンジンの停止

⚠ 警戒：ユーティリティビークルから離れる場合は、必ずパーキングブレーキをロックしてください。パーキングブレーキがロックされていない場合は、無人で車両が動き出す場合があります。ギアシフトレバーが「ニュートラル」位置に動かされると、車両はフリーホイールになります。

1. アクセサダルから足を離して、エンジンをスローアイドルにします。
2. クラッチペダルとフットブレーキを踏み込みます。

注記：ガソリンエンジンには、キースイッチを停止位置に回してからエンジンが停止するまでに時間のずれがあります。車両から離れる前にエンジンが停止していることを確認してください。

3. キースイッチを「停止」の位置に回します。
4. ギアシフトレバーをファーストか「後退」に入れます。
5. パーキングブレーキをロックします。
6. キーを抜きます。

オペレータが席から離れる場合の車両エンジンの操作

⚠ 警戒：

• 席を離れる前には必ずパーキングブレーキをロックします。

• アタッチメント機能が必要としない限り、車両の走行中に席を離れないでください。

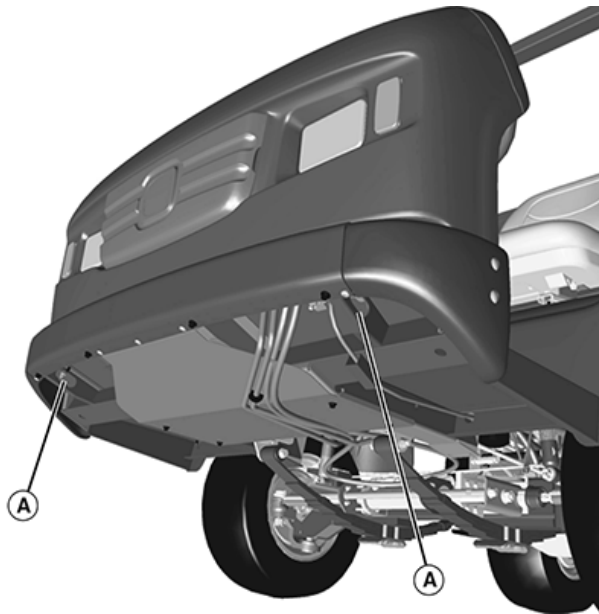
注記：通常の運転条件では、オペレータが席から立ち上がると、車両のエンジンが運転停止するはずですが。

1. 運転席にはシートベルトを締めて座ってください。
2. クラッチペダルとフットブレーキペダルを踏み込んで、車両を停止します。
3. ギアシフトレバーを「ニュートラル」位置に動かします。
4. パーキングブレーキをロックします。
5. クラッチペダルとフットブレーキペダルをゆっくりと放します。
6. シートベルトを外して、車両から出ます。
 - エンジンは、オペレータが席から離れても運転し続けます。

ユーティリティビークルの牽引

⚠ 警戒：牽引する前に車両のカーゴボックスまたはアタッチメントから荷物を取り除いてください。荷積みされた車両を牽引すると、車両のコントロールを失うことになります。

1. ギアシフトレバーを「ニュートラル」位置に動かします。



2. 車両のフロントの下メインフレームの両側にある楕円形のスロット (A) に引き綱をつなぎます。
3. パーキングブレーキのロックを解除します。

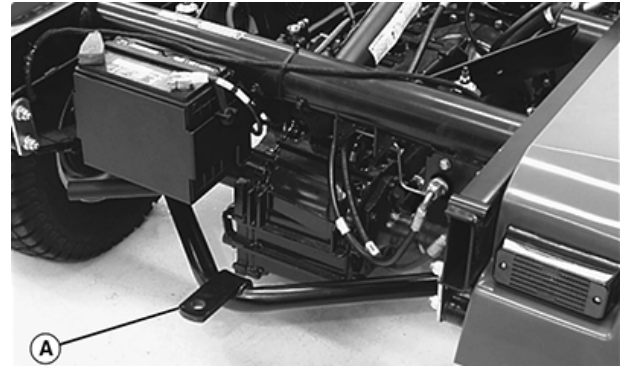
⚠ 警戒：車両を牽引する場合、16 km/h (10 mph) を超えないでください。エンジンが運転していないと、車両のステアリングが難しくなります。

4. 車両を希望の位置までゆっくりと注意深く牽引します。

負荷の牽引

⚠ 警戒：牽引荷重が過大な場合、トラクションが失われたり、傾斜地で制御できなくなる可能性があります。停車距離は、速度、牽引物の重量に伴い長くなります。このオペレータマニュアルで指定されている、この車両の最大許容牽引荷重を超えた荷物を牽引しないでください。

- 十分なブレーキ能力とトラクションを維持するため、牽引する荷物の重量 (トレーラー+積み荷) は車両の有効積載量 (オペレータ+同乗者+カーゴボックス荷重) を絶対に超えないでください。
- このオペレータマニュアルで指定されている、この車両の最大許容牽引荷重を超えた荷物を牽引しないでください。
- この車両で 680 kg (1500 lb) を超える荷物は牽引しないでください。
- 90.7 kg (200 lb) のタンク重量を超えないでください。
- コントロールが維持できる十分ゆっくりした速度で牽引します。



- このユーティリティビークルに付属の、認定済みのリアヒッチポイント (A) を常に使用してください。これは認定済みのヒッチポイントです。改造しないでください。

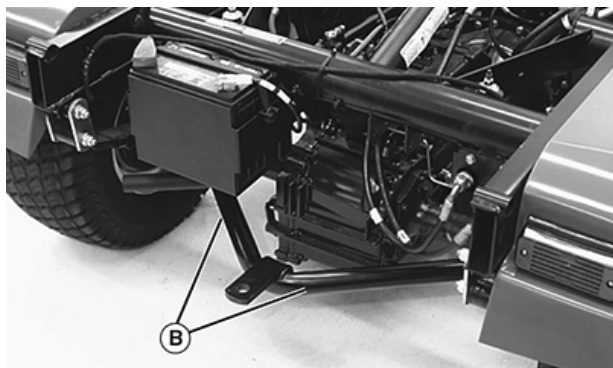
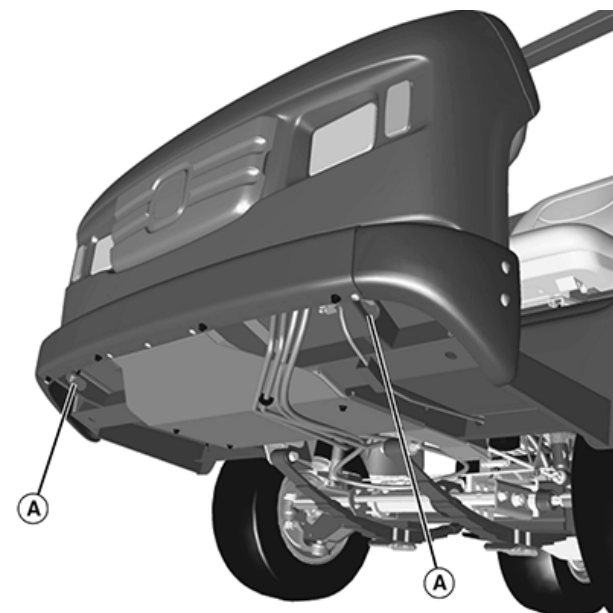
ユーティリティビークルの輸送

⚠ 警戒：機械を輸送速度で運転しているときは注意を払ってください。牽引荷物の重量が機械よりも重い場合は、速度を落としてください。推奨輸送速度については、被牽引装置のオペレータマニュアルを参照してください。

悪い路面条件での牽引荷物の輸送時、特に右左折時、および斜面ではさらに注意してください。

公道での走行時は、規則で禁止されていない限り、警告灯とターニングナルを使用することをお勧めします。インプラメントの安全照明キットは、John Deere 取扱店から入手できます。

1. 車両をトレーラ方向に向けて運転します。
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」参照。）
3. **ディーゼルモデル**：輸送中、燃料シャットオフバルブを OFF 位置まで回します。
4. 後輪を輪止めか木製ブロックで固定します。
5. ヘビーデューティストラップ、チェーンまたはケーブルを使用して、車両をトレーラーに固定します。



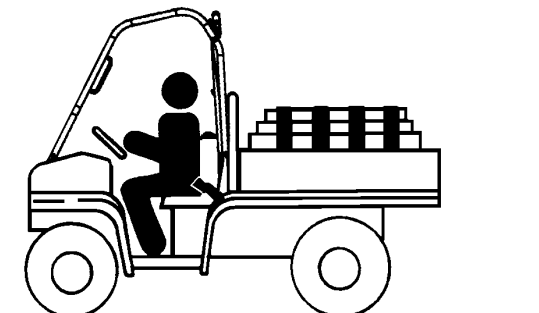
- 固定用具は、車両前部の下のメインフレームの両側にある楕円形のスロット (A) と後部のヒッチアセンブリ (B) 両側に取り付けてください。
 - 前部、後部のストラップは両方とも、車両から下向きおよび外向きにかけられていなければなりません。
6. 道路や高速道路でユーティリティビークルを輸送する際は、アクセサライトや装置を使用して他の車両の運転者に適切に警告してください。関連するすべての法令を守ってください。

カーゴボックスへの積載

⚠ 警戒：カーゴボックスに正しく積載しなかった場合、ユーティリティビークルは不安定になることがあります。緩んでいたり動きやすい積み荷や、材料の不均等な積載は避けてください。

• カーゴボックスのすべての積み荷をしっかりと固定してください。

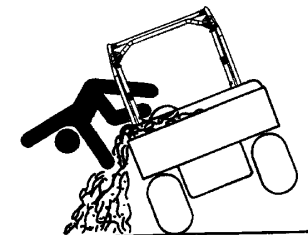
• 最大荷重を超えて積載しないでください。



起伏や坂が多い地形で運転する際は、積み荷を減らしてください。車両に荷を積みすぎないでください。積み荷は安全に制御できる範囲に抑えてください。

起伏や坂が多い地形で運転する際は、速度を下げ、最大の注意を払ってください。

車両に物を積載する時には、カーゴボックス内で積み荷をしっかりと固定し、均等に配置してください。動きやすい積み荷は安定性に悪影響を与えます。



車両の転倒を防止するため、カーゴボックスの後部や側部に集中的に積載するのは避けてください。積み荷は必ず均等に配置してください。

乾燥した砂と湿った砂では重量に大きな違いがあるため、こうした積み荷の本当の重量を知るには重量計を使用するしかありません。

操作

袋詰め等の材料には、通常、重量が印刷されています。

カーゴボックス付き車両の有効積載量

以下の最大有効積載量は、91 kg (200 lb) のオペレータ 1 人、91 kg (200 lb) の同乗者 1 人、荷積みされたカーゴボックスを含みます。オペレータには、車両に取り付けられた他のすべてのアタッチメントの重量も含まれます。カーゴの重量は、有効積載量からオペレータと同乗者その他のすべての取り付けられたアタッチメントの合計重量を差し引いた重量を超過してはなりません。

ヘビーデューティサスペンション付きの車両には、ヘビーデューティのフロントおよびリアリーフスプリング、4 ポスト ROPS、幅広タイヤキットが取り付けられています。

標準サスペンション積載量

機械の種類	重量
ガソリン 2WD	1446 kg (3187 lb)
ガソリン 4WD	1384 kg (3051 lb)
ディーゼル 2WD	1447 kg (3191 lb)
ディーゼル 4WD	1388 kg (3061 lb)

ヘビーデューティサスペンション積載量

機械の種類	重量
ガソリン 2WD	1782 kg (3928 lb)
ガソリン 4WD	1720 kg (3792 lb)
ディーゼル 2WD	1784 kg (3932 lb)
ディーゼル 4WD	1725 kg (3802 lb)

カーゴボックスなし車両の有効積載量

以下の最大有効積載量は、91 kg (200 lb) のオペレータ 1 人と 91 kg (200 lb) の同乗者 1 人を含みます。オペレータには、車両に取り付けられた他のすべてのアタッチメントの重量も含まれます。カーゴの重量は、有効積載量からオペレータと同乗者その他のすべての取り付けられたアタッチメントの合計重量を差し引いた重量を超過してはなりません。

ヘビーデューティサスペンション付きの車両には、ヘビーデューティのフロントおよびリアリーフスプリング、4 ポスト ROPS、幅広タイヤキットが取り付けられています。

標準サスペンション積載量

機械の種類	重量
ガソリン 2WD	1592 kg (3510 lb)
ガソリン 4WD	1530 kg (3374 lb)
ディーゼル 2WD	1594 kg (3514 lb)
ディーゼル 4WD	1535 kg (3384 lb)

ヘビーデューティサスペンション積載量

機械の種類	重量
ガソリン 2WD	1928 kg (4251 lb)
ガソリン 4WD	1867 kg (4115 lb)
ディーゼル 2WD	1930 kg (4255 lb)
ディーゼル 4WD	1871 kg (4125 lb)

カーゴボックスの上げ下げ

⚠ 警戒：カーゴボックスを持ち上げる前に、車両が硬く平らな面にあり、パーキングブレーキがロックされていることを確認してください。カーゴボックスを持ち上げた状態で車両が坂を上る場合は、カーゴボックスの重量によって車両が転倒する恐れがあります。

・上がっているアタッチメントにリフトシリンダの安全支持具が適切に取り付けられていない場合は、整備機能を実行しないでください。

・車両を整備する前にカーゴボックスからすべての材料を空にしてください。

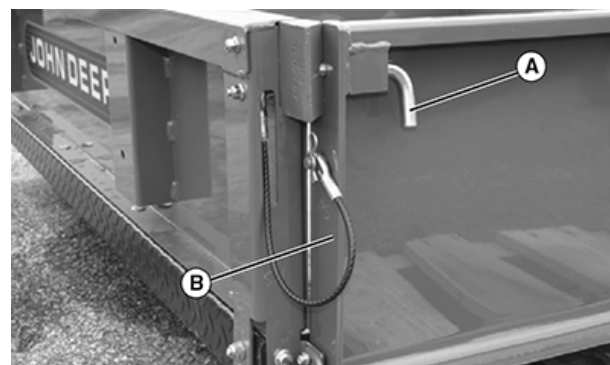
1. エンジンを開始します。
2. リフトシリンダレバーを後ろに引いて保持し、カーゴボックスを持ち上げます。

注記：エンジンが運転または停止している状態でリフトシリンダが収縮し、カーゴボックスが下がります。下部位置を通してデ Tent フロート位置になるまでレバーを押すと、回路が急に下がらないように制限されるので、さらにゆっくりとボックスが下部位置に下がります。

3. レバーを下に押したまま保持して、カーゴボックスを下げます。
4. エンジンを停止します。

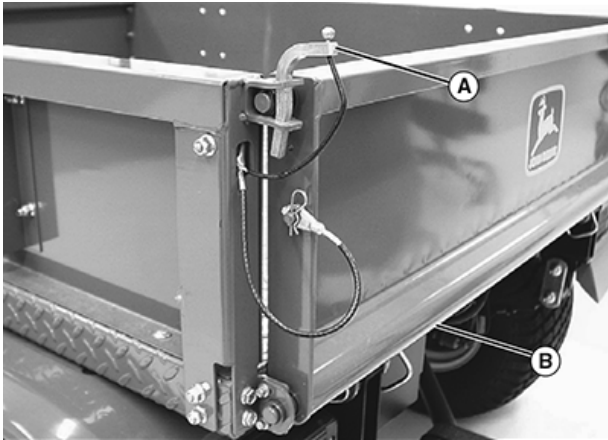
カーゴボックステールゲートの操作

バネ付きラッチピンを開く



1. 両方のテールゲートラッチピン (A) を引いて、テールゲート (B) を下ろします。

パネのないラッチピンを開く



1. 各テールゲートラッチピン (A) を引き上げて取り外します。

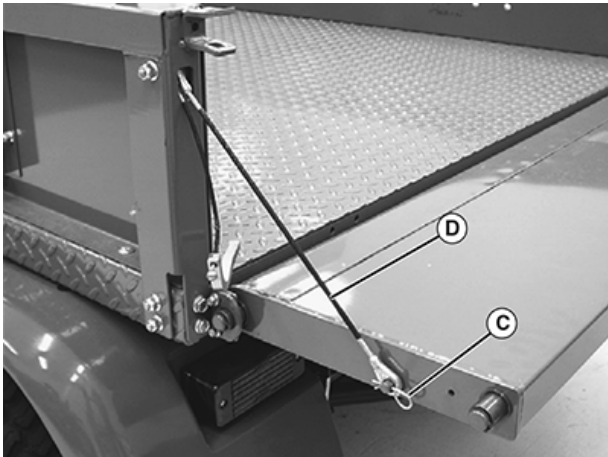
重要：1 回に直接テールゲートに 181 kg (400 lb) を超えないでください。

2. テールゲート (B) を下ろします。

テールゲートを完全に下ろす

⚠ 警戒：テールゲートが完全に下ろされている状態では車両を操作しないでください。テールゲートが完全に下ろされた状態では車両のテールライトが妨害されるので、後部が衝突する可能性があります。

重要：テールゲートが完全に下ろされると、後部フェンダーに接触する可能性があります、構造的損傷の原因となります。テールゲートが完全に下ろされている状態では、ユーティリティビークルを操作しないでください。



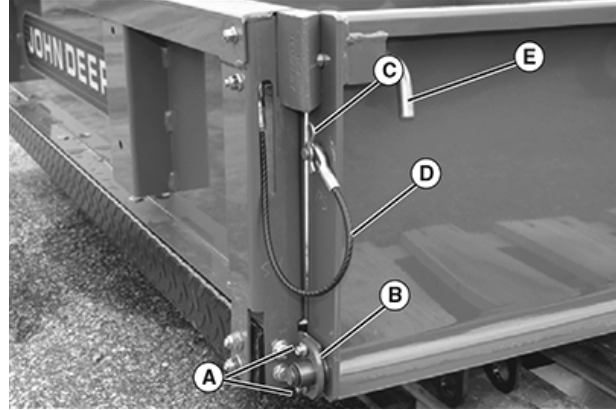
図はパネなしラッチピン付きのカーゴボックス

1. スプリングロックピン(C)とケーブル(D)を各ドリルスタッド(E)から取り外して、テールゲートを完全に下ろします。

カーゴボックステールゲートの取り外し

パネ付きラッチピン付きテールゲート

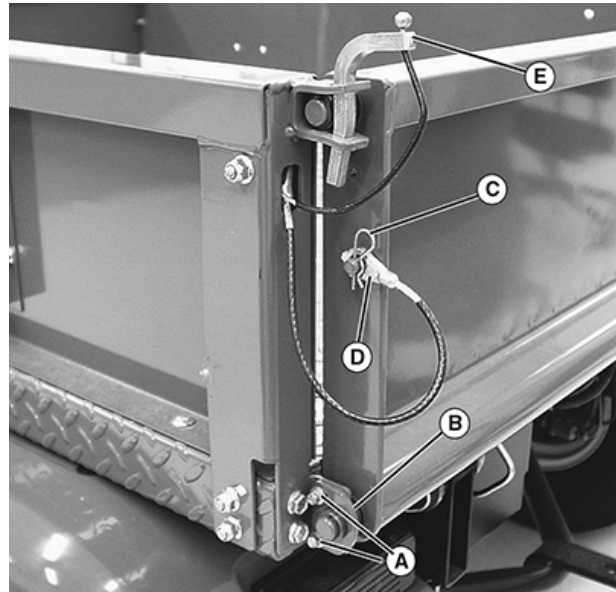
1. テールゲートを閉じて、両側をラッチします。



2. ボルト 2 本 (A) とテールゲートサポートプレート (B) を両側から取り外します。
3. スプリングロックピン (C) とケーブル (D) を各ドリルスタッドから取り外します。
4. 両方のテールゲートラッチピン (E) を引いて、テールゲートを取り外します。
5. 逆の手順でテールゲートを取り付けます。

パネなしラッチピン付きテールゲート

1. テールゲートを閉じて、両側をラッチします。



2. ボルト 2 本 (A) とテールゲートサポートプレート (B) を両側から取り外します。

3. スプリングロックピン (C) とケーブル (D) を各ドリルスタンドから取り外します。
4. 各テールゲートラッチピン (E) を引き上げて取り外します。
5. テールゲートを取り外します。
6. 逆の手順でテールゲートを取り付けます。

整備マニュアル

この機械の部品カタログや技術マニュアルのコピーをお求めの場合は、次の連絡先にご連絡ください。

- **米国/カナダ** : 1-800-522-7448.
- **その他の地域** : John Deere 取扱店。

部品

John Deere 取扱店から入手可能な John Deere の高品質部品および潤滑剤をお勧めします。

品番は変更されることがあります。注文時は下記の品番を使用してください。品番が変更された場合、取扱店では最新の品番を使用します。

部品を注文される場合、John Deere 取扱店はお客様の機械やアタッチメントのシリアル番号や製品識別番号を必要とします。これらの番号は、このマニュアルの「製品識別」セクションに記録した番号です。

整備部品のオンライン注文

インターネット経由の部品の注文と情報については、<http://JDParts.deere.com> にアクセスしてください。

品番

項目	品番
エアクリーナアセンブリのモデル • 1 次エレメント • 2 次エレメント	M113621 M123378
エンジンオイルフィルタ : • ガソリンモデル • ディーゼルモデル	AM107423 M806418
スパークプラグ (ガソリンモデル)	MIU13556
トランスミッションオイルストレナー	M800489
作動油フィルタ	M131053
バッテリー	TY25876
燃料フィルタ • ガソリンモデル • ディーゼルモデル	MIU13548 M801101
ヒューズ • 10 A • 25 A	57M7121 99M7069
イグニッションキー	AM131841
ライト • ヘッドライト • ストップライト/テールライト • 表示灯	R136239 AR48041 57M7926

(品番は予告なしに変更されることがあります。品番は米国以外の国では異なる場合があります)。

機械の整備

重要：BIO HY-GARD™ トランスミッションオイルおよび作動油がいずれかの装置で使用されている場合、整備間隔はオペレータマニュアルに一覧表示されている整備間隔の2倍の頻度で完了する必要があります。

極端な条件での運転により、整備間隔の短縮が必要になる場合があります。

• 極端な熱、ほこり、またはその他の過酷な条件で運転しているときは、エンジン部品の汚損や詰まりが発生することがあります。

• 機械を低速または低エンジン回転数で継続的に、または短期間頻繁に運転した場合、エンジンオイルが劣化する可能性があります。

次のタイムテーブルを参照して機械の定期メンテナンスを行ってください。

使用前

- エンジンオイルを点検します。
- 作動油を点検します。
- クーラントを点検します。
- トランスアクスルフルードを点検します。
- 漏れを点検します。
- タイヤを点検し、空気圧をチェックします。
- 安全インターロックシステムを点検します。
- ブレーキシステムを点検します。
- 空気ろ過システムを点検します。
- 部品に緩み、欠損、損傷がないか点検します。
- 燃料/ウォーターセパレータを点検します。
- シートベルトを点検します。
- コントロールケーブルを点検します。

毎回使用後

- 燃料を点検して補充します。
- 機械からごみを取り除きます。
- 冷却システムからごみを取り除きます。
- 洗浄後に機械を潤滑します。

慣らし運転：最初の 50 時間後

- エンジンオイルとフィルタを交換します。
- トランスアクスルオイルとトランスアクスルフィルタを交換します。
- オルタネータベルト張力の点検
- すべてのホースとクランプを点検します。
- ホイールの金具を点検します。
- ブレーキ液を点検します。

100 時間ごと

- 4WD モデル：リア車軸のオイルレベルを点検します。
- バッテリーを清掃し、点検します。

200 時間ごと

- エンジンオイルとフィルタを交換します。
- オルタネータベルトを点検します。
- すべてのホースとクランプを点検します。
- ガソリンモデル：
 - PCV バルブの清掃
 - エアインダクタに漏れがないか点検します (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください)。
 - タイミングベルトを点検します (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください)。

500 時間ごと、または毎年

- 燃料フィルタを交換します。
- 作動油とフィルタを交換します。
- トーイン調整を点検します。(技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
- 4WD モデル：フロント車軸オイルを交換します。
- ガソリンモデル：シリンダヘッドのボルトの締め付けトルクを点検します。(技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)

800 時間ごと

- ガソリンモデル：
 - スパークプラグを交換します。
 - PCV バルブを交換します。

1500 時間ごと

- ディーゼルモデル：
 - フューエルインジェクタを点検します。(技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
 - バルブクリアランスを点検します。(技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)

2000 時間または 24 か月ごと

- エンジンクーラントとサーモスタットを交換します。
- ブレーキラインをフラッシングして、オイルを交換します。

3000 時間または 36 か月ごと

- ディーゼルモデル：燃料インジェクションポンプを点検します。(技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)

バイオディーゼル燃料に転換後の整備間隔

重要： B6 から B20 の混合燃料のうち、EN14214 (欧州規格) または ASTM D-7467 (アメリカ規格) に適合したバイオディーゼル燃料のみを使用してください。

バイオディーゼル燃料は、燃料販売業者が製造した日から 3 か月以内に使用する必要があります。

注記： バイオディーゼル混合燃料を使用する際は、John Deere Biodiesel Fuel Conditioner の使用を推奨します。

B6～B20 の混合燃料を使用するよう転換した作業機については、以下の間隔で整備を行います。

毎日

- ウォーターセパレータを点検し、必要に応じて排水します。
- エンジンオイルを点検します。オイルレベルが上がる場合は、ただちにエンジンオイルを交換してください。

エンジンオイルとフィルタの交換間隔

- オペレータマニュアルに記載されている通常のディーゼル燃料使用時の整備間隔の 50% で交換します。

燃料フィルタの交換間隔

- オペレータマニュアルに記載されている通常のディーゼル燃料使用時の整備間隔の 50% で交換します。

1000 時間ごと

- フューエルインジェクタを清浄、点検、および調整します。

Bio Hy-Gard に転換後の整備間隔

Bio Hy-Gard を使用するよう転換した機械については、以下の間隔で整備を行います。

250 時間ごと

- 作動油とフィルタを交換します。

1 年ごと

- Bio Hy-Gard 潤滑剤を交換します。

グリース

重要： 部品の故障や早期摩耗を回避するために、推奨される John Deere グリースを使用してください。

推奨 John Deere グリースは、平均気温 $-29\sim 135^{\circ}\text{C}$ ($-20\sim 275^{\circ}\text{F}$) の範囲で有効です。

この温度範囲外で運転する場合は、特殊用途グリースについて整備取扱店にお問い合わせください。

次のグリースをお勧めします。

- John Deere Multi-Purpose SD Polyurea Grease
- John Deere Multi-Purpose HD Lithium Complex Grease

推奨グリースを使用していない場合は、NLGI Grade 2 の一般的な汎用グリースを使用していることを確認してください。

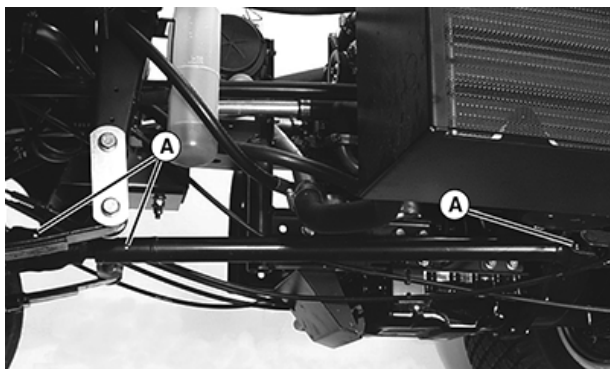
湿潤または高速条件では、特殊用途用のグリースを使用しなければならない場合があります。詳しくは、整備取扱店にお問い合わせください。

次の潤滑剤をお勧めします。

- SUPER LUBE® 潤滑剤。

ドライブシャフトの潤滑 (4WD モデル)

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



2. ドライブシャフトのグリースフィッティング 3 か所 (A) を John Deere SD Polyurea グリース、または同等品で潤滑します。

エンジンの整備

エンジン保証メンテナンスに関する告知

お客様が費用を支払って行われるこのエンジンの排出ガス浄化装置およびシステムのメンテナンス、修理、交換は、ノンロードエンジン修理施設または個人により実施できます。保証修理は、認定 John Deere 取扱店が実施する必要があります。

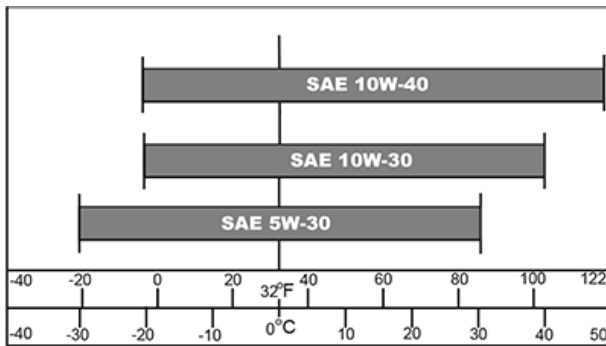
排ガス防止

⚠ 警戒：エンジンの排気ガスは一酸化炭素を含んでおり、深刻な病気や死亡事故の原因になります。

- エンジンを運転する前に、機械を屋外に移動させてください。
- 適切な換気装置がない密閉された場所ではエンジンを運転しないでください。
- エンジンの排気管に延長管を接続して、排気ガスをエリア外に排出してください。
- 屋外の新鮮な空気を作業エリアに取り込み、排気ガスを除去してください。

エンジンオイル (ガソリンモデル)

次のオイル交換までの期間に予想される気温範囲に基づいたオイル粘度を使用してください。



以下の John Deere オイルをお勧めします。

- TURF-GARD™
- PLUS-4™

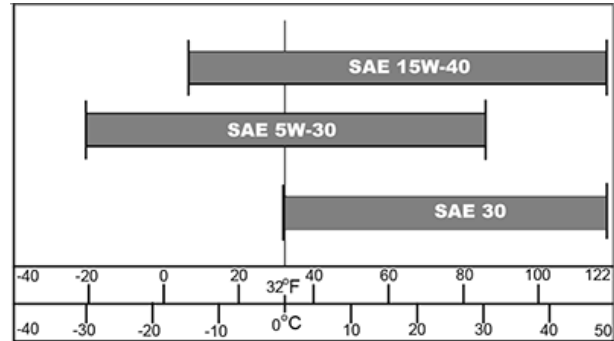
上記の John Deere オイルを入手できない場合は、以下の仕様を満たしていることを条件にその他のオイルを使用できます。

- API サービス分類 CJ 以上

エンジンオイル (ディーゼルモデル)

次のオイル交換までの期間に予想される気温範囲に基づいたオイル粘度を使用してください。

以下の John Deere オイルをお勧めします。



- PLUS-50™
- TORQ-GARD SUPREME™

上記の John Deere オイルを入手できない場合は、以下の仕様のうち 1 つを満たしていることを条件にその他のオイルを使用できます。

- API サービス分類 CJ 以上

エンジンオイルレベルの点検

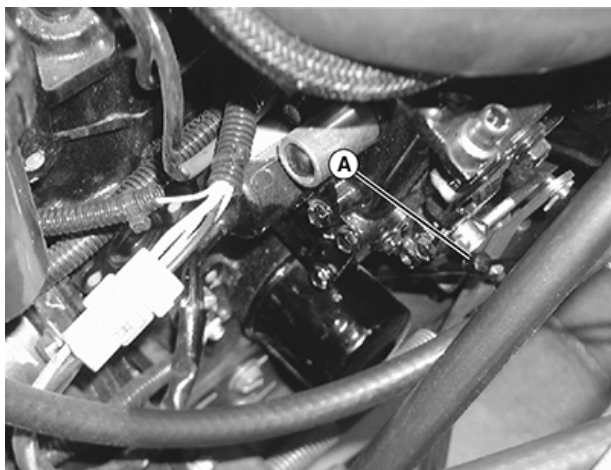
重要：ゴミや他の汚染物質がオイルゲージ・チューブから混入しないよう注意してください。ディップスティックを取り外す前にディップスティックの周りを清掃してください。

定期的なオイルレベルの点検を怠ると、オイルレベルが低い場合に重大なエンジンの問題が発生することがあります。

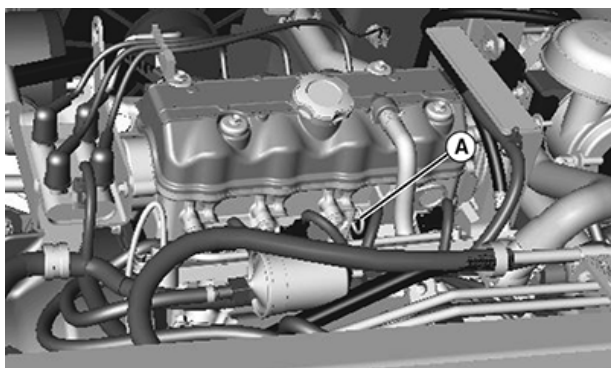
- 運転の前にオイルレベルを点検してください。
- エンジンが冷めているとき、運転されていないときにオイルレベルを点検してください。
- 「Full」マークと「Add」マークの間にレベルを維持してください。
- オイルを追加する前に、エンジンを停止してください。
- 1 日に 4 時間以上エンジンを運転する場合は、オイルを 1 日に 2 回点検してください。

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)

エンジンの整備

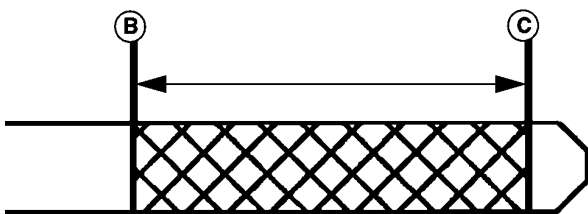


ディーゼルモデル

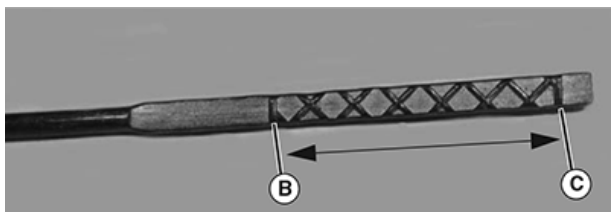


ガソリンモデル

3. エンジンを2～3分間冷まします。ディップスティック (A) を取り外して、清潔な布で拭いてください。
4. ディップスティックを取り付けます。



ディーゼルモデル



ガソリンモデル

5. ディップスティックを取り外します。ディップスティックでオイルレベルを点検します。オイルレベルは、ディップスティックのレベル (B) と (C) の間にある必要があります。
 - オイルが少ない場合は、ディップスティックのレベル (C) 以下までオイルを追加します。
 - オイルレベルがディップスティックのレベル (B) よりも上にある場合は、適切なレベルまで抜き取ります。

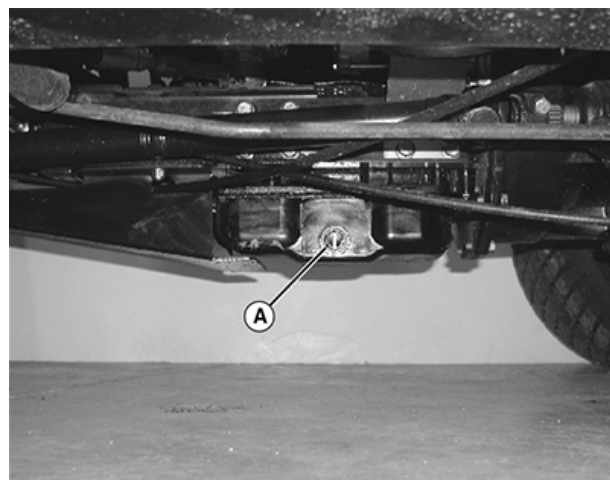
6. ディップスティックを取り付けます。
7. アタッチメントを下ろします。

エンジンオイルとフィルタの交換

重要：次のような極端な条件で車両を使用している場合は、オイルをより頻繁に交換してください。

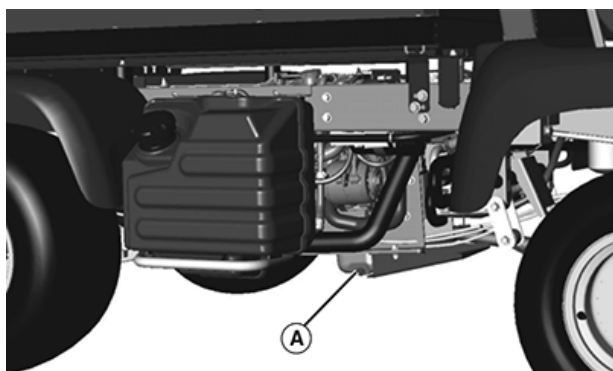
- 極端に埃の多い条件。
- 遅い速度または低速での頻繁な運転。
- 頻繁な短距離運転。

1. エンジンを運転し、オイルを暖めます。
2. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
3. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
4. オイルドレンの下に容器を置きます。



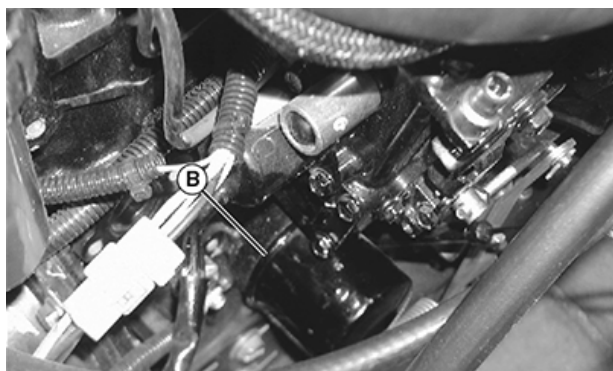
ディーゼルエンジン

エンジンの整備

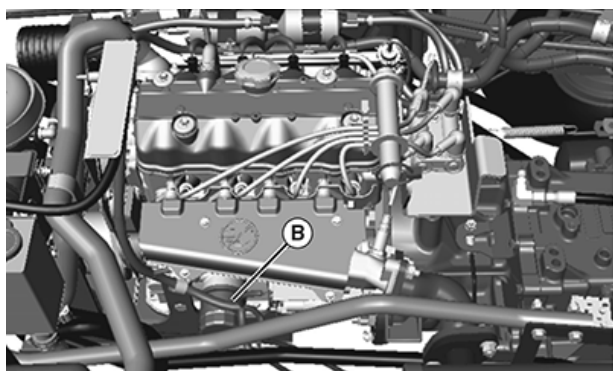


ガソリンエンジン

5. ドレンプラグ (A) を取り外します。ディーゼルエンジンの場合は左側下、ガソリンエンジンの場合は右側下にあります。



ディーゼルエンジン



ガソリンエンジン

6. オイルフィルタ (B) を取り外します。
- エンジンの右側の下にあるフィルタを見つけます。
 - フィルタを反時計回りに回して取り外します。

7. 新しいフィルタのガスケットに清浄なエンジンオイルを薄く塗布します。

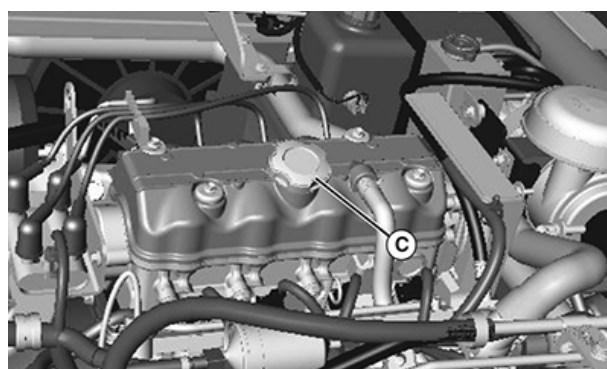
8. オイルフィルタを取り付けます。

- ガスケットが取り付け面に接触するまで、フィルタを時計回りに回します。ガスケットが接触したら、さらに 1/2 ~ 3/4 回転分締め付けます。

9. オイルドレンプラグを取り付けます。締め付けすぎないでください。



ディーゼルエンジン



ガソリンエンジン

10. エンジン上部のオイルフィルキャップ (C) を取り外します。
11. 推奨されたオイルを追加します。
12. オイルフィルキャップを取り付けます。
13. エンジンを始動し、アイドルで約 2 分間運転します。漏れを点検します。運転する前に漏れを修理します。
14. エンジンを停止します。
15. 約 2 分後、エンジンオイルレベルを点検します。必要に応じてオイルを追加します。
16. アタッチメントを下ろします。

エンジンの整備

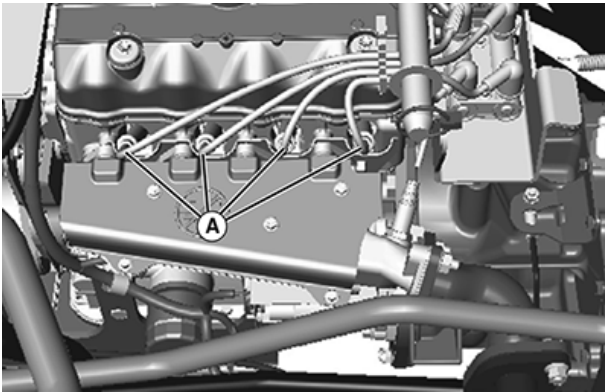
スパークプラグの点検 (ガソリンモデル)

⚠ 警戒：高温面に触れると、やけどを負う可能性があります。エンジンを運転している場合、エンジン、部品、フルードは高温になります。エンジンや部品の近くで整備や作業を行う前に、エンジンを放置して冷ましてください。

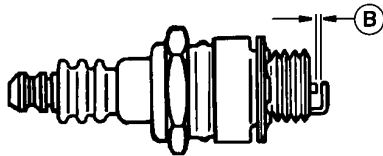
重要：スパークプラグは研磨剤を使って清掃しないでください。

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
3. 各スパークプラグの周辺を清掃します。

注記：分かりやすくするため、写真ではブリーザホースをエンジンから離しています。



4. 各プラグからスパークプラグワイヤ (A) の接続を外します。
5. スパークプラグを取り外して、点検します。
 - 各プラグを清掃して、損傷がないか点検し、必要に応じて交換します。
 - プラグの状態が良好な場合は、隙間を点検します。



6. スパークプラグの隙間 (B) を点検し、仕様どおりに調整します。

仕様	
スパークプラグ 隙間.....	1~1.2 mm (0.039~0.047 in)

7. スパークプラグを取り付けます。
 - 規定のトルクで締め付けます。

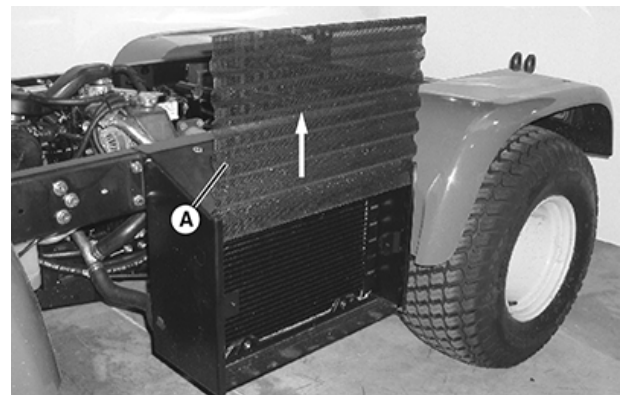
仕様	
スパークプラグ トルク.....	20 N·m (15 lb·ft)

8. 各スパークプラグワイヤを取り付けます。
9. アタッチメントを下ろします。

ラジエータスクリーンの清掃

⚠ 警戒：高温面に触れると、やけどを負う可能性があります。エンジンを運転している場合、エンジン、部品、フルードは高温になります。エンジンや部品の近くで整備や作業を行う前に、エンジンを放置して冷ましてください。

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



3. エンジンラジエータの前の位置にあるラジエータスクリーン (A) を引き上げます。
4. スクリーンをブラシまたは圧縮空気で清掃します。
5. グリルスクリーンを取り付けます。
6. アタッチメントを下ろします。

ラジエータ冷却フィンとファンシュラウドの清掃

⚠ 警戒：圧縮空気を使用すると、遠くまでごみが飛ぶ可能性があります。

• 作業エリアに人を近づけないでください。

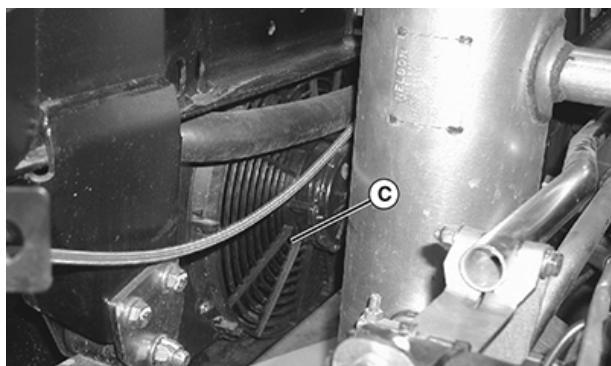
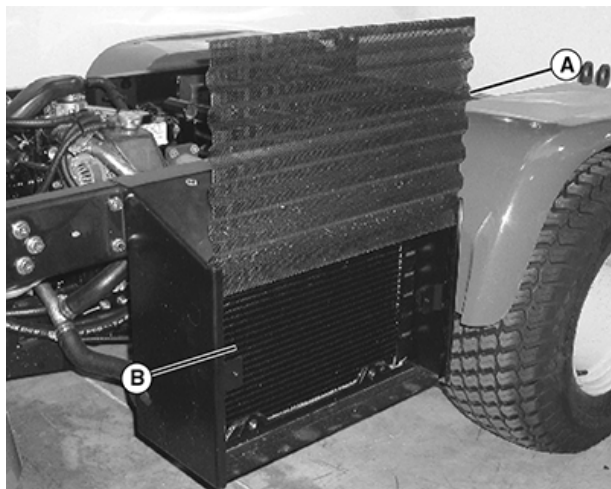
• 清掃のために圧縮空気を使用するときは、ゴーグルを着用してください。

• 圧縮空気の圧力を 210 kPa (30 psi) まで下げてください。

エンジンの整備

重要：冷却フィンとラジエータスクリーンが汚れていると、エンジンが過熱する恐れがあります。ラジエータ冷却フィンとファンは清潔に保ってください。

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。）
2. 機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」参照。）

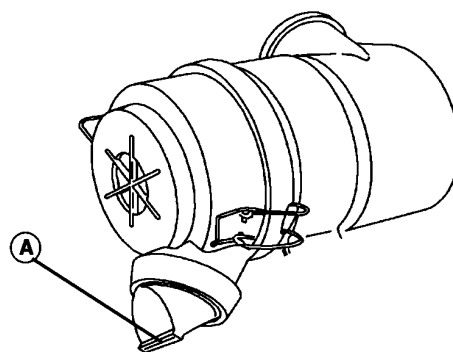


3. ラジエータスクリーン (A) を取り外します。
4. 圧縮空気または低圧水を使用し、補助油圧、オイルクーラー、ラジエータ冷却フィン (B)、ファンシュラウド (C) から泥やごみを取り除きます。
5. ラジエータフィンが損傷していないか点検します。
6. ラジエータスクリーンを取り付けます。
7. アタッチメントを下ろします。

ダストアンローディングバルブの清掃

重要：エアクリーナエレメントとゴム製のダストアンローディングバルブを取り付けていない状態で、エンジンを運転しないでください。

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」参照。）
2. エンジンを冷まします。
3. エンジンルームにアクセスします。



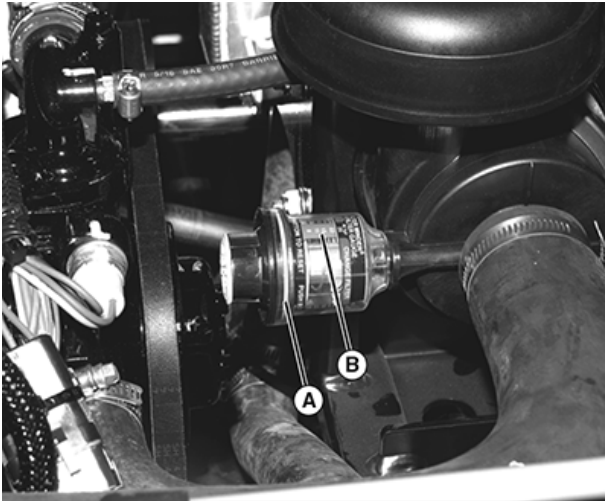
4. ダストアンローディングバルブ (A) を絞って清掃します。損傷がある場合は、取り外して交換します。

吸気量制限インジケータの点検 (ディーゼルモデル)

重要：制限インジケータが赤、または 6.2 kPa (25 in of H₂O) 真空になるまで、絶対にエアクリーナを点検しないでください。これによって吸気システムの汚染が最小限に抑えられます。

埃の多い条件で操作している場合は、より頻繁に吸気量制限インジケータを点検してください。

1. パーキングブレーキをロックします。
2. トランスミッションを「ニュートラル」に入れます。
3. エンジンを始動します。



4. サイトウィンドウ (A) の色調とスケール (B) のバキューム読み値を点検してください。
5. エンジンを停止して、すべての可動部分が停止するまで待機します。
6. サイトウィンドウが赤か、値が 6.2 kPa (25 in. H₂O) 真空の場合は、エアクリーナーエレメントを点検します。

エアクリーナーエレメントの整備

重要： 損傷したフィルタエレメントを通してエンジンに泥やごみが入る可能性があります。

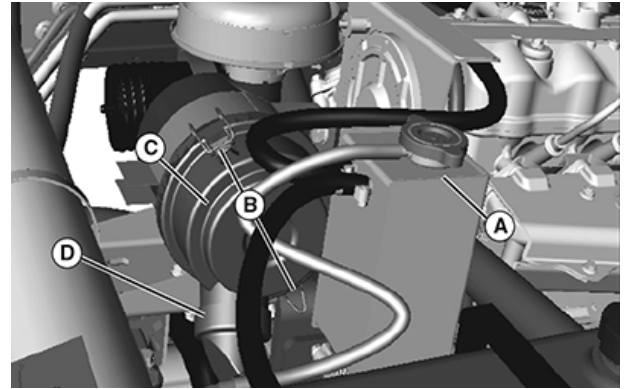
- ペーパーエレメントを洗淨しないでください。
- ペーパーエレメントを物に当てて清掃しないでください。
- エレメントの清掃に圧縮空気を使用しないでください。
- エレメントの汚れや損傷がひどかったり、シールに亀裂が入っている場合のみエレメントを交換してください。

エアクリーナーエレメントの点検

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)

重要： エアクリーナーキャニスターが開いている場合、泥やごみが入り込む可能性があります。定期的な整備に必要でない限り、キャニスターを開けないでください。これによって吸気システムの汚染が最小限に抑えられます。

埃の多い条件で操作している場合は、より頻繁にフィルタエレメントを点検してください。



3. クーラントタンク (A) を邪魔にならないようにていねいに動かし、ラッチ (B) を解除し、エアクリーナーキャニスターカバー (C) を取り外します。
4. 取り外す前に各エレメントを目視点検します。エレメントは、損傷しているか極度に汚れている場合にのみ交換します。

1 次エアフィルタエレメントの交換

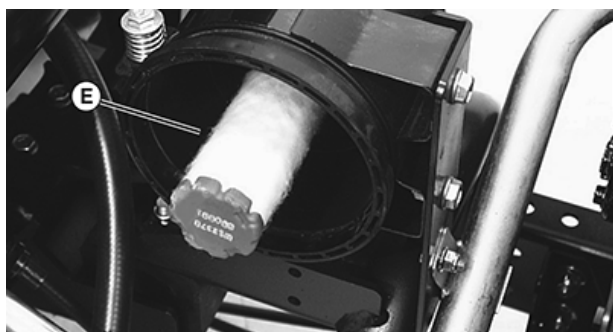


1. 1 次エレメント (E) を取り外して廃棄します。新品の 1 次フィルタエレメントに交換します。
2. エアクリーナーのキャニスターカバー (B) を取り付けます。
 - 正しい取り付け方法については、キャニスターカバーに型取りされている記載に従ってください。
 - ゴム製のダストアンローディングバルブ (D) は、カバーが正しく取り付けられると下向きになるはずです。
 - ラッチ (A) をかけます。

2 次エアフィルタエレメントの交換

1. エアクリーナーのキャニスターカバーを取り外します。
2. 1 次エアフィルタエレメントを取り外します。

エンジンの整備



3. 2次エアフィルタエレメント(E)を取り外して廃棄します。新品の2次フィルタエレメントに交換します。
4. 1次エアフィルタエレメントを取り付けます。
5. エアクリーナのキャニスターカバーを交換します。
6. アタッチメントを下ろします。

エアインテークホース、油圧ホース、ラジエータホース、クランプを点検します

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
3. ホースに漏れや損傷がないか点検して、以下で一覧表示されているシステムで締め付ける場合は、調整クランプを点検してください。必要に応じて交換します。
 - 燃料システム
 - 冷却システム
 - 油圧システム
 - 吸気システム
4. アタッチメントを下ろします。

冷却システムの安全な整備



⚠ 警戒：ラジエータは高温になり、やけどを負う可能性があります。ラジエータキャップを取り外すと、蓄積されている圧力によってクーラントが噴出する可能性があります。次の注意事項に従ってください。

- エンジンを停止して、冷まします。
- エンジンやラジエータに素手で触ることができない限り、キャップを取り外さないでください。
- 最初の停止位置までキャップを徐々に緩め、すべての圧力を解放します。次に、キャップを取り外します。

推奨エンジンクーラント

重要：不適切なクーラント混合液を使用すると、オーバーヒートしたり、ラジエータやエンジンが損傷することがあります。

- 水のみでエンジンを運転しないでください
- クーラントと水の混合液は 50% を超えないでください。
- アルミニウム製のエンジンブロックやラジエータには、認定済みのエチレングリコール系クーラントが必要です。

腐食やシリンダライナーのピッチングに対する通年の保護、および -37°C (-34°F) までの冬季の凍結予防のために、エンジンの冷却システムは充填されています。低温での保護が必要な場合の推奨事項については、John Deere 取扱店にお問い合わせください。

以下のクーラントをお勧めします。

- John Deere COOL-GARD™ II Premix
- John Deere COOL-GARD™ Premix
- John Deere COOL-GARD™ PG Premix

John Deere COOL-GARD™ II Premix と John Deere COOL-GARD™ Premix は、濃度 50% のプロプレングリコールで使用可能です。

John Deere COOL-GARD™ PG Premix は濃度 55% のプロプレングリコールで使用可能です。

その他の推奨クーラント

- John Deere COOL-GARD™ II Concentrate (水との 40 ~ 60% の混合)
- John Deere COOL-GARD™ Concentrate (水との 40 ~ 60% の混合)

推奨クーラントを使用できない場合は、次の基準に適合するエチレングリコール系またはプロプレングリコール系のクーラントを使用してください。

- ASTM D3306 希釈済み (50%) クーラント。
- ASTM D3306 クーラント濃縮液溶液 (水との 40~60% 濃度の混合液)。

エンジンの整備

使用前に容器ラベルを確認し、機械に適した仕様であることを確認してください。コンディショナ入りクーラントを使用するか、使用の前にコンディショナを追加してください。

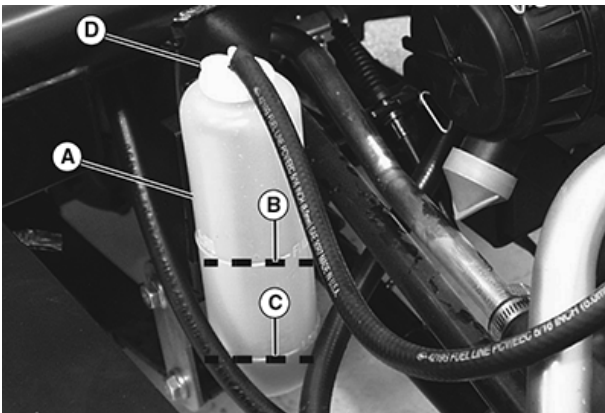
水質

- 冷却システムの性能にとって水質は重要です。エチレングリコール系エンジンクーラント濃縮液では、蒸留水、純水、または脱塩水を推奨します。

冷却システムの整備

クーラントレベルの点検

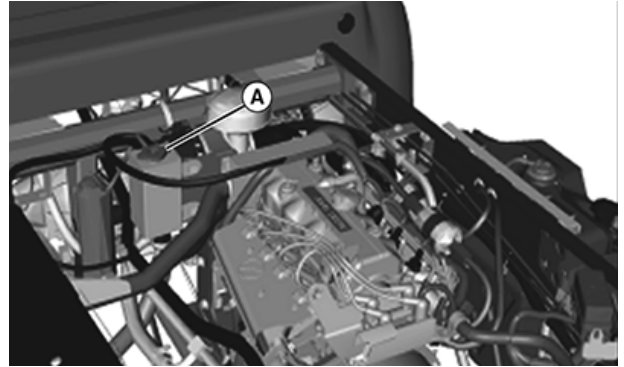
1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



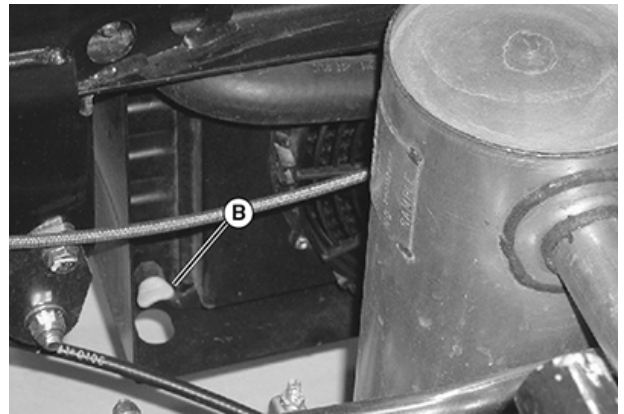
3. リカバリボトル (A) のクーラントレベルを点検します。
 - エンジンが暖まっている場合、クーラントレベルは「FULL」ライン (B) と「LOW」ライン (C) の間にあるはずです。
 - エンジンが冷えている場合、クーラントレベルはリカバリタンクの「LOW」ライン (C) にあるはずです。
4. リカバリボトルのキャップ (D) を取り外して、クーラントを追加します。
5. クーラントレベルが低い時は、希釈済みのクーラントまたは不凍液と水を指定の割合で加えたものを追加します。
6. リカバリボトルのキャップを取り付けて、締め付けます。
7. エンジンの吸気スクリーン、ファンシュラウド、ラジエータ冷却フィン、補助オイルクーラーコイルからごみを取り除きます。
8. クーラントシステムのホースとクランプの状態を点検します。接続の緩みや漏れがないか点検します。

冷却システムの抜き取り

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



3. 最初の停止位置までラジエータキャップ (A) を徐々に緩め、すべての圧力を解放します。
4. ラジエータキャップをしっかりと閉めます。



5. ラジエータのペットコック (B) を開きます。クーラントをパンに抜き取ります。
6. リカバリボトルからクーラントを抜き取る時は、ラジエータキャップを取り外します。
7. クーラントがすべて抜き取られたら、ラジエータのペットコックを閉めます。
8. 冷却システムをフラッシングします。

冷却システムのフラッシング

1. 冷却システムに、きれいな水と John Deere Cooling System Cleaner または John Deere Cooling System Quick Flush または同等の溶液を注入します。缶に記載されている指示に従ってください。
2. ラジエータキャップを取り付けて締め付けます。
3. エンジンを始動し、運転温度に達するまでエンジンを運転します。
4. エンジンを停止します。

エンジンの整備

⚠ 警戒：ラジエータは高温になり、やけどを負う可能性があります。ラジエータキャップを取り外すと、蓄積されている圧力によってクーラントが噴出する可能性があります。次の注意事項に従ってください。

• エンジンを停止して、冷まします。

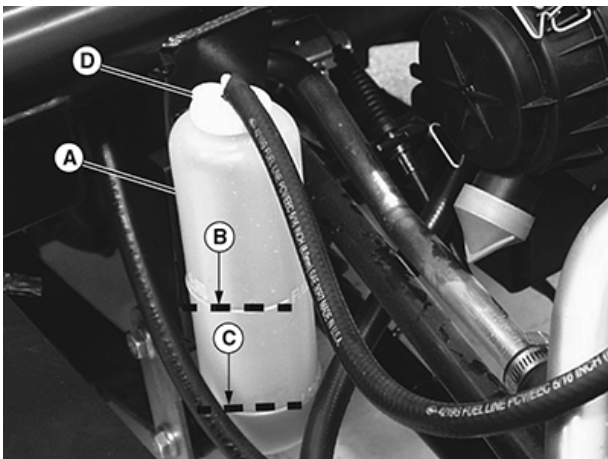
• エンジンやラジエータに素手で触ることができない限り、キャップを取り外さないでください。

• 最初の停止位置までキャップを徐々に緩め、すべての圧力を解放します。その後で、キャップを取り外します。

- ラジエータのペットコックを開きます。
 - 錆やごみが付着する前にすぐに冷却システムを抜き取ります。
 - ペットコックからの排出が遅くなったら、ラジエータキャップを最初のストップのところまで開けて空気を入れ、システムを完全にドレンします。
- ラジエータのペットコックを閉じます。
- 冷却システムに清浄な水を満たし、システムがきれいになるまでフラッシングを繰り返します。

冷却システムへの充填

- 冷却システムに推奨のクーラントを充填します。
 - 特定の地理的条件においては、低温からの保護が必要になることがあります。最新の情報と推奨事項については、お使いの不凍液の容器のラベルを参照するか、John Deere 取扱店にご相談ください。
 - 漏れを止めるため、John Deere Cooling System Sealer または同等品をラジエータに加えることができます。他の添加剤は使用しないでください。
- ラジエータキャップを取り付けて締め付けます。
- 作動温度に達するまでエンジンを運転します。
- エンジンを停止します。



- リカバリボトル (A) のクーラントレベルを点検します。

- エンジンが暖まっている場合、クーラントレベルは「FULL」ライン (B) と「LOW」ライン (C) の間にあるはずです。
- エンジンが冷えている場合、クーラントレベルはリカバリタンクの「LOW」ライン (C) にあるはずです。

- 必要に応じて、リカバリボトルからキャップ (D) を取り外して、クーラントを追加します。
- キャップを取り外してある場合には取り付けます。
- クーラントシステムのホースとクランプの状態を点検します。
- アタッチメントを下ろします。

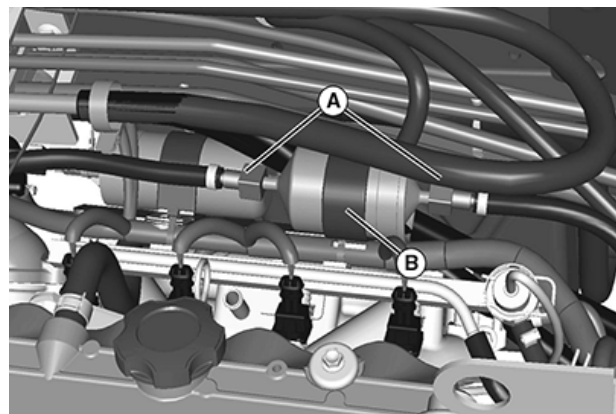
燃料フィルタの交換 (ガソリンモデル)

⚠ 警戒：燃料蒸気は爆発性および可燃性があります。

- 燃料の取り扱い中は喫煙しないでください。
- 火炎や火花に燃料を近づけないでください。
- 整備前にエンジンを停止してください。
- 整備を行う前にエンジンを冷ましてください。
- 十分に換気された場所で作業してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。

注記：燃料が少ない場合は、フィルタを交換してください。

- アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
- 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



- コネクタ (A) のボタンを押し込み、引き離して、クイックコネクション継手を取り外します。
- フィルターを保持している留め具固定クランプ (B) を緩め、フィルタを取り外します。

注記：新しい燃料フィルタを取り付ける場合は、フィルタの矢印が機械の後方を向くように取り付けてください。

エンジンの整備

5. 新品のフィルタを取り付けます。
6. クランプ (B) 留め具を締め付けます。
7. フィルタの端をエンジンオイルで軽く潤滑します。
8. 燃料ラインコネクタをカチッと所定位置にしっかり収まるまでフィルタに押し込みます。

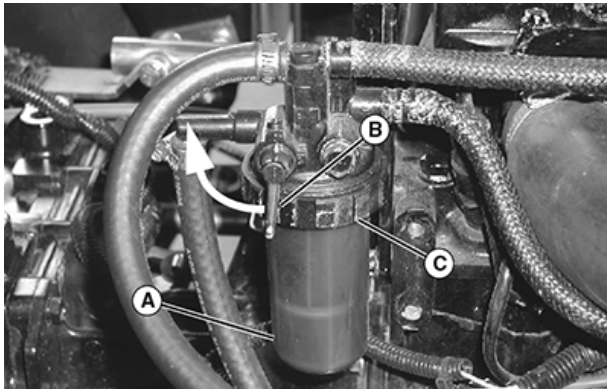
燃料フィルタセグメントボウルの整備 (ディーゼルエンジン)

⚠ 警戒：燃料蒸気は爆発性および可燃性があります。

- 燃料の取り扱い中は喫煙しないでください。
- 火炎や火花に燃料を近づけないでください。
- 整備前にエンジンを停止してください。
- 整備を行う前にエンジンを冷ましてください。
- 十分に換気された場所で作業してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。

セグメントボウルの点検

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



3. セグメントボウル (A) 内に水と堆積物がないか目視点検します。
4. 必要に応じて、ボウルを清掃してフィルタを交換します。

セグメントボウルの清掃と交換

1. 燃料シャットオフバルブ(B) を閉じます。
2. カラー (C) を回し、ボウルとフィルタを取り外します。フィルタを廃棄します。
3. ボウルを清掃します。

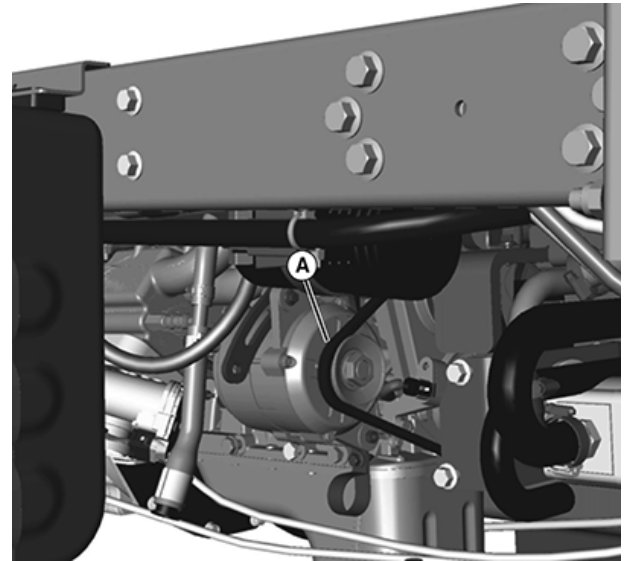
4. 新品のフィルタとボウルを取り付けます。
5. カラーを締め付けます。
6. 燃料シャットオフバルブを開きます。
7. アタッチメントを下ろします。

オルタネータベルトの点検と調整

⚠ 警戒：ベルトやシーブに巻き込まれると、大けがをすることがあります。エンジンを停止して、すべての可動部分が停止するまで待機します。

ベルト張力の点検

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



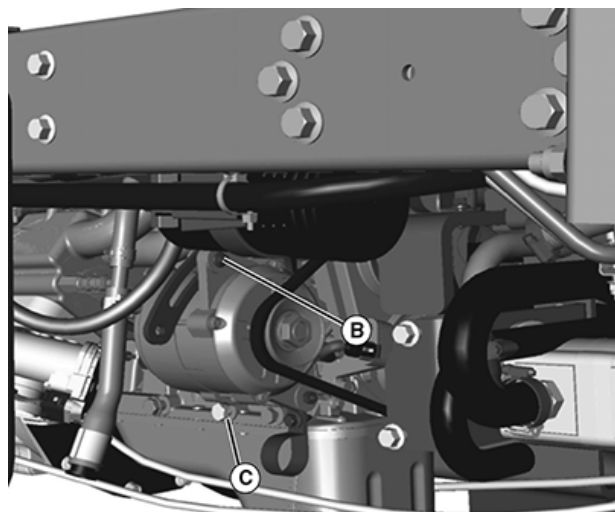
ガソリンモデル (図) ディーゼルモデルでは、オルタネータはエンジンの反対側にあります。分かりやすくするため写真ではいくつかの部品を取り外しています。

3. オルタネータベルト (A) を点検します。
 - シーブ上の所定位置にある状態で、ベルトに過度の摩耗、損傷、伸びがないか点検します。
 - シーブのほぼ中間の位置で、ベルトに親指で圧力を加えます。ベルトはたわみ、規格に適合する必要があります。

仕様

オルタネータベルト
たわみ 10 mm (3/8 in)

ベルト張力の調整



ガソリンモデル (図) ディーゼルモデルでは、オルタネータはエンジンの反対側にあります。分かりやすくするため写真ではいくつかの部品を取り外しています。

1. オルタネータ調整ボルト (B) を緩めます。
2. オルタネータ取り付けボルト (C) を緩めます。
3. オルタネータハウジングに外向きの圧力をかけます。
4. オルタネータ調整ボルトと取り付けボルトを締め付けます。
5. ベルト張力を点検します。
 - シーブのほぼ中間の位置で、ベルトに親指で圧力を加えます。ベルトはたわみ、規格に適合する必要があります。

仕様

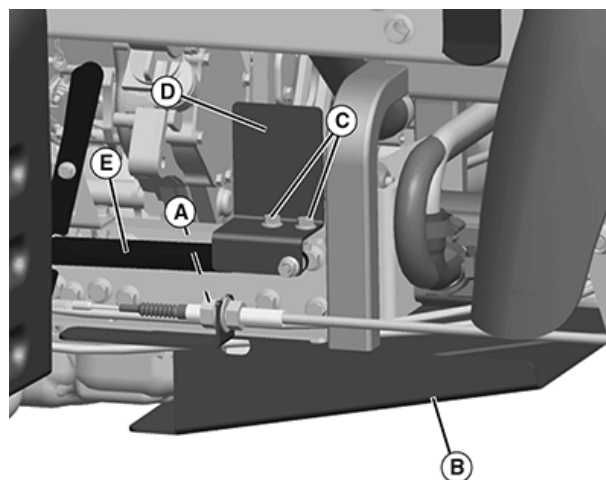
オルタネータベルト
たわみ 10 mm (3/8 in)

6. アタッチメントを下ろします。

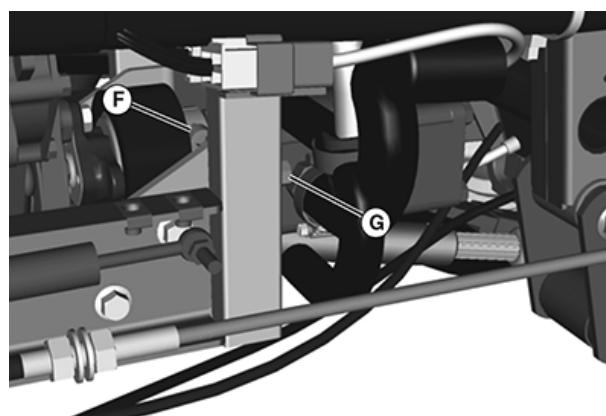
オルタネータベルトの交換

⚠ 警戒： ベルトやシーブに巻き込まれると、大けがをすることがあります。エンジンを停止して、すべての可動部分が停止するまで待機します。

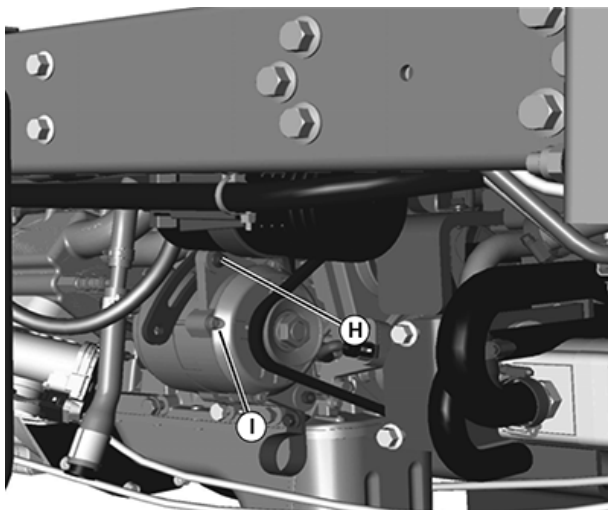
1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



3. ナット (A) とボルト各 2 個を (両側に各 1 個) 取り外します。
4. 横滑りプレート (B) を取り外します。
5. エンジンからボルト 2 個 (C) と下部カブラーガード (D) とアブソーバ (E) (装備されている場合) を取り外します。



6. カップリングを補助ポンプシャフトに固定しているボルト (F) を緩めます。
7. カブラー (G) をポンプに向かってスライドします。



ガソリンモデル (図) ディーゼルモデルでは、オルタネータはエンジンの反対側にあります。分かりやすくするため写真ではいくつかの部品を取り外しています。

8. オルタネータ調整ボルト (H) とオルタネータ取り付けボルト (I) を緩めます。
9. オルタネータを内側に回転して、ベルト張力を緩めます。
10. オルタネータベルトを交換します。
11. オルタネータを外側に回転して、オルタネータベルトを張ります。
12. 調整ボルトと取り付けボルトを締め付けます。
13. ベルト張力を点検します。
 - シープのほぼ中間の位置で、ベルトに親指で圧力を加えます。ベルトはたわみ、規格に適合する必要があります。

仕様

オルタネータベルト
たわみ 10 mm (3/8 in)

14. カプラー (G) をエンジンに向かってスライドします。
15. カップリングを補助ポンプシャフトに固定しているボルトを締め付けます。規定のトルクで締め付けます。

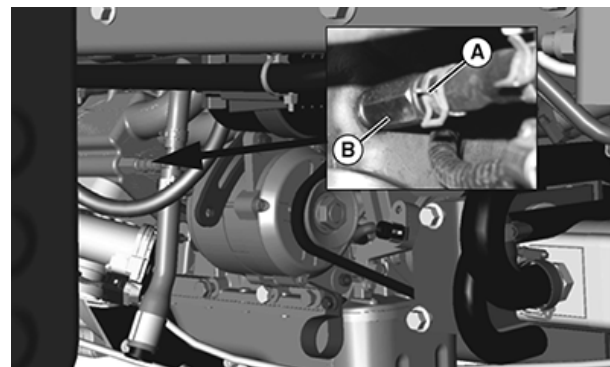
仕様

ボルト
トルク 41 N·m (36 lb-ft)

16. ディーゼルモデル：カプラーガードを 2 個のボルトで取り付けます。
17. 横滑りプレートを 2 個のボルトとナットで取り付けます。
18. アタッチメントを下ろします。

PCV バルブの整備

1. 車両の前に向いているインテークマニフォールドの PCV バルブを見つけます。



2. 張力クランプ (A) を握り、ホースを取り外します。
3. PCV バルブ (B) を 14mm レンチを使用して緩めます。

注記：PCV バルブを清掃するには、圧縮空気を使用して、粒子を取り除きます。

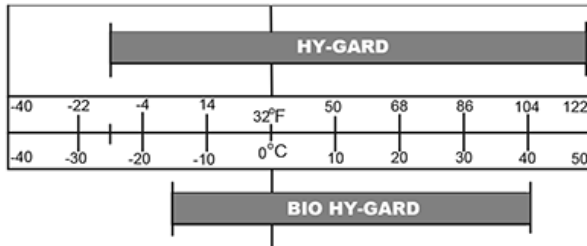
4. 逆の手順で、きれいになった、または新しいバルブを取り付けます。

トランスミッションの整備

トランスミッションオイル

次のオイル交換までの期間に予期される気温範囲に基づいたオイル粘度を使用してください。

以下の John Deere 製トランスミッションオイルと作動油をお勧めします。



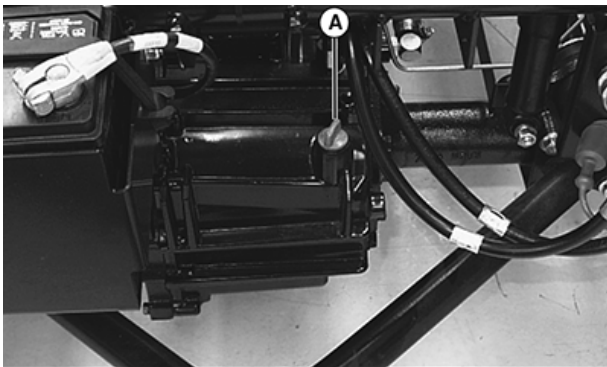
- HY-GARD™ (JDM J20C)
- BIO HY-GARD™

重要：このトランスミッションには高品質オイルのみを使用してください。このトランスミッションに他のオイルを混ぜないでください。エンジンオイルやタイプ「F」(赤)オートマチックトランスミッションフルードは使用しないでください。

トランスミッションオイルレベルの点検

重要：高温状態では作動油が膨張するため、正しいオイルレベルは表示されません。オイルレベルの点検：

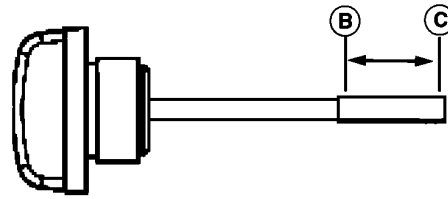
- オイルが冷めている時。
 - エンジンが作動していない時。
1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



2. リザーバーのフィルキャップ/ディップスティック (A) の周りを十分に清掃します。
3. フィルキャップ/ディップスティックを取り外して、清潔な布で拭きます。

注記：ディップスティックを締め付けしないでください。トランスミッションハウジングの上にねじ山を置きます。

4. フィルキャップ/ディップスティックを取り付けます。



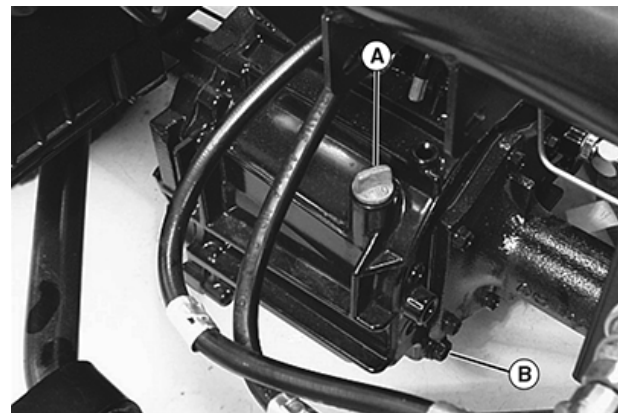
5. フィルキャップ/ディップスティックを取り外します。ディップスティックのオイルレベルを点検します。オイルレベルは、オイルゲージのレベル(B)～(C)の範囲である必要があります。
 - オイルが少ない場合は、ディップスティックのレベル (B) 以下までオイルを追加します。
 - オイル・レベルがオイルゲージのレベル(B)を超えている場合は、適量になるまでオイルを抜きます。
6. フィルキャップ/ディップスティックを取り付けます。

トランスミッションオイルとフィルタの交換

重要：作動油の汚損は、トランスミッションの損傷や故障の原因になります。必要でない限り、注入口からキャップを取り外さないでください。

過酷な条件や通常とは異なる条件では、より頻繁に整備を行う必要があります。

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
 - エンジンとトランスミッションの温度が下がるまで待ちます。

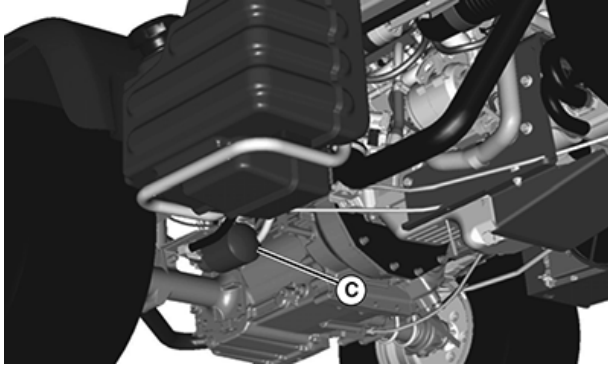


3. トランスミッションのフィルキャップ/ディップスティック (A) の周りを十分に清掃します。フィルキャップ/ディップスティックを取り外します。

トランスミッションの整備

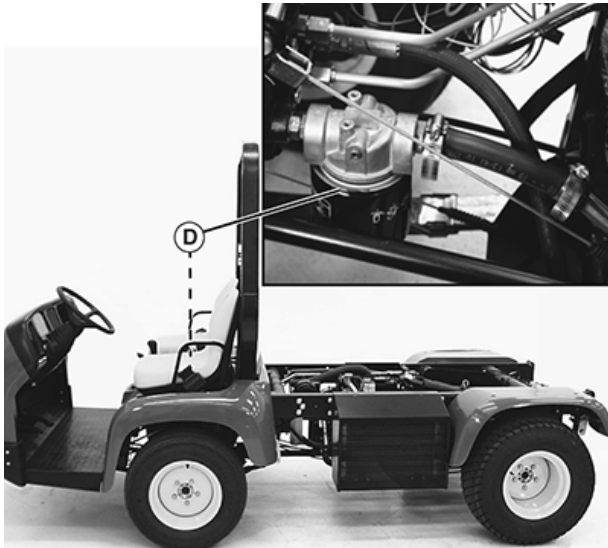
- トランスミッションの右側下にあるドレンプラグ (B) の位置を確認します。
- ドレンプラグを取り外します。オイルがドレンパンに抜けるまで放置します。

注記：車両に補助油圧キットが装備されている場合は、トランスミッションフィルタ (C) は車両の左側にあります。



- 車両左側のトランスアクスルにあるトランスミッションオイルフィルタ (C) の位置を確認します。

注記：車両に補助油圧キットが取り付けられていない場合、トランスミッションフィルタ (D) は車両の中心、制御バルブのすぐ後ろにあります。



- 標準機の中心の制御バルブの後ろにあるトランスミッションオイルフィルタ (D) の位置を確認します。

- フィルタを反時計回りに回して取り外します。ドレンパンでオイルの滴りを受けます。
- 新品のフィルタを取り付けます。
 - 新しいフィルタのガスケットに清浄なオイルを薄く塗布します。

- ガスケットが取り付け面に接触するまで、フィルタを時計回りに回します。ガスケットが接触したら、さらに 1/2 ~ 3/4 回転分締め付けます。

- トランスミッションオイルストレーナを清掃します。
- ドレンプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。

仕様

トランスミッションのドレンプラグ

トルク 49 N·m (36 lb·ft)

- 推奨されるオイルを給油口から注入します。

注記：ディップスティックを締め付けないでください。トランスミッションハウジングの上にねじ山を置きます。

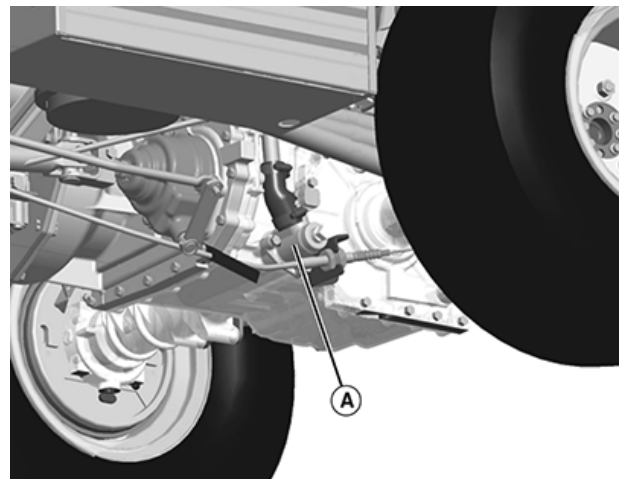
- フィルキャップ/ディップスティックを取り付けます。
- フィルキャップ/ディップスティックを取り外します。オイルレベルを点検し、必要に応じてオイルを適正レベルまで抜きます。
- フィルキャップ/ディップスティックを取り付けます。
- アタッチメントを下ろします。

トランスミッションオイルストレーナの清掃

⚠ 警戒：オイルストレーナを清掃する場合は、注意してください。機械の操作中はトランスミッションオイルの温度が高くなることがあります。

注記：トランスミッションオイルとフィルタを交換する時は、常にストレーナを清掃してください。ストレーナの整備は、トランスミッションが空のときに行ってください。

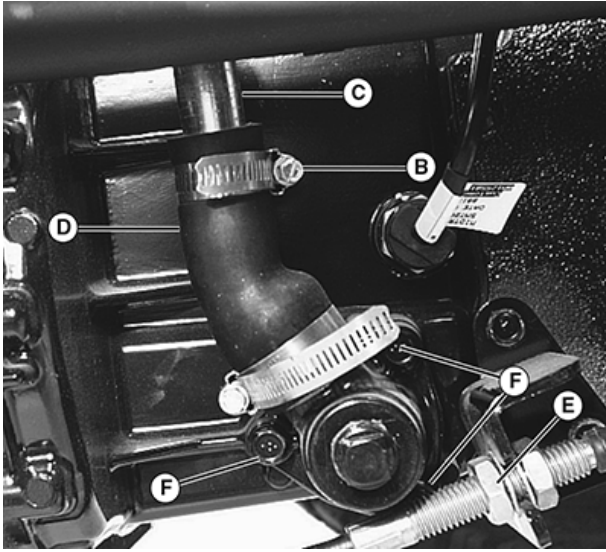
- トランスミッションオイルとフィルタを交換します。



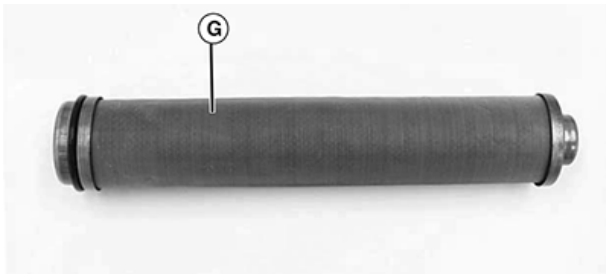
- 車両の左側にあるストレーナハウジング (A) の位置を確認します。

トランスミッションの整備

注記：ドレンパンでオイルの滴りを受けます。



- 調整式ホースクランプ (B) を緩めます。
- ゴムホース (D) から油圧ライン (C) を取り外します。
- ジャムナット (E) を緩め、ディファレンシャルケーブルを取り外します。
- 3 個の六角ボルト (F) を緩めて、取り外します。
- ストレーナハウジングとストレーナを取り外します。

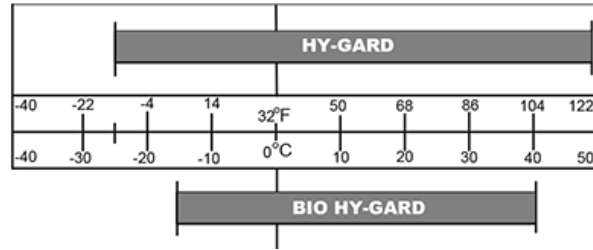


- 溶剤またはミネラルスピリットでストレーナ (G) を清掃し、乾燥させます。
- ストレーナをストレーナハウジングに取り付けます。
- 必要に応じてストレーナハウジングガスケットを交換します。
- ストレーナハウジングを取り付けます。
- 3 個の六角ボルトを取り付けて、締め付けます。
- ゴムホースを油圧ラインに取り付けます。
- 調整式ホースクランプを締め付けます。
- ディファレンシャルケーブルを取り付け、ジャムナットを締め付けます。

フロント車軸オイル

次のオイル交換までの期間に予期される気温範囲に基づいたオイル粘度を使用してください。

以下の John Deere 製作動油をお勧めします。



- HY-GARD™ (JDM J20C)
- BIO HY-GARD™

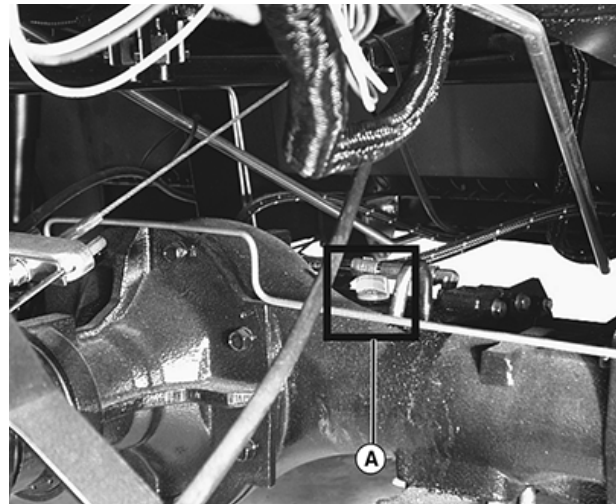
重要：このギアケースには高品質オイルのみを使用してください。このギアケースに他のオイルを混ぜないでください。

フロント車軸オイルレベルの点検 (4WD モデル)

重要：フロント車軸オイルが冷えるまで待つてから、オイルレベルを点検してください。

- 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)

重要：オイルに泥やごみが含まれていると、損傷の原因になります。汚染物質のオイルディップスティックの位置からの混入を防止してください。ディップスティックを取り外す前にディップスティックの周りを清掃してください。



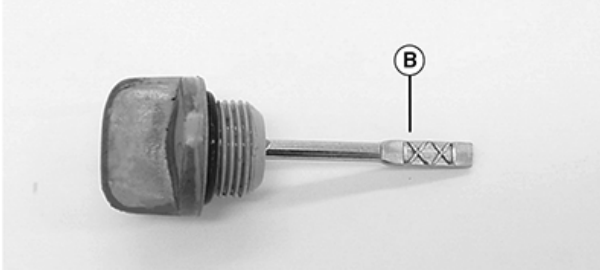
- ディップスティック (A) を緩めて、車軸から取り外します。

トランスミッションの整備

- ディップスティックをきれいな布で拭いて乾燥させます。

注記：ディップスティックを締め付けないでください。ねじ山が車軸ハウジングの上に来るようにしてください。

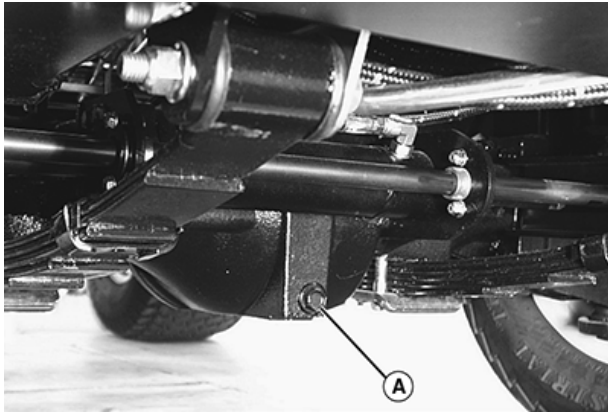
- ディップスティックを車軸ハウジングの中に取り付けます。



- ディップスティックを取り外します。オイルレベルはディップスティック上のレベル (B) にある必要があります。
 - オイルがこのレベルより低い場合は、オイルを追加します。オイルレベルはディップスティックで XX 範囲の一番上 (B) にある必要があります。
- ディップスティックを取り付けて締め付けます。

フロント車軸オイル (4WD モデル)の交換

- 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
- オイルドレンの下に容器を置きます。



- ディファレンシャルドレンプラグ (A) を取り外して、オイルを抜き取ります。
- ドレンプラグを取り付けて締め付けます。

重要：オイルに泥やごみが含まれていると、損傷の原因になります。汚染物質のオイルディップスティックの位置からの混入を防止してください。ディップスティック

を取り外す前にディップスティックの周りを清掃してください。

- ディップスティック (A) を緩めて、ディファレンシャルハウジングから取り外します。
- 推奨オイルをディップスティックの開口部から追加します。
- ディップスティックをきれいな布で拭いて乾燥させます。

注記：ディップスティックを締め付けないでください。ねじ山がディップスティックの開口部の上に来るようにしてください。

- ディップスティックを取り付けます。
- ディップスティックを取り外します。オイルレベルはディップスティックで XX 範囲の一番上にある必要があります。
 - オイルがそれより少ない場合は、オイルレベルがディップスティックの XX 範囲の一番上になるまでオイルを追加します。

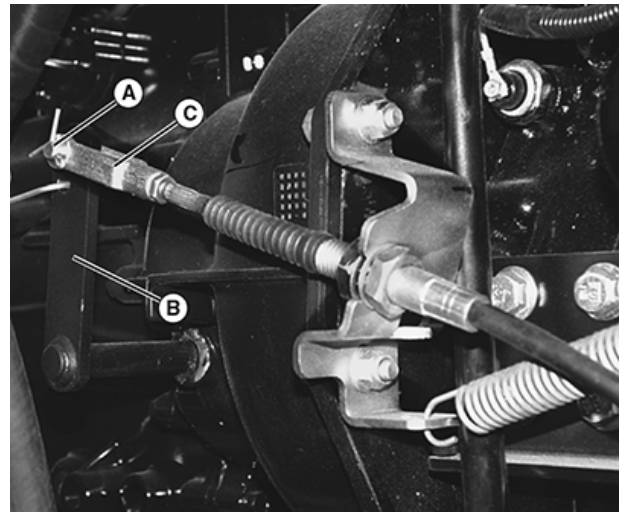
- ディップスティックを取り付けて締め付けます。

注記：オイルがフロント車軸ハウジングを通してゆっくりと流れます。最初の数時間の運転後、オイルレベルを再点検します。

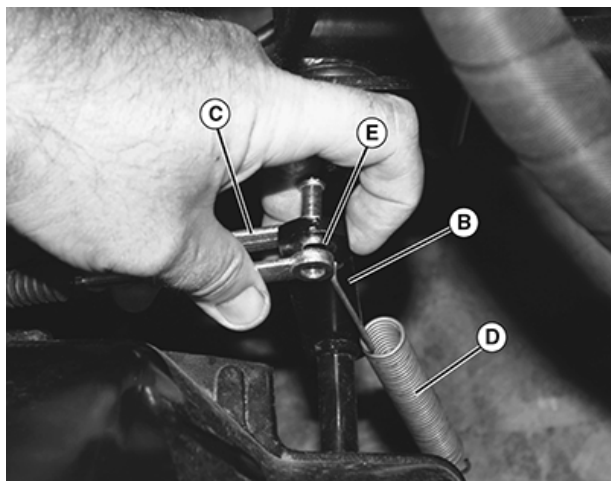
クラッチとアクセルケーブルの調整

クラッチケーブルの調整

- 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



- コッタピンとピン (A) をクラッチアーム (B) とクレビス (C) から取り外します。



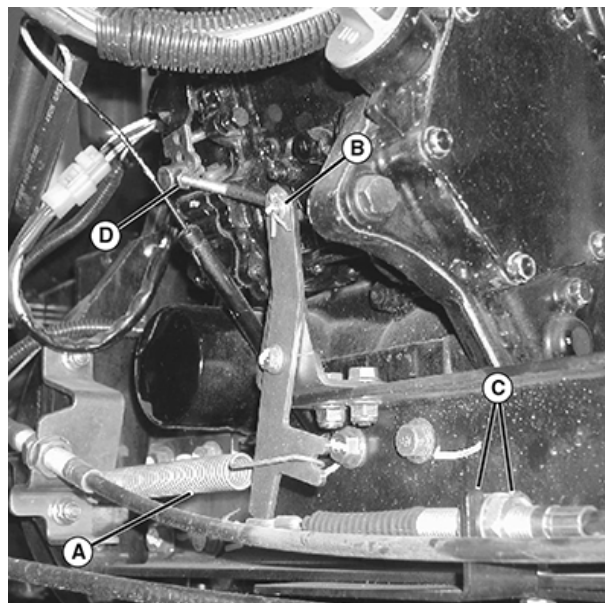
3. スプリング (D) の接続を外し、クラッチアーム (B) とクレビス (C) を互いに引っ張り合うようにして、穴が整列しているか点検します。

注記：移動位置の最上部までクラッチペダルを引き込むか、あるいは、移動位置の最上部までクラッチペダルが上がるのをブロックするのに十分な力がクレビスに加えられていることを確認します。

4. 穴 (E) が一列に並んでいない場合、クレビス上のロックナットを緩めて、穴が整列するまでクレビスを調整します。
5. ピンを取り付けて、伸縮スプリングを接続します。
6. クラッチアームに 1~2 mm の遊びができるまで、ケーブルジャムナットを締め付けて調整します。
7. クレビスピンがクレビスとクラッチアームの間に自由にスライドできることを確認してください。
8. ジャムナットを締め付けます。
9. スプリングを接続します。

アクセルケーブルの調整 (ディーゼルモデルのみ)

1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
2. 反射テープをクランクシャフトプーリーの外縁に貼ります。
3. エンジンを始動し、5 分間、またはエンジンが作動温度に達するまで運転します。
4. エンジンが運転した状態で、スロットルペダルをフロアまでいっぱい踏み込み、JT05719 デジタルタコメータを使用してエンジン回転数を点検します。
5. ファーストアイドルが 3450 ± 50 rpm 以上または以下の場合、エンジンを停止します。



6. スプリング (A) の接続を外します。
7. スロットル調整ピンからコッタピンと座金 (B) を取り外し、カバナーレバーから接続を外します。
8. スロットルペダルをフロアに押します。ペダルをフロアまで完全に押し込めない場合は、ジャムナット (C) を緩め、ケーブルを調整します。
9. アクセルペダルがフロアにある状態で、ガバナースロットルレバーをファーストアイドル位置に保持し、調整ピンとレバーの穴が整列しているか点検します。
10. ピンがスロットルレバーの穴と合わない場合は、調整ピンのロックナット (D) を緩め、ピンがスロットル・レバーの穴に合うまで調整します。
11. 座金とコッタピンをスロットルロッド調整ピンに取り付け、ロックナットを締め付けます。

油圧の整備

オプションの補助油圧の整備

⚠ 警戒：圧力のかかった液体が噴き出すと、皮膚に侵入して大けがをする恐れがあります。油圧パイプや他のパイプを外す前に圧力を解放して、危険を回避してください。また、圧力をかける前にすべての接続をしっかり締めてください。ボール紙で漏れを探してください。手や身体を高圧流体から保護してください。作動油を補充したり抜いたりする時は慎重に行ってください。

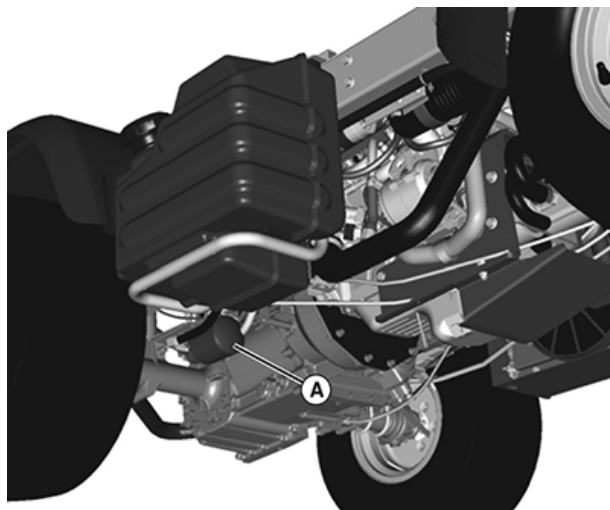
機械の操作中は作動油リザーバーの温度が高くなる場合があります。エンジンとオイルリザーバーの温度が下がってから整備を行ってください。

重要：作動油の汚損は、トランスミッションの損傷や故障の原因になります。オイルリザーバーキャップは、必要な場合以外は決して開けないでください。過酷な条件や通常とは異なる条件では、より頻繁に整備を行う必要があります。

注記：この整備手順は、補助油圧キットが装備された車両にのみ適用されます。

液体の抜き取りとフィルタの交換

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」参照。）
3. エンジンとオイルリザーバーが冷めるまで待ちます。



4. トランスミッションドレンプラグを使用して、作動油を抜き取ります。（「トランスミッションオイルとフィルタの交換」参照。）
5. 車両左側のトランスアクスルにあるトランスミッションオイルフィルタ (A) の位置を確認します。

6. フィルタを反時計回りに回して取り外します。ドレンパンでオイルの滴りを受けます。
7. 新しいフィルタのガスケットに清浄なオイルを薄く塗布します。
8. ガスケットが取り付け面に接触するまで、フィルタを時計回りに回します。ガスケットが接触したら、さらに 1/2～3/4 回転分締め付けます。
9. トランスミッションドレンプラグを取り付けます。締め付けすぎないでください。
10. トランスミッションを注入します（「トランスミッションオイルとフィルタの交換」参照）。

オイルクーラーの清掃

⚠ 警戒：圧縮空気を使用すると、遠くまでごみが飛ぶ可能性があります。

・作業エリアに人を近づけないでください。

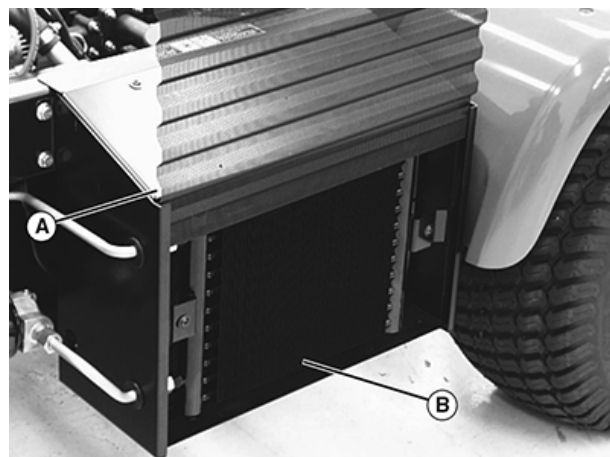
・清掃のために圧縮空気を使用するときは、ゴーグルを着用してください。

・圧縮空気の圧力を 210 kPa (30 psi) まで下げてください。

重要：冷却フィン、エンジンの過熱を防止し、適切な吸気を確保するために、清潔にしておく必要があります。

注記：この整備手順は、補助油圧キットが装備されている車両で実行される必要があります。

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。）
2. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」参照。）



3. エンジンラジエータの前の位置にある吸気スクリーン (A) を上昇させます。

油圧の整備

4. 圧縮空気や水を使用して、オイルクーリングコイル(B)から泥やごみを取り除きます。コイルが損傷していないか点検します。
5. 吸気スクリーンを取り付けます。
6. アタッチメントを下ろします。

ステアリングとブレーキの整備

ブレーキ液

すべてのドラムとディスクブレーキには、以下のヘビーデューティブレーキ液を推奨します。

- ブレーキ液 : DOT3

以下に準じている場合は、他のブレーキ液を使用できます。

- 自動車の安全基準 No. 116 に準拠。
- 最低ウェット沸点 140°C (284°F)。
- ペーパーロック防止のための最低ドライ沸点 232°C (450°F)。

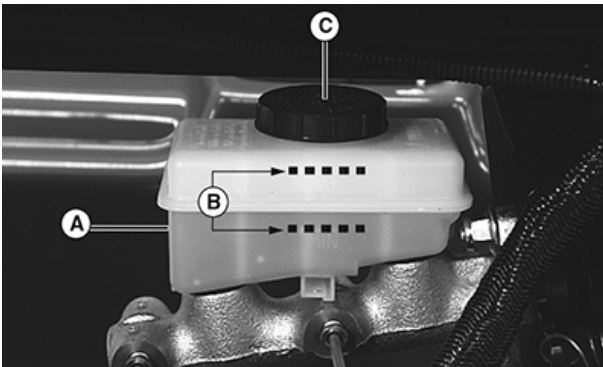
ブレーキ液レベルを点検する

重要：ブレーキ液に汚染物が入らないようにしてください。取り外す前にフィラーキャップの周りを十分に清掃します。ブレーキ液リザーバーキャップは、絶対に必要な場合以外は開けないでください。

リザーバーの注入は慎重に行ってください。液体が塗装面にこぼれると損傷の原因になります。

密閉された容器に入っているブレーキ液のみを使用してください。

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
2. フロントグリルをまっすぐ引き出して、取り外します。



3. 透明リザーバー (A) の液体が適切な量であるか目視で点検します。
 - 液体のレベルが「MAX」最大注入ラインと「MIN」最小注入ライン (B) の間に維持される必要があります。

- 液体のレベルが「MIN」最小注入ライン (B) より上にある場合は、キャップを開けないでください。

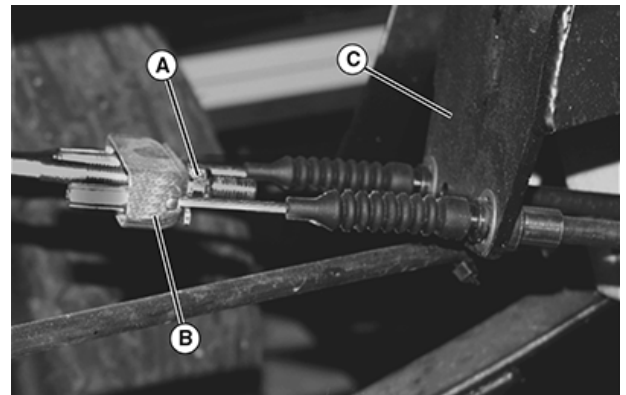
4. 液体の量が少ない場合：
 - リザーバーキャップ (C) の周りを注意深く清掃します。キャップを緩めます。
 - レベルがリザーバーの最大および最小注入ラインの中間ぐらいになるまで液体を追加します。
5. リザーバーキャップを取り付け、こぼれた液体は拭き取ります。
6. フロントグリルを取り付けます。

パーキングブレーキの調整

注記：パーキングブレーキケーブルを調整する前に、リアブレーキを正しく調整する必要があります。

1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)

重要：ブレーキに予荷重がかかるので、ケーブルを締め付けすぎないでください。



2. コントロールケーブルスライドロッドとクレビス (C) 中のたるみを取り除かれるまで、イコライザー (B) でブレーキレバーケーブル上のナット (A) を調整します。
3. 各パーキングブレーキケーブルを点検し、伸縮スプリングが完全に圧縮されていないことを確認します。圧縮されている場合は、ブレーキライニングを交換する必要があります。

電気系統の整備

警告：バッテリー電極、端子、および関連アクセサリには、癌の原因になったり、生殖機能に有害なことがカリフォルニア州により確認されている鉛や鉛化合物が含まれています。取り扱い後は手を洗ってください。

バッテリーの安全な整備



⚠ 警戒：バッテリー電解液は硫酸を含んでいます。これは有毒であり、重度のやけどの原因になります。

- ゴーグルと手袋を着用してください。
- 皮膚を保護してください。
- 電解液を飲み込んだ場合は、直ちに治療を受けてください。
- 電解液が目に入った場合は、すぐに 15～30 分間水でフラッシングして、治療を受けてください。
- 電解液が皮膚に触れた場合は、すぐに水で洗い、必要に応じて治療を受けてください。

バッテリーは可燃性ガスおよび爆発性ガスを発生します。

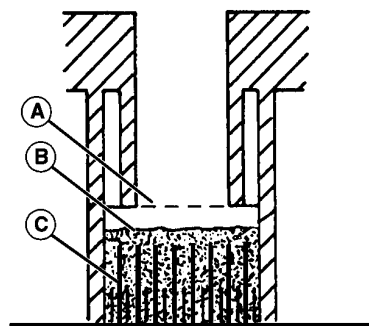
バッテリーは爆発する可能性があるため、次の点に注意してください。

- バッテリーの近くで喫煙しないでください。
- ゴーグルと手袋を着用してください。
- バッテリー電極間に金属を直接接触させないでください。
- 接続を外すときは、最初にマイナスケーブルを取り外してください。
- 接続するときは、マイナスケーブルを最後に取り付けてください。

バッテリー電解液レベルの点検

注記：バッテリー電解液の補充には、蒸留水のみを使用してください。

1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
2. バッテリーセルキャップを取り外します。キャップの通気孔が塞がっていないことを確認します。



3. 電解液レベルを点検します。電解液 (B) は、フィラーネック (A) 底部とプレート (C) 上部のほぼ中間位置まで入っている必要があります。

重要：バッテリーに入れすぎないでください。バッテリーの充電時に電解液があふれて、損傷が発生します。

4. 必要の場合は、蒸留水のみを補充してください。
5. バッテリーセルキャップを取り付けます。

バッテリーと端子の清掃

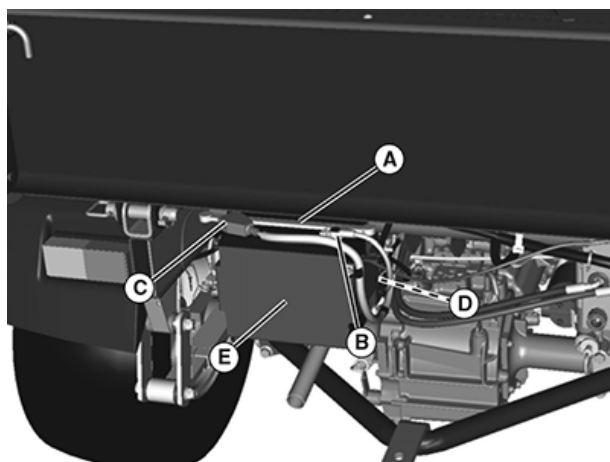
1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
2. バッテリーの接続を外して取り外します。
3. 水 1 gal に重曹大さじ 4 を混ぜた溶液でバッテリーを洗浄します。重曹溶剤がセル内に入らないように注意してください。
4. バッテリーを淡水で洗い、乾燥させます。
5. ワイヤブラシで端子とバッテリーケーブル端部を光沢が出るまで清掃します。
6. バッテリーを取り付けます。
7. 座金とナットを使用し、プラスケーブルから先にケーブルをバッテリー端子に取り付けます。
8. スプレー潤滑剤を端子に吹き付けて腐食を防止します。

バッテリーの取り外しと取り付け

バッテリーの取り外し

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)

電気系統の整備



2. バッテリーを固定しているストラップ (A) を取り外します。
3. バッテリーのマイナス (-) ケーブル (B) の接続を外します。
4. 赤色のカバーをバッテリーのプラス (+) ケーブル (C) から押して離し、バッテリーからケーブルの接続を外します。
5. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

注記：サービスバッテリーは奥行きがわずかに深いため、バッテリーブラケットの取り外しが必要になる場合があります。バッテリーブラケットには 2 セットの取り付け穴があります。

1. 交換用バッテリーが取り外したバッテリーより大きい場合：
 - a. 金具 (D) をブラケットの両側と下側から取り外します。
 - b. より奥行きのある整備バッテリーが合うように、ブラケット (E) をブラケットの他の穴へスライドします。
 - c. 金具を取り付けます。
2. バッテリーを取り付けます。
3. 最初にプラス (+) ケーブルをバッテリーのプラス (+) 端子に接続し、次にマイナス (-) ケーブルをバッテリーのマイナス (-) 端子に接続します。
4. スプレー潤滑剤をバッテリー端子に吹き付けて、腐食を防止します。
5. ストラップを取り付けて、バッテリーを固定します。

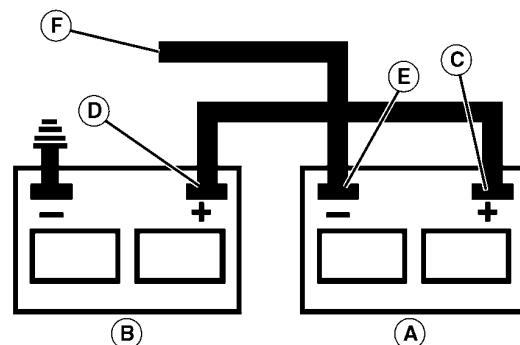
ブースターバッテリーの使用

⚠ 警戒：バッテリーは可燃性ガスおよび爆発性ガスを発生します。バッテリーは爆発する可能性があるため、次の点に注意してください。

- ・バッテリーの近くで喫煙したり、直火を使用しないでください。
- ・ゴーグルと手袋を着用してください。

・凍りついたバッテリーをジャンプスタートしたり、充電したりしないでください。バッテリーを 16°C (60°F) に暖めてください。

・放電したバッテリーのマイナス (-) 端子にマイナス (-) ブースターケーブルを接続しないでください。放電したバッテリーから離れた良好なアース位置に接続してください。



A：ブースターバッテリー
B：放電したバッテリー

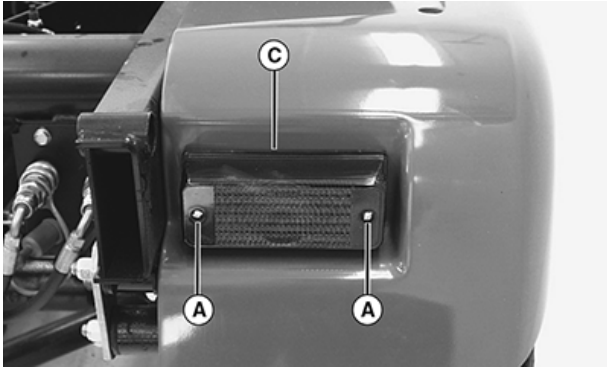
1. プラス (+) ブースターケーブルをブースターバッテリー (A) のプラス (+) 電極 (C) に接続します。
2. プラス (+) ブースターケーブルの反対側の端部を、放電したバッテリー (B) のプラス (+) 電極 (D) に接続します。
3. マイナス (-) ブースターケーブルをブースターバッテリーのマイナス (-) 電極 (E) に接続します。

重要：ブースターバッテリーからの充電により機械の部品が損傷する可能性があります。マイナスブースターケーブルを機械のフレームに取り付けしないでください。エンジンブロックのみに取り付けてください。ベルトやファンブレードなど、エンジンルームの可動部品から離してマイナスブースターケーブルを取り付けます。

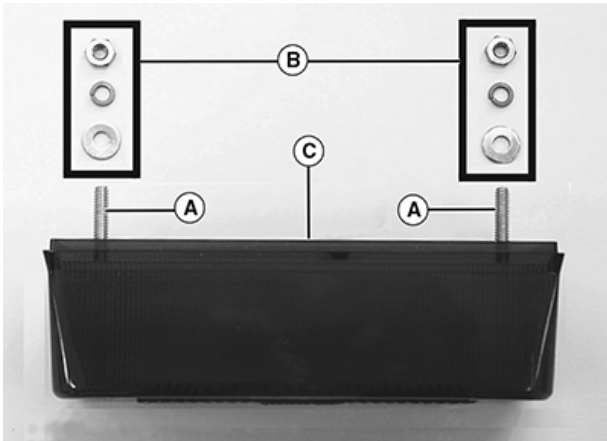
4. マイナス (-) ブースターケーブルの反対側の端部 (F) を、放電した機械のバッテリーから離れたエンジンブロックの金属部分に接続します。
5. 動かなくなった機械のエンジンを始動し、機械を数分間運転します。
6. ブースターケーブルを接続したときと逆の順に、次のように外します。最初にマイナスケーブル、次にプラスケーブル。

ストップライト/テールライトの電球の交換

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



2. ボルト 2 本 (A) を取り外します。



3. 取り付け金具 (B) とレンズ (C) をストップライト/テールライトアセンブリの組み合わせから取り外します。
4. 故障した電球を取り外します。
 - 電球を反時計回りに約 1/3 回転まわして、ソケットから取り外します。
5. 新しい電球をソケットに取り付けます。
 - 電球の上部を押して、固定位置に時計回りに回します。
6. ライトの動作を点検します。
7. レンズを取り付けます。

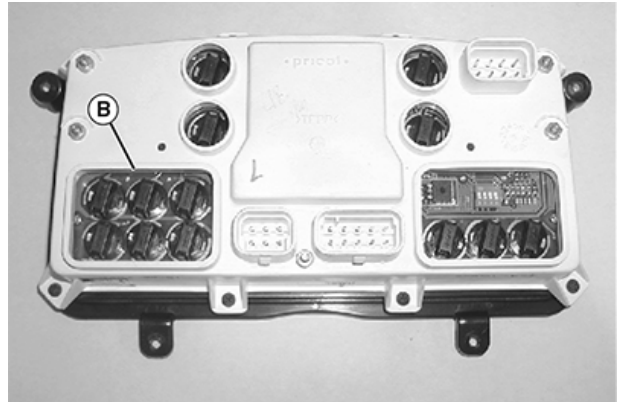
表示灯の電球の交換

1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
2. フロントグリルを取り外します。

注記：分かりやすくするため写真では計器盤ハウジングを取り外しています。



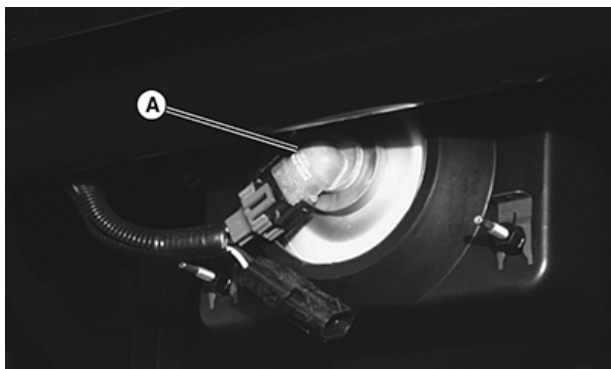
3. 計器盤ハウジング (A) 後部の位置を確認します。



4. ゴム製プラグを取り外して、表示灯の電球アセンブリの位置を確認します。
5. 故障した電球アセンブリ (B) を計器盤ハウジングから取り外します。
 - 電球アセンブリを反時計回りに約 1/3 回転分まわして、ハウジングソケットから取り外します。
6. 新品の電球アセンブリをハウジングソケットに取り付け、時計回りに回転させてロック位置にします。
7. ライトの動作を点検します。
8. ゴム製プラグを取り付けます。
9. フロントグリルを取り付けます。

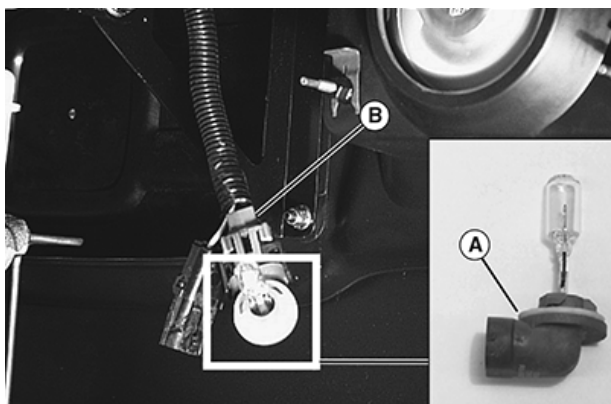
ヘッドライト電球の交換

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
2. 車両のダッシュの下にあるヘッドライトハウジングの位置を確認します。



3. 電球アセンブリ (A) を反時計回りに約 1/3 回転分まわして、ソケットから取り外します。

重要：ガラス製のヘッドライト電球に素手で触れないでください。電球が早期に故障する可能性があります。電球の点検や交換時は、手袋またはウェスを使用してください。



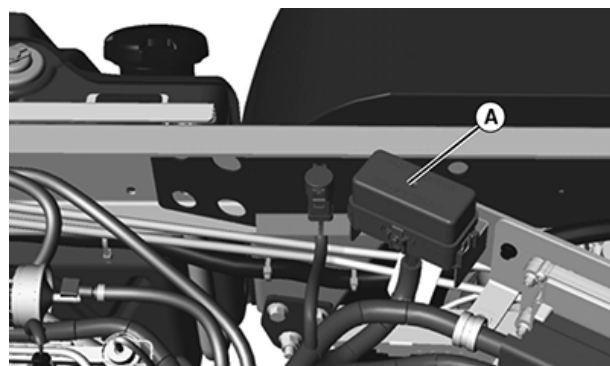
4. 電球アセンブリからワイヤハーネス (B) の接続を外します。
5. 交換用電球アセンブリ (A) にワイヤハーネスを接続します。

6. 新品のヘッドライト電球アセンブリをハウジングソケットに取り付け、ロック位置まで回します。
7. ライトの動作を点検します。

ヒューズの点検と交換

重要：車両の電気回路の損傷を防止してください。交換用ヒューズが正しいサイズであることを確認してください。

1. 車両を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」参照。）
2. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。（「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。）
3. ヒューズボックス (A) の断線。



4. ヒューズを確認し、対角フレームのコントローラの後ろにあるヒューズボックス近くのステッカーを参照してください。
5. 故障したヒューズを交換します。
 - ヒューズホルダから故障したヒューズを取り外します。
 - 新しいヒューズを取り付けます。

適切な燃料の使用

適切な燃料 (ディーゼル) の使用

エンジン性能の低下を防ぎ、排ガスの増加を抑えるため、適切なディーゼル燃料を使用してください。下記の燃料要件に従わない場合、エンジンの保証が無効になる場合があります。

地域のディーゼル燃料の特性については、現地の燃料販売店にお問い合わせください。

一般に、ディーゼル燃料は販売される地域の低温要件に合わせて混合されます。

EN 590 または ASTM D975 に規定されたディーゼル燃料を推奨します。

必要な燃料特性

あらゆる場合に燃料は次の特性に適合する必要があります。

最低 45 のセタン価。 特に -20°C (-4°F) 未満の温度または 1,500 m (5,000 ft) を超える高度では、50 を超えるセタン価を推奨します。

寒冷フィルタ目詰まり点 (CFPP, Cold Filter Plugging Point) が予期される最低温度より少なくとも 5°C (9°F) 低いか、**曇り点**が予期される最低周囲温度より低い必要があります。

燃料潤滑性は ASTM D6079 または ISO 12156-1 によって評価される最大傷跡直径 0.45 mm に合格する必要があります。

重要：不適切な燃料添加剤の使用により、ディーゼルエンジンのフューエルインジェクション装置が損傷する恐れがあります。

潤滑性が低いまたは不明な燃料を使用する場合は、指定の濃度の John Deere PREMIUM DIESEL FUEL CONDITIONER (または同等品) を加えてください。

硫黄含有量

- ディーゼル燃料の品質と燃料硫黄含有量は、エンジンを運転する地域に存在するすべての排出ガス規制に準拠する必要があります。
- 硫黄含有量が最大 0.0015% (15 mg/kg) の超低硫黄ディーゼル (ULSD) 燃料のみを使用してください。

重要：ディーゼルエンジンオイルやその他の種類の潤滑剤をディーゼル燃料と混合しないでください。

バイオディーゼル燃料の使用

バイオディーゼル燃料は、特性が ASTM D6751、ASTM D7467、EN14214、または同等の規格の最新版に適合する場合のみ使用できます。

バイオディーゼル燃料の現行の最大許容濃度は石油系ディーゼル燃料で 5% ブレンド (B5) です。

機械を John Deere 純正 B20 キットで改造した場合は、B20 までの濃縮タイプを使用できます。B6~B20 燃料を使用

した場合、一部の部品のメンテナンス間隔を変更する必要があります。燃料の取り扱いと機械の保管に特別な手順が必要です。

お使いのディーゼルエンジンにおけるバイオディーゼルの使用推奨条件の変更については、お近くの John Deere 取扱店にお問い合わせください。

ディーゼル燃料の取り扱いと保管

⚠ 警戒：燃料の取り扱いに注意してください。エンジンの作動中は燃料タンクに給油しないでください。

燃料タンクへの給油や燃料システムの整備中は、喫煙しないでください。

重要：亜鉛メッキされた容器は使用しないでください。亜鉛メッキされた容器のディーゼル燃料と容器の亜鉛コーティングが反応して亜鉛フレークが発生します。燃料に水が含まれる場合も亜鉛ゲルが形成されます。ゲルやフレークは、急速に燃料フィルタを詰まらせてフューエルインジェクタや燃料ポンプを損傷させます。

- 寒冷気候での水分凝縮や凍結を避けるため、毎日の作業終了時に燃料タンクをいっぱいにしてください。

重要：燃料タンクのフィルターキャップには通気口があります。新しいフィルターキャップが必要な場合は、必ず純正の通気口付きキャップと交換してください。

- 燃料を長期間保管する場合や燃料の使用がわずかな場合は、燃料を安定させて水分凝縮を防ぐために、フューエルコンディショナを追加してください。推奨品については、燃料の販売業者にお問い合わせください。

正しい燃料の使用 (ガソリン)

オクタン価 87 以上の標準等級の無鉛燃料を使用します。最大 10% のエタノール、または最大 15% の MTBE 改質燃料が含まれる燃料混合物を使用できます。メタノールが含まれる燃料または添加剤は、エンジンを損傷させる可能性があるので使用しないでください。

常に約 30 日以内に使いきれる量で購入した新しい清浄な燃料を使用するか、燃料安定剤を加えてください。

燃料は季節性能が最適になるように混合されています。始動しにくい、ペーパーロックなどのエンジン性能の問題を防止するため、季節にあった燃料を使用してください。温暖気候ではその季節中に購入した燃料を使用し、寒冷気候ではその季節中に購入した燃料を使用してください。

ある季節に限って使用されたり、季節中も使用頻度が低いエンジンを備えた機械の場合、燃料が機械内で劣化する可能性があります。劣化した燃料からワニスが生成され、キャブレターやインジェクタ部品が詰まって、エンジン性能に影響を与える可能性があります。

燃料保管容器はしっかりカバーを掛け、直射日光の当たらない涼しい場所に保管してください。適切に密閉されていない場合、太陽光や熱にさらされたりした場合、燃料が分解して劣化する可能性があります。

その他の整備

さまざまな作動条件や環境条件により燃料タンク内に結露が起きる場合があります。時間が経過すると、機械の作動に影響することがあります。毎日の作業終了後に燃料タンクに充填し、燃料は結露防止のためプラスチック容器で保管してください。

年間を通して性能と燃料の取り扱いを最適化するため、燃料を購入したら直ちに安定剤を加えてください。このような慣行により、エンジン性能の問題を防止し、燃料を空にすることなく1年中機械内に保管できるようになります。

燃料タンクの充填



警戒：燃料蒸気は爆発性および可燃性があります。

- 燃料タンクに充填する前にエンジンを OFF にしてください。
- 燃料を補給する前にエンジンを冷ましてください。
- 燃料の取り扱い中は喫煙しないでください。
- 火炎や火花に燃料を近づけないでください。
- 屋外または十分に換気されたエリアで燃料タンクに充填してください。
- こぼれた燃料はすぐに拭き取ってください。
- 認可済みの清潔な非金属製容器を使用して、静電気を防止してください。

重要：燃料内のごみや水分はエンジンの損傷の原因になります。

- 燃料タンクの開口部の汚れやごみを除去してください。
- 清浄で新鮮な安定している燃料を使用してください。
- 燃料タンクでの水分凝縮を避けるため、毎日の作業終了時に燃料タンクをいっぱいにしてください。
- 燃料タンクや容器に燃料を充填するときは、プラスチックメッシュストレーナ付きの非金属製ファネルを使用してください。

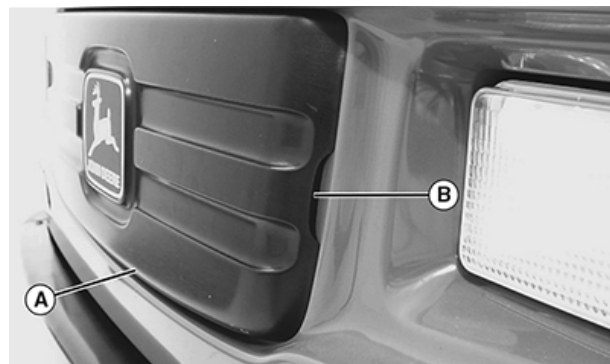
寒冷気候での結露や凍結を避けるため、毎日の作業終了時に燃料タンクをいっぱいにしてください。

1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照)。
2. エンジンを冷まします。
3. 燃料タンクキャップの周囲からごみを除去します。
4. 燃料タンクキャップをゆっくりと取り外して、タンクに溜まっている圧力を逃がします。
5. 燃料タンクにはフィラーネックの底部まで補充してください。入れすぎないでください。
6. 燃料タンクキャップを取り付けます。
 - ガスモデル：カチッと音がするまでキャップを回します。

フロントグリルの取り外しと取り付け

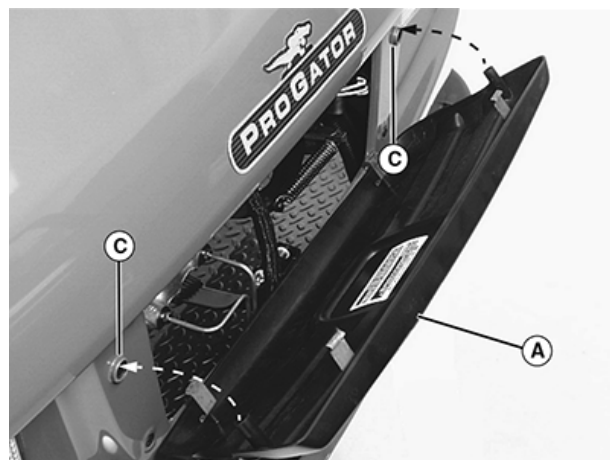
グリルの取り外し

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



2. グリル (A) の両側を位置 (B) でつかみます。
3. グリルの両側をしっかりと均等に外側に引いて取り外します。

グリルの取り付け



1. グリル (A) をフロントボンネットの穴 (C) と整列させます。
2. グリルを両端で均等に前方へ押します。グリルが閉位置にはめ込まれたことを確認します。

ホイールアセンブリの取り付け/取り外し

取り外し

1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)

その他の整備

⚠ 警戒：不安定なリフト装置やサポートから機械が落下したり、滑り落ちたりする恐れがあります。

- 持ち上げる荷重に適した安全なリフト装置を使用してください。

- 機械をジャッキスタンドやその他の安定したサポートの上に降ろし、整備前にホイールをブロックしてください。

重要：機械を上げたり、支えるときは、トランスミッションやエンジンの下ではなく、フレームの下にジャッキスタンドを配置してください。

2. 取り外すホイールのラグナットを緩めます。
3. 取り外すホイールが地面から浮くように、機械を上げて支えます。
4. ラグナットを取り外します。
5. ホイールを取り外します。

⚠ 警戒：不適切な整備を行うと、タイヤとリム部品がバーストして分離する可能性があります。

- 適切な装置と十分な経験がない場合は、タイヤの取り付けを行わないでください。

6. ホイールアセンブリを認定整備取扱店に修理に出します。

取り付け

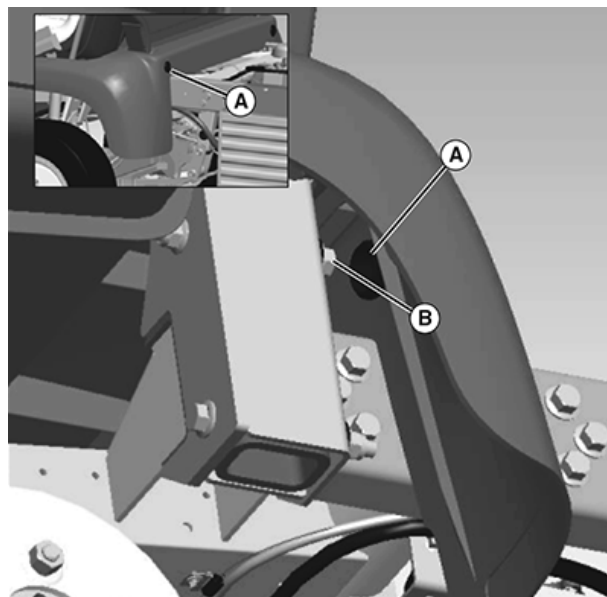
1. ホイールアセンブリを取り付ける前に、スピンドルシャフトにグリスを塗布します。
2. ホイールアセンブリをバブルシステムで外側に取り付けます。
3. ホイールナットをぴったりはまるまで交互に均等に締め付けます。
4. 機械を地面まで完全に下ろします。
5. ホイールナットを締め付けます。

転倒時保護構造 (ROPS) の金具の点検と締め付け

⚠ 警戒：オペレータ保護と ROPS 認定を維持するための注意事項：

- ROPS を修理または改造しないでください。
- ROPS の改造にはメーカーの承認が必要です。

1. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照)。

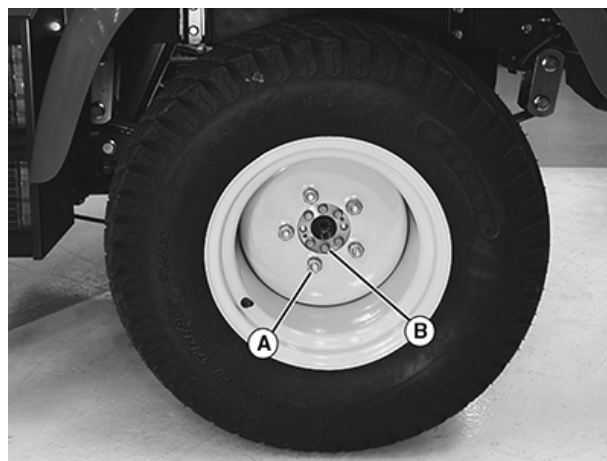


2. シートベースのプラグ (A) を取り外し、上部のボルト (B) にアクセスします。下部の留め具および上部のナットに下からアクセスします。

注記：ROPS トルク値については、「仕様」セクションを参照してください。

3. ROPS の両側で各留め具を適切なトルクで締め付けます。
4. シートベースのプラグを取り付けます。

ホイールの金具の締め付け



- フロントとリアのホイールナット (A) を規定のトルクで交互に締め付けます。

仕様

ホイールナット
トルク 115 N·m (85 lb-ft)

その他の整備

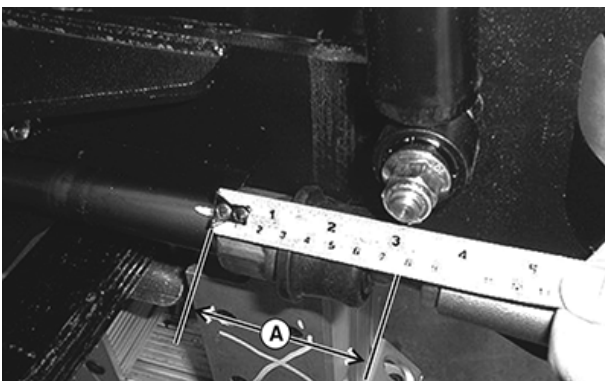
- ホイールハブボルト (B) を規定のトルクで締め付けます。

	仕様
ホイールハブボルト トルク	81 N・m (60 lb-ft)

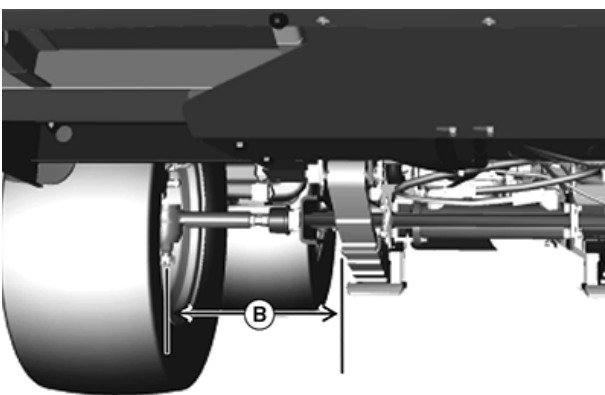
トーインの点検と調整

トーインの点検

1. 機械を平坦な場所に駐車します。
2. 機械を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)
3. キースイッチを OFF に回します。
4. パーキングブレーキをロックします。



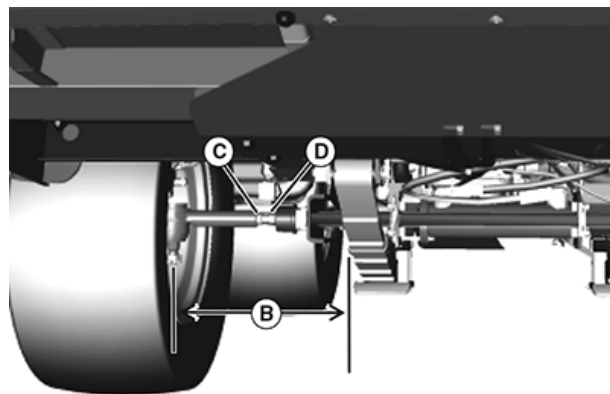
5. ホイールをまっすぐな位置に設置します。ボールソケットナットの内側エッジから、車両の両サイド上の低ショック取り付けスタッドの中心までの距離(A)を測定します。この測定値が両側で等しくなるまで、ステアリングホイールを左または右に回します。



6. フロントリーフスプリングの外側エッジから、車両の両側にあるタイロッドボルトの中心までの距離 (B) を測定します。この寸法は等しくなくてはなりません。等しくない場合は、以下の調整を実行します。

トーインの調整

初期調整



1. ホイールの中心からリーフスプリングのエッジまでの距離 (B) が等しくない場合は、タイロッドロックナット (C) を緩めて、測定値が等しくなるまでリンク (D) を回します。ロックナットを締め付けます。

最終調整



1. タイヤ前面のタイヤビードの中心 (タイヤの中心) 同士の間隔 (A)、ハブ高さを測定します。測定値を記録します。
2. タイヤ前部のタイヤビードの中心 (タイヤの中心) 同士の間隔、ハブ高さを測定します。測定値を記録します。

プラスチック面の清掃

重要：機械のプラスチック面を不適切に手入れすると、その面が傷む可能性があります。

• プラスチック面が乾燥しているときはその面を拭かないでください。乾燥した面を拭くと、軽微な傷が発生します。

• 軟らかい清潔なウエス (バスタオル、布、自動車用ミット) を使用してください。

• 研磨コンパウンドなど、研磨性の物はプラスチック面に使用しないでください。

その他の整備

1. 上水でボンネットおよび機械全体を洗い、表面を傷つける可能性がある泥やほこりを除去します。
2. 表面を上水と自動車用洗剤で洗います。
3. 水痕が残らないように十分乾かします。
4. 液体ワックスで表面にワックスをかけます。「研磨剤を含まない」製品を使用してください。

重要：ワックスを除去するために電動バフを使用しないでください。

5. 塗布したワックスは清潔で軟らかい布を使用して手で拭き取ります。

金属面の清掃と補修

清掃：

車両の塗装された金属面の手入れについては、自動車の慣行に従ってください。高品質の自動車用ワックスを定期的を使用して、車両の塗装面を工場出荷時と同じ外観に維持してください。

軽微な傷 (表面の傷) の修理：

1. 修理する面を十分清掃します。

重要：塗装面に研磨コンパウンドを使用しないでください。

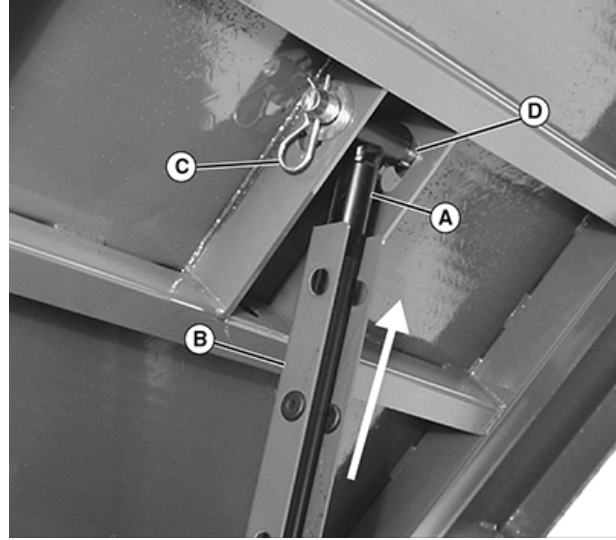
2. 自動車用のつや出しコンパウンドを使用して表面の傷を除去します。
3. 表面全体にワックスをかけます。

深い傷 (素地やプライマーが見える傷) の修理：

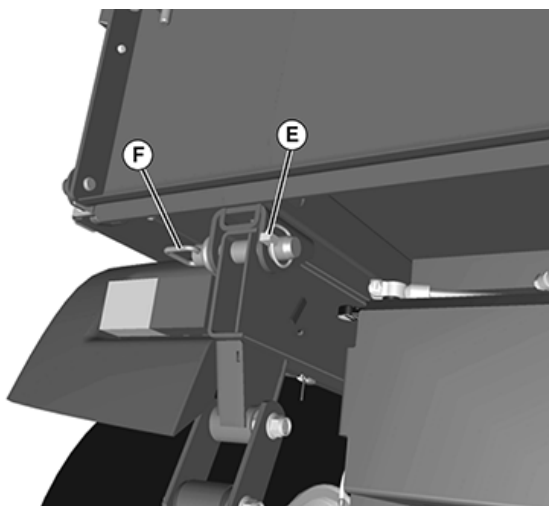
1. 消毒用アルコールまたは石油系溶剤を使用して、修理するエリアを清掃します。
2. 認定取扱店から入手できる工場出荷時の色と同じ色のタッチアップペイントを使用して傷に塗ります。タッチアップペイントに掲載されている指示に従って使用し、乾燥させます。
3. 自動車用つや出しコンパウンドを使用して表面を滑らかにします。電動バフは使用しないでください。
4. 表面にワックスをかけます。

カーゴボックスの取り外し

1. カーゴボックスを空にします。
2. 地盤の固い水平な場所に車両を駐車します。
3. パーキングブレーキをロックし、エンジンを始動させます。
4. カーゴボックスを上げます。
 - カーゴボックスが完全に上がるまで、リフトシリンダ (A) を伸長させます。



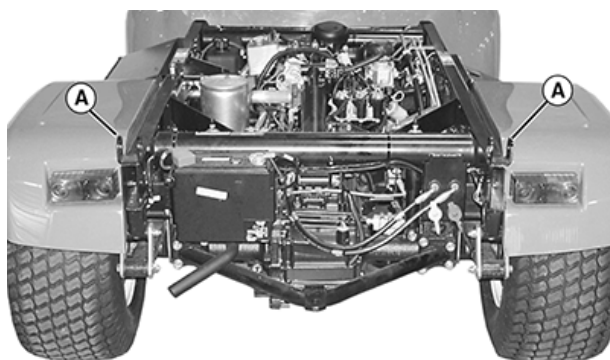
5. エンジンを停止します。
6. リフトシリンダの安全支持具 (B) を取り付けます。
7. 安全なリフト装置を使用してカーゴボックスの前部をわずかに上げます。
8. カーゴボックスからリフトシリンダの接続を外します。
 - a. クイックロックピン (C)、シリンダピン (D)、座金を取り外します。
 - b. シリンダピンとクイックロックピンを、保管のためにリフトシリンダに取り付け直します。
9. 安全指示具を保管位置に戻します。
10. エンジンを始動します。
11. リフトシリンダを完全に収縮させて、エンジンを停止します。
12. 車両フレームの上にカーゴボックスの前部をゆっくりと下ろします。



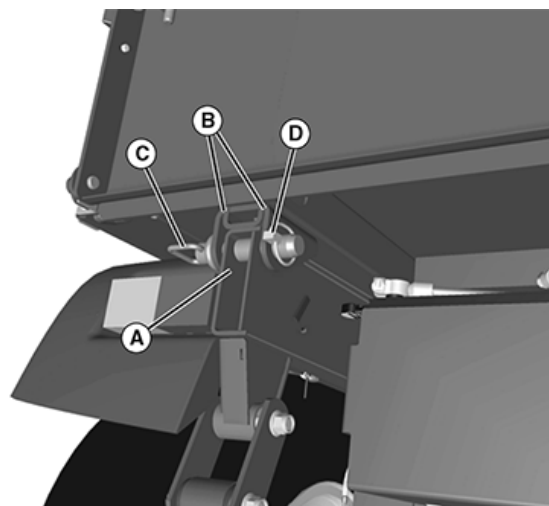
13. カーゴボックスの後部をフレームに固定しているクイックロックピン (E) とドリルピン (F) を取り外します。
14. カーゴボックスを車両から注意して取り外します。
15. ドリルピンとクイックロックピンを、保管するために車両のブラケットに取り付け直します。

カーゴボックスの取り付け

1. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



2. 車両の後部のブラケット (A) に保管されているクイックロックピンとドリルピンを取り外します。
3. 安全なリフト装置を使用して、車両のフレームの上にカーゴボックスを注意深く置きます。

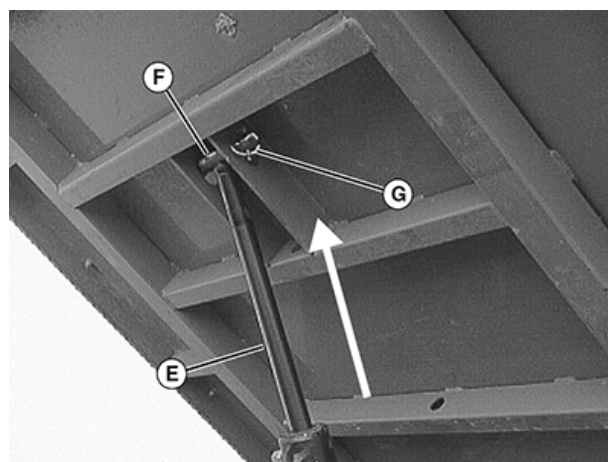


- 車両の後部でカーゴボックスタブ (B) とブラケット (A) を整列します。

4. ドリルピン (C) とクイックロックピン (D) を使用して、カーゴボックスの後部をフレームに固定します。

⚠ 警戒： リフトシリンダをカーゴボックスの下に接続する前に、カーゴボックスが持ち上げられた位置で安全に支えられていることを確認します。

5. 安全なリフト装置を使用してカーゴボックスの前部を上げます。
6. リフトシリンダに保管されているクイックロックピン、シリンダピン、座金を取り外します。
7. エンジンを始動します。



8. カーゴボックスフレームの下部の穴とリフトシリンダの上部が整列するまで、リフトシリンダ (E) を伸長させます。

その他の整備

注記：座金は、クイックロックピンと同じ側のシリンダピンの上に取り付けられる必要があります。

9. シリンダピン (F)、クイックロックピン (G)、座金を使用して、リフトシリンダをカーゴボックスに取り付けます。
10. リフト装置の接続を外します。
11. カーゴボックスを下ろします。
12. エンジンを停止します。

点滅コード機能 (ガソリンモデルのみ)

排出ガス制御システムは故障表示ランプ (MIL) を利用して、エンジンまたは排出ガス制御システムに問題の可能性がある場合、オペレータまたは技術者に警告します。システムは診断トラブルコード (DTC) が設定されたキーサイクルを通して、MIL を点灯させます。以下の 2 つの環境下で 3 つのエンジン運転サイクルの間、MIL を点灯し続けます。

1. 故障によりエンジンが停止した。
2. 故障が排気ガス酸素 (EGO) センサーに関連している。この機能は MIL 持続性と呼ばれています。

DTC がエンジン停止故障または酸素センサーの故障に関連している場合、次のステートメントが適用されます。車両が技術者により整備されていない、そして MIL 点灯の原因となった状態がすでに存在しない場合、MIL はさらに 3 つの起動サイクルの間、点灯します。この条件が再度起きない場合は、4 回目の起動サイクルから MIL は消えます。

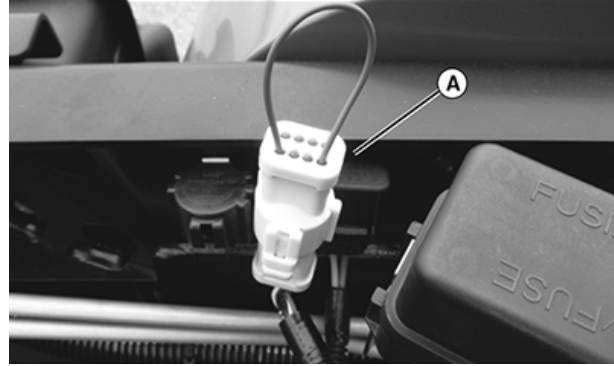
DTC がエンジンの停止または酸素センサーの故障に関連していない場合、そして MIL の点灯の原因となっている条件がすでに存在しない場合、MIL は次の運転サイクルのときに消えます。

運転サイクルとは、エンジン回転数が 1.5 秒以上「運転速度」設定値を超えた場合のことを指します。「運転速度」は、ECM がエンジンがクランキングパラメータからエンジン運転パラメータに移行することを認識する点です。運転速度は通常 450 rpm に設定されています。

DTC コードは点滅コード機能を利用して取得できます。お使いの ProGator に付属の診断プラグまたはジャンパー配線を使用して、点滅コード機能に入ることができます。

診断トラブルコードを取得するための診断プラグの使用

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



3. タイヤの右後ろ付近にある診断ポート (A) の位置を確認します。
4. ポートキャップを取り外して、ProGator に付属の診断プラグを挿入します。
5. イグニッションキーを RUN 位置に回します。
6. システムは自己診断点滅コードモードに入ります。保存されている可能性のあるコードを書き取るため、ペンとメモ用紙を用意します。
7. ECM は MIL 表示を点滅し、DTC コードを表す代表番号の間に一時停止が入ります。シーケンスはコード 1654 で始まります。コード 1654 は、システムが点滅コードモードに入ったことを確認します。ECM はコード 1654 を 3 回点滅してから、設定される実際の DTC コードを表示します。

例：

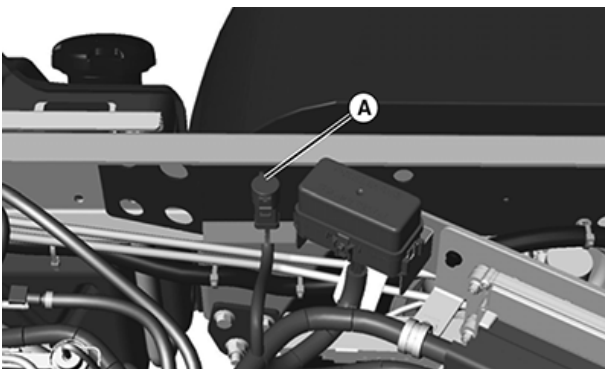
短く 1 回点滅 (一時停止) 短く 6 回点滅 (一時停止) 短く 5 回点滅 (一時停止) 短く 4 回点滅

DTC コードが見つからない場合、ECM は 1654 のみを点滅し続けます。これは保存された DTC コードが見つからなかったことを意味します。

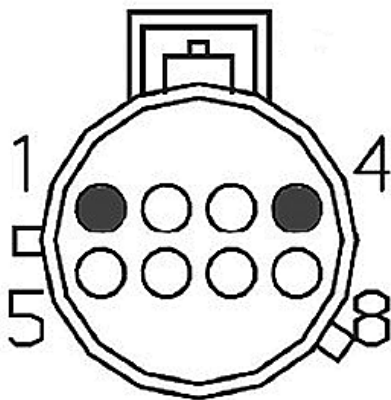
DTC コードの番号のうちの一つが 0 の場合、0 の値を表す点滅は起こらず、短い一時停止で表されます。

診断トラブルコードを取得するためのジャンパー配線の使用

1. アタッチメントを整備位置まで持ち上げます。(「安全」セクションの「リフトシリンダの安全支持具の操作」の項を参照してください。)
2. 車両を安全に駐車します。(「安全」セクションの「安全な駐車」参照。)



3. タイヤの右後ろ付近にある診断ポートを見つけます。
4. ポートキャップを取り外します。



5. ポートのピン 1 と 4 を図のようにジャンプします。
6. イグニッションキーを RUN 位置に回します。
7. システムは自己診断点滅コードモードに入ります。保存されている可能性のあるコードを書き取るため、ペンとメモ用紙を用意します。
8. ECM は MIL 表示を点滅し、DTC コードを表す代表番号の間に一時停止が入ります。シーケンスはコード 1654 で始まります。コード 1654 は、システムが点滅コードモードに入ったことを確認します。ECM はコード 1654 を 3 回点滅してから、設定される実際の DTC コードを表示します。
DTC コードが見つからない場合、ECM は 1654 のみを点滅し続けます。これは保存された DTC コードが見つからなかったことを意味します。
DTC コードの番号のうちの 하나가 0 の場合、0 の値を表す点滅は起こらず、短い一時停止で表されます。

トラブルシューティング

トラブルシューティング表の使用

この表に掲載されていない問題が発生している場合は、整備について認定取扱店にお問い合わせください。

掲載されているすべての原因を確認し、引き続き問題が発生している場合は、認定取扱店にお問い合わせください。

エンジン

問題	点検
エンジンがクランクしない	PTO 表示灯が点灯している：油圧 PTO レバーをオフにします。 ヒューズの故障。 ギアシフトレバーが「ニュートラル」位置にある。 バッテリーの接続の緩みまたは腐食。 電気接続の緩みや腐食。 バッテリー出力が低い。 バッテリーの硫酸化または消耗。 スタータの故障。 ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。
エンジンが始動しない	劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。 燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 ヒューズの故障。 電気接続の緩みや腐食。 スタータの故障。 エアクリーナフィルタエレメントの詰まり。 ディーゼルモデル：燃料シャットオフバルブ閉。 ディーゼルモデル：空気がシステムに混入している。 ガソリンモデル：スパークプラグワイヤが緩んでいるか、外れている。 ガソリンモデル：スパークプラグの隙間を点検します。 ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。 バルブが正しく装着していない：バルブを調整します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) フューエルインジェクタの汚れや故障。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
エンジンが始動しにくい	劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。 燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 エアクリーナフィルタエレメントの詰まり。 電気接続の緩みや腐食。 ディーゼルモデル：燃料フィルタセグメントボウルを点検します。 ディーゼルモデル：空気がシステムに混入している。 ガソリンモデル：スパークプラグワイヤが緩んでいるか、外れている。 ガソリンモデル：スパークプラグの故障を点検/交換します。 ガソリンモデル：スパークプラグの隙間を点検します。 バルブが正しく装着していない：バルブを調整します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) フューエルインジェクタの汚れや故障。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
負荷状態でエンジン失火	劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。 燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 エアクリーナフィルタエレメントの詰まり。 ディーゼルモデル：燃料シャットオフバルブが部分的に閉じている。 ディーゼルモデル：空気がシステムに混入している。 条件に対して速すぎる対地速度で運転している。 エンジン過負荷：負荷を減らします。 ガソリンモデル：スパークプラグワイヤが緩んでいるか、外れている。 ガソリンモデル：スパークプラグの故障を点検/交換します。ガソリンモデル：スパークプラグの隙間を点検します。 ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。 バルブが正しく装着していない：バルブを調整します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) フューエルインジェクタの汚れや故障。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)

トラブルシューティング

問題	点検
エンジンの過熱	エアクリーナエレメントの詰まり：フィルタエレメントを交換します。 ラジエータ吸気スクリーン、ファンシュラウド、冷却フィンを清掃します。 オイルクーラーコイルを清掃します (オプション)。 エンジンオイルレベルを点検する：オイルを追加します。 クーラントレベルが低い冷却システムの交換/フラッシングが必要。 ラジエータキャップの故障。 ファンのヒューズが飛んでいる。 ファンスイッチリレーの故障。 サーモスタットの故障。 オルタネータベルトの緩みまたは故障。 エンジン過負荷：負荷を減らします。 ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。 バルブが正しく装着していない：バルブを調整します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) フューエルインジェクタの汚れや故障。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
エンジンがスローアイドリングにならない	劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。 燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 エアクリーナフィルタエレメントの詰まり。 ディーゼルモデル：燃料シャットオフバルブが部分的に閉じている。 ディーゼルモデル：空気がシステムに混入している。 ガソリンモデル：スパークプラグワイヤが緩んでいるか、外れている。 ガソリンモデル：スパークプラグの故障を点検/交換します。 ガソリンモデル：スパークプラグの隙間を点検します。 ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。 バルブが正しく装着していない：バルブを調整します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) フューエルインジェクタの汚れや故障。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
エンジンのバックファイア	劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。 燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 エアクリーナフィルタエレメントの詰まり。 条件に対して速すぎる対地速度で運転している。 ディーゼルモデル：空気がシステムに混入している。 ガソリンモデル：スパークプラグワイヤが緩んでいるか、外れている。 ガソリンモデル：スパークプラグの故障を点検/交換します。 ガソリンモデル：スパークプラグの隙間を点検します。 ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。 バルブが正しく装着していない：バルブを調整します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) フューエルインジェクタの汚れや故障。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
エンジンのペーパーロック	燃料フィルタを交換します。 カーボンキャニスターを交換します。 燃料ラインを点検します。
エンジンのもたつき	劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。 燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 エアクリーナフィルタエレメントの詰まり。 エンジンのオイルが多すぎる：適正レベルまで抜き取ります。 条件に対して速すぎる対地速度で運転している。 エンジン過負荷：負荷を減らします。 エンジンの過熱：ラジエータスクリーン、ファンシュラウド、冷却フィン、オイルクーラーコイル (オプション) を清掃します。 ディーゼルモデル：燃料シャットオフバルブが部分的に閉じている。 ディーゼルモデル：空気がシステムに混入している。 ガソリンモデル：スパークプラグワイヤが緩んでいるか、外れている。 ガソリンモデル：スパークプラグの故障を点検/交換します。 ガソリンモデル：スパークプラグの隙間を点検します。 ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。 バルブが正しく装着していない：バルブを調整します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) フューエルインジェクタの汚れや故障。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
エンジンのノッキング	劣化した燃料、不適切な燃料。 エンジンオイルレベルが低い。 エンジン過負荷：負荷を減らします。 ディーゼルモデル：インジェクションポンプのタイミングがずれている。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。

トラブルシューティング

問題	点検
油圧が低い	エンジンオイルレベルが低い。 ベアリングまたはオイル。 ポンプの摩耗。 オイルフィルタの詰まりオイルのタイプが不適切。 オイル漏れ。
エンジンのオイル消費量が多すぎる	オイルの種類が不適切。 リングまたはシリンダの摩耗。 エンジン温度が低い。 サーモスタットの故障。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。 ディーゼルモデル：インジェクションポンプのタイミングがずれている。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
エンジンからの黒または灰色の煙の排出	劣化した燃料、不適切な燃料。 吸気システムの詰まり。 エンジン過負荷：負荷を減らします。 フューエルインジェクタの汚れや故障。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。
エンジンからの白煙の排出	劣化した燃料、不適切な燃料エンジン温度が低い。 ヘッドガスケットの漏れ。 ディーゼルモデル：燃料のセタン値が低い。 ガソリンモデル：「点滅コード機能」セクションに進みます。

ステアリング

問題	点検
ステアリングが正常に機能しない	タイヤ空気圧を点検します。 トランスミッションオイルレベルが低い：オイルレベルを点検します。 4WD モデル：フロント車軸オイルレベルが低い：オイルレベルを点検します。 トーイン調整を点検して整列します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)

ブレーキ

問題	点検
ブレーキが正しく機能しない	ブレーキ液のレベルが低い：液レベルを点検します。 ブレーキを調整します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) 摩耗したブレーキパッドを交換します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。) 摩耗または損傷したブレーキリンケージを修理/交換します。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)

電気システム

問題	点検
スタータが作動しないか、エンジンが回転しない	すべての電気接続部を清掃して、締め付けます。 ギアシフトレバーを「ニュートラル」位置に押します。 ヒューズの故障。スタータおよびヒューズセンターの両方で。 バッテリーの出力が低い：電解液レベルを点検します。 バッテリーを充電/交換します。 バッテリーケーブルの緩みまたは腐食：バッテリーケーブルを清掃して締め付けます。 キースイッチ、スタータモータースイッチ、安全インターロックスイッチの不良。 (技術マニュアルを参照するか、John Deere 取扱店にお問い合わせください。)
スタータの回転が遅い	バッテリーの出力が低い：電解液レベルを点検します。 バッテリーの出力が低い：バッテリーを充電します。 エンジンオイル粘度が高すぎる。 バッテリーケーブルの緩みまたは腐食：バッテリーケーブルを清掃して締め付けます。

トラブルシューティング

問題	点検
エンジン運転中にバッテリー低電圧インジケータが点灯し続ける	エンジン回転数が低い。 バッテリーの故障オルタネータの故障。 接続の緩みまたはコネクタの腐食。 オルタネータベルトの緩みまたは故障。
バッテリーが充電されない	バッテリーケーブル/接続の緩みまたは腐食：バッテリーケーブルとオルタネータの接続を清掃して締め付けます。 バッテリーの故障：電解液レベルを点検してください。 バッテリーセルが放電状態。 オルタネータベルトの緩みまたは故障。 オルタネータの故障。
ライトが作動しない	ヒューズの故障。 電球の緩みまたは故障。 スイッチ接続に緩み。

油圧

問題	点検
バルブはリリーフノイズを発生します。 発生していない場合、アタッチメントは適切に作動していません。	- 積み荷の重量と制限、重量は均等に配置します。 - 噴霧器にロックがあるか。 - バルブの解除設定 (John Deere 取扱店にお問い合わせください)。

点滅コード表のトラブルシューティングの使用

一覧表示されている診断トラブルコードを使用して車両のトラブルシューティングを試みる前に、MIL システムが適切に機能していることを確認します。キーが RUN 位置にあって、エンジンが運転していないとき、ライトは点灯するはずですが、この機能は、ランプが適切に作動していることを確認します。車両のキーが RUN 位置にあり、エンジンが OFF にある状態でライトが点灯しない場合は、技術マニュアルを参照するか、John Deere 認定取扱店にお問い合わせください。エンジンが始動したら、ライトは消えるはずですが、エンジン運転中にライトが点灯している場合、現在の診断トラブルコードが設定されている、あるいは MIL 電気配線に問題があることがあります。

次にあるリストは、点滅コード機能が起動したとき、機械の計器盤に表示される診断トラブルコードの完全なリストではありません。他のコードが表示された場合は、John Deere 取扱店にお問い合わせください。複数のコードが表示されている場合、必ず一番下のものを使用してトラブルシューティングします。

点滅コード (ガソリンモデルのみ)

点滅コード	説明	点検
111	吸気温度が予想より高い	- エアインレットに障害物がないか、部品が損傷していないか。 - エアクリーナエレメントの詰まり：フィルタエレメントを交換します。 - エアインレットシステムに亀裂や破損がないか点検します。亀裂や破損によってエアインレットシステムのボンネットの下に不要な空気が入る場合があります。 - 排気システムに漏れがないか。 - 密閉された場所での操作。

トラブルシューティング

点滅コード	説明	点検
116	エンジンクーラント温度が予想より高い (ステージ 1) 注記：エンジン出力は自動的に通常の能力の 50%に削減されます。	・エアクリーナエレメントの詰まり：フィルタエレメントを交換します。 ・ラジエータ吸気スクリーン、ファンシュラウド、冷却フィンを清掃します。 ・オイルクーラーコイルを清掃します (オプション)。 ・エンジンオイルレベルを点検する：オイルを追加します。 ・クーラントレベルが低い。 ・冷却システムのフラッシングが必要。 ・ラジエータキャップの故障。 ・ファンのヒューズが飛んでいる。 ・ファンスイッチリレーの故障。 ・サーモスタットの故障。 ・オルタネータベルトの緩みまたは故障。 ・条件に対して速すぎる対地速度で運転している。 ・荷が重すぎる
127	吸気温度が予想より高い	・エアインレットに障害物がないか、部品が損傷していないか。 ・エアインレットシステムに亀裂や破損がないか点検します。亀裂や破損によってエアインレットシステムのボンネットの下に不要な空気が入る場合があります。 ・エアクリーナエレメントの詰まり：フィルタエレメントを交換します。 ・排気システムに漏れがないか。 ・密閉された場所での操作。
171	酸素センサー過熱自動学習値が高すぎる	・酸素センサーの配線が間違っつながれていて、エグゾーストマニホールドに接続している。 ・真空の漏れ/クランクケースの漏れ ・劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを抜き取って清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 ・ECM アースが清浄で、しっかり固定していて、適切な位置にある必要があります。 ・エアクリーナエレメントの詰まり：フィルタエレメントを交換します。 ・フューエルインジェクタが開いている、または漏れがある。
172	酸素センサー過熱自動学習値が低すぎる	・酸素センサーの配線が間違っつながれていて、エグゾーストマニホールドに接続している。 ・真空の漏れ/クランクケースの漏れ ・劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを抜き取って清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 ・ECM アースが清浄で、しっかり固定していて、適切な位置にある必要があります。 ・エアクリーナエレメントの詰まり：フィルタエレメントを交換します。 ・フューエルインジェクタが開いている、または漏れがある。
217	エンジンクーラント温度が予想より高い (ステージ 2) 注記：エンジン出力は通常の能力の 50%に維持されます。エンジン回転数は 1500 RPM に制限されます。	・エアクリーナエレメントの詰まり：フィルタエレメントを交換します。 ・ラジエータ吸気スクリーン、ファンシュラウド、冷却フィンを清掃します。 ・オイルクーラーコイルを清掃します (オプション)。 ・エンジンオイルレベルを点検する：オイルを追加します。 ・クーラントレベルが低い。 ・冷却システムのフラッシングが必要。 ・ラジエータキャップの故障。 ・ファンのヒューズが飛んでいる。 ・ファンスイッチリレーの故障。 ・サーモスタットの故障。 ・オルタネータベルトの緩みまたは故障。 ・条件に対して速すぎる対地速度で運転している。 ・荷が重すぎる。
219	最高ガバナー回転数解除	・真空の漏れ/クランクケースの漏れ
524	油圧が低い	・エンジンオイルレベルが低い。 ・ベアリングまたはオイルポンプの摩耗。 ・オイルフィルタの詰まり ・オイルの種類が不適切。 ・オイル漏れ。 ・油圧スイッチの故障。
562	システム電圧が低い	・バッテリーが低い：バッテリーを充電します。 ・バッテリーケーブルの緩みまたは腐食：バッテリーケーブルを清掃して締め付けます。 ・オルタネータベルトの緩みまたは故障。

トラブルシューティング

点滅コード	説明	点検
1111	燃料回転数制限を越えています	・真空の漏れ/クランクケースの漏れ。
1112	スパーク制限を越えています	・真空の漏れ/クランクケースの漏れ。
1155	酸素センサー過熱クローズドループマルチプライヤーが高い	・酸素センサーの配線が間違っつながれていて、エグゾーストマニホールドに接続している。 ・真空の漏れ/クランクケースの漏れ ・劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。 ・燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを抜き取って清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 ・ECM アースが清浄で、しっかり固定していて、適切な位置にある必要があります。 ・エアクリーナエレメントの詰まり：フィルタエレメントを交換します。 ・エアインレットに障害物がないか、部品が損傷していないか。 ・フューエルインジェクタが開いている、または漏れがある。
1156	酸素センサー過熱自動学習値が低すぎる	・酸素センサーの配線が間違っつながれていて、エグゾーストマニホールドに接続している。 ・真空の漏れ/クランクケースの漏れ ・劣化した燃料、不適切な燃料、低い燃料レベル。 ・燃料の汚れ：燃料フィルタを交換し、燃料ピックアップを抜き取って清掃し、燃料タンクを抜き取って清掃し、タンクにきれいで新鮮な燃料を補充します。 ・ECM アースが清浄で、しっかり固定していて、適切な位置にある必要があります。 ・エアクリーナエレメントの詰まり：フィルタエレメントを交換します。 ・エアインレットに障害物がないか、部品が損傷していないか。 ・フューエルインジェクタが開いている、または漏れがある。

安全な保管

⚠ 警戒：燃料蒸気は爆発性および可燃性があります。
エンジンの排気ガスは一酸化炭素を含んでおり、深刻な病気や死亡事故の原因になります。

- 保管場所へまたは保管場所からの移動に必要な時間のみエンジンを運転してください。
- 作業機を冷めないうちに保管したり、エンジンやマフラー周辺部からごみを除去せずに保管したり、可燃性の材料の近くに保管すると、作業機や構造から火災が発生するおそれがあります。
- タンクに燃料が残っている車両を、燃料蒸発ガスが直火や火花に達する可能性がある建物内に保管しないでください。
- 閉鎖区域に機械を保存する前にエンジンを冷ましてください。

保管のための機械の準備

1. 摩耗または損傷している部品を修理します。必要に応じて、部品を交換します。緩んでいる金具を締め付けます。
2. 錆防止のため傷や欠けのある金属面を修理します。
3. 機械から草やごみを取り除きます。
4. 機械を洗浄し、金属面やプラスチック面にワックスをかけます。
5. 機械を 5 分間運転し、ベルトやプーリーを乾燥させます。
6. 回転ポイントや摩耗ポイントにエンジンオイルを軽く塗布して錆を防止します。
7. シートの下にある油圧 PTO コントロールバルブの上を清掃します。バルブブロックが入る両方のスプールに作動油を塗布します。
8. グリースポイントを潤滑して、タイヤ空気圧を点検します。

保管のための燃料とエンジンの準備

燃料：

「安定化燃料」を使用していた場合は、安定化燃料をタンクにいっぱいまで注入します。

注記：燃料タンクを満タンにすることにより、燃料タンク内の空気の量が減り、燃料の劣化が少なくなります。

安定化燃料を使用していない場合：

1. 十分に換気された区域に機械を安全に駐車します。（「安全」セクションの「安全な駐車」参照。）

注記：シーズン中は機械を最後に使用する時期を予測して、燃料タンクに燃料がほとんど残らないようにしてください。

2. エンジンをかけて、燃料がなくなるまで作動させます。

3. キースイッチ付きの機械の場合は、キーを OFF 位置にします。

重要：劣化した燃料からはワニスが生じられ、キャブレターやインジェクタの部品が詰まってエンジン性能に影響を与える可能性があります。

- タンクに充填する前に、燃料に燃料コンディショナまたは安定剤を追加してください。

4. 燃料と燃料安定化剤を別の容器に混ぜます。混合の手順については、安定剤の手順に従ってください。
5. 安定化燃料を燃料タンクに充填します。
6. エンジンを数分間運転し、ガソリンエンジンのキャブレターまたはディーゼルエンジンのフューエルインジェクタ全体に混合燃料を循環させます。

エンジン：

車両を 60 日間以上使用しない場合は、エンジン保管手順に従ってください。

1. エンジンが暖かいときにエンジンオイルとフィルタを交換します。
2. 必要に応じて、エアフィルタを交換します。
3. エンジン吸気スクリーンからごみを除去します。
4. ガソリンエンジンの場合：
 - スパークプラグを取り外します。シリンダに 30 mL (1 oz) の新品のエンジンオイルを入れます。
 - スパークプラグを取り付けます。ただし、スパークプラグワイヤを接続しないでください。
 - エンジン 5~6 回クラッキングしてオイルを行き渡らせます。

5. エンジンとエンジンルームを清掃します。
6. バッテリーを取り外します。
7. バッテリーとバッテリー電極を清掃します。電解液レベルを点検します（バッテリーがメンテナンスフリータイプではない場合）。
8. 燃料シャットオフバルブを閉じます（機械に装備されている場合）。
9. 涼しく、乾燥した、バッテリーの凍結しない場所にバッテリーを保管します。

注記：保管しているバッテリーは、90 日ごとに再充電してください。

10. バッテリーを充電します。

重要：長期にわたって日光にさらされると、ボンネット面が損傷します。機械を屋内に保管するか、屋外に保管する場合はカバーを使用してください。

11. 乾燥した、保護された場所に車両を保管します。車両を屋外に保管する場合は、車両に防水カバーをかけます。

保管からの機械の復帰

1. タイヤ空気圧を点検します。
2. エンジンオイルレベルを点検します。
3. バッテリー電解液レベルを点検します (バッテリーがメンテナンスフリータイプではない場合)。必要に応じて、バッテリーを充電します。
4. バッテリーを取り付けます。
5. ガソリンエンジンの場合：スパークプラグの隙間を点検します。プラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。
6. すべてのグリースポイントを潤滑します。
7. 燃料シャットオフバルブを開きます (機械に装備されている場合)。
8. すべてのシールド、ガード、またはデフレクタが所定の位置に取り付けられていることを確認します。
9. アタッチメントを作動させないでエンジンを 5 分間運転し、エンジンにオイルを行き渡らせます。
10. シートの下にある油圧 PTO コントロールバルブの上を清掃します。バルブブロックが入る両方のスプールに作動油を塗布します。

バイオディーゼル燃料の保管

重要：バイオディーゼル燃料は、燃料販売業者が製造した日から 3 か月以内に使用する必要があります。

バイオディーゼル燃料使用の機械を (エンジンを作動させずに) 長期間保管する前に：

- 燃料タンクからすべてのバイオディーゼル燃料を抜き出します。
- オペレータマニュアルに記載されているように、タンクに従来の石油燃料を満たします。
- エンジンを始動し、5 時間以上作動させます。

仕様

エンジン (モデル 2020A-Gas)

メーカー.....	電源ソリューション、組み込み
モデル番号.....	97L-L4
出力定格に関する情報.....	http://psiengines.com/
排気量.....	0.97 L (59.2 cu in)
シリンダ.....	4
サイクル.....	4
スローアイドル回転数 (± 50).....	1000 rpm
ファーストアイドル回転数 (± 50).....	3500 rpm
オイルフィルタ.....	フルフロー、交換可能
潤滑.....	全圧力
冷却.....	液体
エアクリーナ.....	キャニスタータイプ w/2 次エレメント

エンジン (モデル 2030A-Diesel)

メーカー.....	ヤンマー
モデル番号.....	3TNV76
排気量.....	1115 cm3 (68 cu in)
シリンダ.....	3
サイクル.....	4
スローアイドル回転数 (± 50).....	1250 rpm
ファーストアイドル回転数 (± 50).....	3450 rpm
オイルフィルタ.....	フルフロー、交換可能
潤滑.....	全圧力
冷却.....	液体
エアクリーナ.....	キャニスタータイプ w/2 次エレメント

燃料系統 (ガソリンモデル)

燃料の種類 (推奨) :	標準等級 87 オクタン無鉛燃料 エタノール混合燃料 (最大 10%) MTBE 改質燃料 (15% 混合まで)
燃料フィルタ.....	交換可能エレメント
燃料ポンプ.....	電気

燃料システム (ディーゼルモデル)

燃料の種類 (推奨) :	ディーゼル No.1 または No.2 B5 バイオディーゼル (5% 混合)
燃料フィルタ.....	交換可能エレメント
燃料ポンプ.....	機械式

電気システム

種類.....	12 V、バッテリー/オルタネータ
オルタネータ容量.....	55A : ディーゼル、70A : ガソリン
バッテリー電圧.....	12 V DC
冷間クランキングアンペア数 (0°F).....	500
イグニッション.....	CDI

ステアリング/ブレーキ

サービスブレーキの種類	4 輪油圧ディスク
パーキングブレーキの種類	機械式ディスク
パーキングブレーキ作動	ハンドレバー
ステアリング	油圧動力

タイヤ

フロント (標準)	
サイズ	23x10.50-12
ブライ定格	4
圧力	82/138 kPa (12/20 psi) 最小/最大
フロントスミージング (オプション)	
サイズ	22x9.50-12
ブライ定格	4
圧力	82/152 kPa (12/22 psi) 最小/最大
リアマルチトラック (標準)	
サイズ	26x12.00-12
ブライ定格	4
圧力	82/138 kPa (12/20 psi) 最小/最大
リアマルチトラック、スミージング、フェアウェイ (オプション)	
サイズ	26x14.00-12
ブライ定格	4
圧力	82/165 kPa (12/24 psi) 最小/最大

注記：最小圧力は無負荷でバラストなしのユニットの場合です。

トルク

転倒時保護構造 (ROPS) のボルト	101 N•m (75 lb-ft)
---------------------------	--------------------

トランスアクスル

メーカー	Kanzaki
種類	5-回転数、シンクロメッシュ
4WD オプション	手動シフト

対地速度 (すべてのモデルに標準リアタイヤが装備)

ギア	14.5 km/h (2.8 mph)
ギア	27.4 km/h (4.6 mph)
ギア	312.7 km/h (7.9 mph)
ギア	424.1 km/h (15 mph)
ギア	530.7 km/h (19.1 mph)
後退	5.8 km/h (3.6 mph)

寸法

地上高	16.8 cm (6.6 in)
ホイールベース (フロント/リア車軸)	167.6 cm (66 in)

仕様

ホイールトレッド、フロント	123.2 cm (48.5 in)
ホイールトレッド、リア	129 cm (50.8 in)
全長 w/カーゴボックスオプション	328.4 cm (129.3 in)
全長 w/o カーゴボックスオプション	319.3 cm (125.7 in)
全幅	158.5 cm (62.4 in)
全高	193.7 cm (76.3 in)

旋回半径クリアランス

クリアランス円内：2WD	43 cm (17 in)
クリアランス円内：4WD	175 cm (69 in)
クリアランス外円：2WD	498 cm (196 in)
クリアランス外円：4WD	630 cm (248 in)

基本車両重量*

標準サスペンション付き 2020A 2WD モデル	857 kg (1890 lb)
標準サスペンション付き 2020A 4WD モデル	919 kg (2026 lb)
標準サスペンションおよび補助油圧付き 2020A 2WD モデル	872 kg (1923 lb)
標準サスペンションおよび補助油圧付き 2020A 4WD モデル	927 kg (2044 lb)
標準サスペンション付き 2030A 2WD モデル	856 kg (1887 lb)
標準サスペンション付き 2030A 4WD モデル	915 kg (2017 lb)
標準サスペンションおよび補助油圧付き 2030A 2WD モデル	870 kg (1917 lb)
標準サスペンションおよび補助油圧付き 2030A 4WD モデル	928 kg (2045 lb)

*車両は燃料満タンで、オペレータ、同乗者、アタッチメント重量を除く

フルード容量

燃料タンク	30.66 L (8.1 gal)
ディーゼル冷却システム (総計)	3.8 L (4.1 qt)
ガソリン冷却システム (総計)	4.2 L (1.1 gal)
クランクケース (フィルタを含む) (ガソリンモデル)	3.2 L (3.4 qt)
クランクケース (ガソリンモデル)	3.0 L (3.2 qt)
クランクケース (フィルタを含む) (ディーゼルモデル)	2.1 L (2.2 qt)
トランスミッションオイルシステム (総計)	10.6 L (2.8 gal)
フロント車軸オイル (4WD モデル)	3.3 L (3.5 qt)

牽引

最大牽引能力 (リアヒッチ)	680.4 kg (1500 lb)
最大タング重量 (リアヒッチ)	90.7 kg (200 lb)

カーゴボックス

全長、内側	165 cm (65 in)
全幅、内側	128.4 cm (50.5 in)
奥行き全長、内側	26.8 cm (10.5 in)
重量	146.5 kg (323 lb)
ベッドライナー	オプション
自動テールゲート解放	オプション

推奨潤滑剤

エンジンオイル：ガソリンモデル	John Deere TURF-GARD™ SAE 10W-30
エンジンオイル：ディーゼルモデル	John Deere PLUS 50™ SAE 15W-40
	John Deere TORQ-GARD SUPREME™ SAE 5W-30
エンジンクーラント	John Deere COOL-GARD II™ PREMIX
	John Deere COOL-GARD PREMIX
	John Deere COOL-GARD PG PREMIX
トランスアクスル/作動油	John Deere J20C HY-GARD™
	John Deere BIO HY-GARD™
グリース	John Deere Multi-Purpose HD Lithium Complex Grease
	John Deere Multi-Purpose SD Polyurea Grease

保証

製品保証

製品保証は、このマニュアルの説明通りに装置の操作・メンテナンスを実行しているお客様に対して、John Deere サポートプログラムの一部として提供されています。

このマニュアルに記載されているエンジン関連の保証は、エンジンの排気ガス関連部品と構成部品に限られます。排気ガス関連部品と構成部品を除くエンジン全体の保証は、「新品の John Deere 装置の限定保証」として別途記載します。

John Deere による連邦およびカリフォルニア州排出ガス制御システム保証 (小型ノンロードガソリンエンジン)

保証の下での権利と義務

カリフォルニア大気資源委員会、John Deere、および合衆国環境保護庁では、お使いの 2014 年または 2015 年製モデルのスパーク点火式オフロードエンジン装置の排出ガス制御システムに対する保証について情報を提供しています。カリフォルニア州では、小型または大型 (1 リッター未満) のスパーク点火式オフロードエンジンを使用する新しい装置については、州の厳しいスモッグ防止基準に適合して設計、製造および装備することを求めています。John Deere には、お客様のスパーク点火式オフロードエンジン装置について以下の期間にわたり保証を提供する責任があります。ただし、これは当該装置が濫用、不注意、不適切な保守整備を受けなかった場合に限りです。

排気ガス制御システムには、キャブレターまたは燃料噴射装置、点火装置、触媒コンバータ、燃料タンク、バルブ、フィルタ、クランプ、コネクタ、その他の関連部品が含まれます。また、ホース、ベルト、センサ、その他の排気ガス関連アセンブリが含まれることもあります。

保証条件が存在する場合、John Deere は診断、部品、工数を含め、お使いのスパーク点火式オフロードエンジン装置を無償で修理します。

メーカーによる保証範囲

本排出ガス制御システムは 2 年間保証されます。お客様の装置の排気ガス関連部品のいずれかに欠陥がある場合、John Deere が当該部品の修理または交換を行います。

所有者の保証に関する責任

- スパーク点火式オフロード装置の所有者の方は、オペレータマニュアルに記載されている必要なメンテナンスを行う責任があります。John Deere は、お客様のスパーク点火式オフロードエンジン装置のメンテナンスに関するすべてのレシートを保管しておくことをお勧めしますが、レシート

がないことまたはすべての予定メンテナンスを実施しなかったことだけを理由に保証を拒否することはありません。

- ただしスパーク点火式オフロードエンジン装置の所有者の方は、濫用、怠慢、不適切なメンテナンスまたは認可されていない改造によりお使いのスパーク点火式オフロードエンジン装置または部品が故障した場合は、John Deere は保証の適用を拒否する可能性があることを理解する必要があります。
- お客様は、問題を確認後すぐにスパーク点火式オフロードエンジン装置を John Deere 認定の芝生およびユーティリティ関連リテーラーに提示する責任があります。保証修理は、30 日を超えない妥当な時間内に完了されます。保証の範囲に関する質問については、John Deere の芝生およびユーティリティ関連リテーラーか、John Deere カスタマーコンタクトセンター (1-800-537-8233) にご連絡いただくか、www.Deere.com から John Deere まで電子メールでお問い合わせください。

一般的な排出ガス関連の保証範囲

保証期間は、装置が初期購入者のもとに納入された日から開始されます。John Deere は初期購入者および後続の各購入者に対し、スパーク点火式オフロードエンジン装置について以下を保証します：

- カリフォルニア大気資源委員会が採用するすべての規制に適合するよう設計、構築および装備されたもの。
- 販売時において 40 CFR Parts 1054 および 1060 に基づく合衆国環境保護庁の当該規制に適合するよう設計、構築および装置されたもの。および
- 初期購入者への販売日から 2 年間のエンジンの使用期間中に、該当する規制への適合を妨げる原因となるような材料や製造工程の欠陥がないもの。

排出ガス関連の保証の解釈

- オペレータマニュアルのメンテナンス要領において交換計画の必要が明記されていない保証対象の部品は、2 年間保証されます。当該部品が保証期間中に故障した場合は、John Deere が修理または交換を行います。本保証に基づいて修理または交換された部品は、保証の残余期間にわたって保証されます。
- オペレータマニュアルのメンテナンス要領において定期的な点検の計画のみが明記されている保証対象の部品は、2 年間保証されます。オペレータマニュアルに「必要に応じて修理または交換」という記述がある場合でも、保証対象期間が短縮されるわけではありません。本保証に基づいて修理または交換された部品は、保証の残余期間にわたって保証されます。
- オペレータマニュアルに記載されている必要なメンテナンスとして交換計画が明記されている保証対象の部品については、その部品の最初の交換予定時点まで保証します。初回交換予定日より前に当該部品が故障した場合は、John Deere が修理または交換を行います。本保証に基づいて修理または交換された部品は、当該部品の初回交換予定日までの残余期間にわたって保証されます。

保証

- 保証対象となる部品の修理または交換は、所有者が費用を負担することなくすべての John Deere 認定の芝生およびユーティリティ関連リテラーにおいて無償で実施されます。
- 保証対象の部品に欠陥があるかどうか判定するための診断作業を John Deere が行う場合は、所有者には一切費用は発生しません。
- John Deere は、排出ガス関連の保証対象部品の故障により直接生じたその他のエンジン関連部品の損傷の修理も行います。
- カリフォルニア大気資源委員会により免除されていない追加部品または改造部品を使用することはできません。免除対象ではない追加部品または改造部品を使用すると、保証が拒否される原因となります。John Deere は、免除対象ではない追加部品または改造部品の使用を原因とする保証対象部品の故障については保証する責任を負いません。

排気ガス関連保証対象部品一覧

この保証の対象範囲は、以下に示す部品 (排出ガス制御システム部品) のうち、購入したエンジンおよび装置に搭載されたものに限定されます。

燃料計量システム：

- キャブレターおよび内部部品 (または燃料噴射装置)
- 空燃比フィードバックおよび制御システム
- 冷間始動強化システム

蒸発システム：

- 燃料タンク、燃料キャップおよびテザー
- 燃料ホース、ライン、継手、クランプ
- 燃料ポンプ、燃料シャットオフバルブ
- 燃料蒸気ホース、継手
- カーボンキャニスター
- 燃料蒸気制御用転倒/傾斜バルブ
- パージおよびベントライン

空気導入システム：

- エアクリーナ
- インテークマニホールド

イグニッションシステム：

- スパークプラグ
- 磁気式または電子式イグニッションシステム
- スパーク加速/遅延システム

排気システム：

- エグゾーストマニホールド
- 触媒マフラー

上記のシステムに使用されるその他の品目

- バルブとスイッチ：バキューム、温度、位置、チェック、時間応答

- 電子制御
- ホース、ベルト、コネクタおよびアセンブリ

有限責任

a) この排出ガス制御システム保証下で John Deere が負う責任は、材料または製造工程における欠陥の措置のみに限定されます。本保証は、ノンロード用装置またはエンジンの不都合や使用不能損失、あるいは John Deere 芝生およびユーティリティ関連リテラーとお客様の間の当該装置またはエンジンの輸送に対しては適用されません。John Deere は、他の目的でのノンロード装置またはエンジンの販売、使用、使用不能に関連して生じるその他の費用、損失、損害に対しては、直接的、付随的、派生的の如何を問わず (「適用範囲」として上述されているものを除き)、一切責任を負わないものとします。

b) John Deere は、この文書に特に規定されている場合を除き、装置またはエンジンに関して明示的な排出ガス制御システム保証を行いません。法律による排気ガス規制システムの黙示的な保証は、商品性または特定目的への適合性の保証を含め、本文書に明記されている排気ガス規制システム保証条件に明確に限定されます。

c) 取扱店は、この連邦、カリフォルニア州および John Deere 排出ガス制御システム保証を変更することはできません。

John Deere、連邦およびカリフォルニア州排出ガス制御システム保証 (25 hp 未満ノンロードディーゼル)

保証の下での権利と義務

米国環境保護庁 (EPA)、カリフォルニア大気資源委員会 (CARB)、および John Deere は、お客様の 1995 年以降のノンロードディーゼル装置用エンジンに関する排出ガス制御システム保証について説明します。カリフォルニア州では、1995 年以降のノンロードディーゼル装置用エンジンは、州の厳密なスモッグ防止基準に適合して設計、製造、装備される必要があります。その他の州では、1997 年以降のモデルイヤーの装置用エンジンはノンロードディーゼルエンジンに関する米国 EPA 規則に適合して設計、製造、搭載する必要があります。John Deere は、お客様のノンロードディーゼル装置用エンジンに誤用、無視、不適切なメンテナンスがないことを条件に下記の期間中お客様のノンロードディーゼル装置用エンジンの排気ガス制御システムを保証しなければなりません。

お客様の排気ガス制御システムには、フューエルインジェクションシステムや空気導入システムなどの部品が装備されている場合があります。また、コネクタやその他の排気ガス関連アセンブリが装備されている場合もあります。

保証条件が存在する場合、John Deere は診断、部品、工数を含め、ノンロードディーゼル装置用エンジンを無償で修理します。

John Deere 排出ガス制御システム保証の範囲

カリフォルニア州では、John Deere は 1995 年以降のノンロードディーゼル装置用エンジンの排出ガス制御関連部品を 2 年間または 1,500 運転時間のいずれか早い方まで保証します。その他の州では、John Deere は 1997 年以降のノンロードディーゼル装置用エンジンの排出ガス制御関連部品を 2 年間または 1,500 運転時間のいずれか早い方まで保証します。エンジンの排出ガス関連部品が故障した場合、部品は John Deere が修理または交換します。

所有者の保証に関する責任

ノンロードディーゼル装置用エンジンの所有者は、オペレータマニュアルに記載されている必要なメンテナンスを行う責任があります。John Deere は、お客様のノンロードディーゼル装置用エンジンのメンテナンスに関するすべてのレシートを保管しておくことをお勧めしますが、レシートがないことまたはすべての予定メンテナンスを実施しなかったことだけを理由に保証を拒否することはできません。

ただし、お客様はノンロードディーゼル装置用エンジンの所有者として、ノンロードディーゼル装置用エンジンまたは部品が誤用、無視、不適切なメンテナンス、許可されていない改造のために故障した場合、John Deere が保証を拒否する可能性があること理解する必要があります。

お客様は、問題を確認したらすぐにノンロードディーゼル装置用エンジンを認定 John Deere Turf & Utility Retailer に提示する責任があります。保証修理は、30 日を越えない妥当な時間内に完了されます。

保証の権利と責任に関する質問については、John Deere Turf & Utility Retailer または John Deere Customer Contact Center、1-800-537-8233 にご連絡いただくか、John Deere from www.Deere.com まで電子メールでお問い合わせください。

保証期間

John Deere は、初期所有者および以降の各購入者に対してノンロードディーゼル装置用エンジンが以下のとおりであることを保証します。

- 1995 年以降の装置用エンジンに関してカリフォルニア州大気資源局 (CARB) で採用されているすべての適用可能な規則、1997 年以降の装置用エンジンに関する米国環境保護庁 (EPA) のすべての適用可能な規則に準拠して設計、製造、搭載されていること。
- エンジンが初期リテール購入者に納品された後、2 年または 1,500 運転時間のいずれか早い方の間に排出ガス保証部品の故障を生じる可能性がある材料および製造工程の欠陥がないこと。John Deere は、保証期間中に保証部品の故障により生じたその他のエンジン部品への損傷について責任を負います。エンジンの排出ガス関連部品が故障した場合、部品は John Deere が修理または交換します。

保証部品

この保証の対象範囲は、以下に示す部品 (排出ガス制御システム部品) からエンジンの購入時に提示された部品までに限定されます。

燃料計量システム

- フューエルインジェクションシステム

空気導入システム

- エアクリーナ
- ターボチャージャシステム
- インテークマニホールド

ディーゼルシステム

- エグゾーストマニホールド

上記のシステムに使用されるその他の品目

- ホース、ベルト、コネクタ、アセンブリ

排出ガス関連部品はモデル間で少し異なるため、特定のモデルにはこれらすべての部品が装備されてないこともあり、同等の機能が装備されている場合もあります。

保証整備と費用

保証整備は、通常の営業時間中に認定 John Deere Turf & Utility Retailer で実施されます。保証部品の修理または交換は、保証部品が故障しているどうかを判定する診断工数を含め (診断作業が認定 Deere Turf & Utility Retailer で行われた場合)、お客様に対して無料で行われます。この保証により交換された部品は John Deere の所有物になります。

メンテナンス保証の範囲

- a) 必要なメンテナンスとして交換が予定されていない保証部品は、保証期間中の故障に関して保証されます。保証により修理または交換された部品は、残りの保証期間について保証されます。
- b) 「必要に応じて修理または交換」という趣旨の定期点検のみが予定されている保証部品は保証期間中の故障に関して保証されます。保証により修理または交換された部品は、残りの保証期間について保証されます。
- c) 必要なメンテナンスとして交換が予定されている保証部品は、その部品の最初の交換予定時期までの期間中の故障に関して保証されます。保証により修理または交換された部品は、残りの保証期間のその部品の最初の交換時期まで保証されます。
- d) お客様が費用を負担する、排出ガス制御装置の通常のメンテナンス、交換、または修理は任意の修理施設または個人が実施できますが、保証修理は認定 John Deere Turf & Utility Retailer が実施する必要があります。

保証

e) 保証外のメンテナンスまたは修理では、性能および耐久性が同等の任意の交換部品を使用できます。これによって John Deere の保証の義務が軽減されることはありません。

間接的保証の範囲

保証範囲は、保証対象の保証部品の故障により発生したエンジン部品の故障にも及びます。

制限

この排出ガス制御システム保証は以下の項目を対象としていません。

- a) 次の結果により必要となった修理または交換 (i) 誤用または不履行、(ii) 不適切なメンテナンスまたは未許可の改造、(iii) 不適切に実施された修理または不適切に取り付けられた交換、(iv) 性能や耐久性に悪影響を及ぼす、John Deere 仕様に準拠していない交換部品やアクセサリの仕様、(v) John Deere により書面で推奨または許可されていない変更または改造。
- b) 通常のメンテナンスで必要とされる交換部品、その他の整備および調整。
- c) John Deere Turf & Utility Retailer への往復の輸送費用、小売店からの整備通話料。

有限責任

- a) この排出ガス制御システム保証下の John Deere の責任は、材料または製造工程における欠陥の救済のみに限定されます。この保証は、ノンロードディーゼル装置用エンジンの不便性または使用不能、または John Deere Turf & Utility Retailer への往復の輸送費用を対象としていません。John Deere は、ノンロードディーゼル装置用エンジンの販売または使用、または使用不能に関連して発生したその他の費用、損失、または損害について、それが直接的、偶発的、間接的（「対象範囲」に示されている場合を除く）、または懲罰的であるかに関係なく責任を負いません。
- b) John Deere は、このドキュメントに特に規定されている場合を除き、エンジンに関して明示的な排出ガス制御システム保証を行いません。商品性または特定の目的に対する適合性の保証など、法により暗示される排出ガス制御システム保証は、このドキュメントで規定される排出ガス制御システム保証に明示的に制限されます。
- c) 取扱店は、この連邦、カリフォルニア州、および John Deere 排出ガス制御システム保証を変更することはできません。

タイヤ保証

John Deere の保証は、John Deere パーツシステムを通じて入手可能なタイヤに適用されます。John Deere パーツシステ

ムを通じて入手できないタイヤの場合、米国外ではメーカーの保証が機械に適用されない場合があります（詳細については、John Deere 取扱店にお問い合わせください）。

工場取り付けバッテリーのバッテリー限定保証

注記：北米のみに適用。機械全体の保証については、John Deere 保証書の写しを参照してください。写しについては、John Deere 取扱店にお問い合わせください。

保証整備を受けるには

購入者は、John Deere バッテリーの販売を許可されている John Deere 販売店に保証サービスを要求し、販売店に上部のカバープレートコードを提示する必要があります。

無料交換期間

材料または製造工程の欠陥により、無料交換期間内に整備不能（たんなる放電ではなく）となった新品のバッテリーは無料で交換します。サービス不能となったバッテリーが John Deere の工場または取扱店により取り付けられた場合、交換バッテリーを John Deere 取扱店が取り付けた場合は、取り付け費用も保証の対象となります。

比例調整（文字コード識別付きバッテリーのみ）

材料または製造工程の欠陥により、比例保証期間内に整備不能（たんなる放電ではなく）となった新品のバッテリーは、整備の未使用月に対する比例クレジット未満の、バッテリーの現行表示価格を支払うことにより交換します。適用可能な調整期間は、バッテリーの上部に表示されている保証コードおよび下の表により決定されます。バッテリー保証期間終了後は、取り付け費用は保証の対象とはなりません。

この保証は、下記の条件には適用されません。

- A. 容器、カバー、または端子の破損
- B. 合理的に必要なメンテナンスの欠如または不適切なメンテナンスにより発生した価値の低下または損傷
- C. 保証整備に関連する輸送、郵送、または整備の電話の料金
- D. たんなる放電のバッテリー。

黙示保証の制限と購入者の救済

法により許される範囲において、John Deere とその関連会社は、この保証の対象に含まれる製品の品質、性能、または欠陥がないことについて一切保証、提示、または約束を行いません。

商品性の暗黙保証および特定の目的への適合性は、適用される範囲で、ここに規定する適用可能な調整期間に制限されるものとします。John Deere バッテリーの保証の不履行または遂行に関連する、購入者の唯一の救済策はここに記載するとおりです。いかなる場合でも、取扱店、John Deere、または John Deere 関連会社は偶発的または間接的損害に責任を負いません。(注記：一部の州では、黙示保証の持続期間の制限、または偶発的または間接的損害の保証の除外または制限が許可されていません。このような場合、制限や除外はお客様に適用されない場合があります)。この保証は固有の法的権利を与えるものであり、お客様は州によって異なる複数の権利を有する場合があります。

取扱店の保証なし

販売している取扱店は独自の保証を行いません。また、John Deere に代わって提示または約束を行ったり、方法はどうかあれこの保証の条件または制限を変更したりする権限を有しません。

保証期間表

注記：バッテリーに保証コードのラベルがない場合、保証コード「6」に該当します。

保証コード	無料交換期間	比例保証期間
A	90 日	40 か月
B	90 日	36 か月
C	90 日	24 か月
D	12 か月	48 か月
E	90 日	12 か月
F	90 日	60 か月
G	12 か月	60 か月
H	12 か月	60 か月
6	6 か月	0 か月
12	12 か月	0 か月
18	18 か月	0 か月

RSX850i オリジナルバッテリー装置は、機械全体の保証期間中は 100% 完全交換を実施しています。

John Deere 品質



JOHN DEERE

John Deere の装置は単に購入にとどまらず品質への投資です。この品質は装置を越えて John Deere 取扱店の部品や整備サポートに及びます。このサポートはお客様の満足を維持するうえで必要です。

お客様の質問や問題が発生した場合に John Deere がそれを扱うプロセスを開始した理由はここに 있습니다。プロセスを進めるうえで以下の 3 つの手順がお客様の役に立ちます。

手順 1

オペレータマニュアルの参照

- | | |
|---|--|
| A. オペレータマニュアルには、お客様の装置の安全で正しい操作に関する多数のイラストおよび詳細情報が記載されています。 | C. 部品カタログ、整備、技術マニュアルの注文情報が記載されています。 |
| B. トラブルシューティング手順や仕様情報が記載されています。 | D. オペレータマニュアルで質問の回答が見つからない場合は、手順 2 に進んでください。 |

手順 2

取扱店への問い合わせ

- | | |
|---|---|
| A. John Deere 取扱店は、質問に答え、問題を解決し、お客様の部品や整備のニーズを満たす責任、権限、能力があります。 | C. 部品や整備の担当者がお客様の問題を解決できない場合は、販売店の管理者または所有者にお問い合わせください。 |
| B. まず、取扱店の熟練した部品/整備スタッフと質問や問題を話し合ってください。 | D. 取扱店で質問や問題が解決しない場合は、手順 3 に進んでください。 |

手順 3

John Deere への問い合わせ

- A. John Deere 取扱店はすべての問題に対処する際に最も効率的な問合せ先です。ただし、オペレータマニュアルを参照し、取扱店に問い合わせても問題を解決できない場合に John Deere にお問い合わせください。
- B. 適切で効果的な整備を実施するため、電話をかける前に次の情報を用意してください。

応対した取扱店の名前。装置のモデル番号。機械の運転時間 (該当する場合)。	このマニュアルの表紙の内側に記録したシリアル番号。アタッチメントの問題の場合は、アタッチメントの識別番号。
---------------------------------------	---

C. 次に、1-800-537-8233 (米国およびカナダ) までお電話ください。当社のアドバイザーが取扱店と共同で懸案事項を調査します。米国およびカナダ以外の国に居住する場合は、以下の Web サイトにアクセスしてご連絡ください。
www.deere.com/wps/dcom/en_US/regional_home.page

索引

P		吸気量制限インジケータ、点検	44
PCV バルブ、整備	51	金属面、補修と清掃	68
PTO コントロールレバー、使用	22		
R		く	
ROPS、金具の点検と調整	66	クーラント、エンジン	46
		グリース	39
		グリル、フロントの取り外しと取り付け	65
あ		け	
アクセルケーブル、調整	55	牽引、ユーティリティビークル	31
安全システム、テスト	20		
安全、操作	11	こ	
安全、タイヤ	16	コイル、オイルクーリングの清掃	57
安全な整備	15		
安全な駐車	12	し	
安全な保管	78	シート、調整	19
		シートベルト、使用	19
う		す	
運転チェックリスト、毎日	19	スイッチ、ニュートラルのテスト	20
		スイッチ、補助油圧システムのテスト	20
え		ストレーナ、トランスミッションオイルの清掃	53
液、ブレーキ	59	スパークアレスタ、使用	11
エレメント、エアクリーナの整備	45	スロットルガバナークontrol、使用	
エンジン、始動	30	(ディーゼルユニットのみ)	28
エンジン、停止	30	スロットルコントロール、使用、マルチモード	
エンジンオイル	40	(ガスユニットのみ)	27
		スロットルモード、使用	28
お		せ	
オイル (4WD モデル)、フロント車軸の交換	55	整備日の記録	90
オイル、エンジンの点検	40		
オイル、ディーゼルモデル、エンジン	40	た	
オイル、トランスミッション	52	ダスト排出バルブ、清掃	44
オイル、フロント車軸	54		
オイルレベル (4WD モデル)、フロント車軸の点検	54	て	
オペレータが席から離れる場合のエンジン、操作、		テールゲート、カーゴボックスの取り外し	34
車両	30	テールゲート、カーゴボックスの操作	33
		電解液レベル、バッテリーの点検	60
か		電球、ストップライト、テールライトの交換	62
カーゴボックス、取り外し	68	電球、表示灯の交換	62
カーゴボックス、取り付け	69	電球、ヘッドライトの交換	62
カーゴボックス、上昇と下降	33	点滅コード機能	70
カーゴボックス、積載	32		
解除垂直モード、使用	28		
き			
ギアロックアウト、使用	23		
技術マニュアル	36		

索引

と

トーイン、点検と調整	67
ドライブシャフト (4WD モデル)、潤滑	39
トラブルシューティング表	72
トランスミッション、操作	26
トランスミッションオイルレベル、点検	52

ね

燃料の安全	16
燃料シャットオフバルブ (ディーゼルモデル)、使用	21
燃料セグメントボウル (ディーゼルモデル)、整備	49
燃料タンク、充填	65
燃料、適切な使用	64
燃料の保管	78

は

パーキングブレーキ、調整	59
パーキングブレーキスイッチ、テスト、シートと	20
バッテリー、ブースターの使用	61
バッテリー、安全な整備	60
バッテリー、取り外しと取り付け	60
バッテリーと端子、清掃	60
バナーモード、使用	29
パネル、計器	25

ひ

ヒューズ、点検と交換	63
------------------	----

ふ

フィルタ (ガソリンモデル)、燃料の交換	48
フィルタ、エンジンオイルの交換	41
フィルタ、交換、トランスミッションオイルと	52
負荷の牽引	31
部品、交換	36

プラスチック面、清掃	67
プラスチック面や塗装面、損傷の回避	19
ブレーキ、使用、パーキング	21
ブレーキ液、点検	59

へ

ベルト、オルタネータの交換	50
ベルト、オルタネータの点検と調整	49

ほ

ホイール&ブレーキドラムの金具、締め付け	66
ホイールアセンブリ、取り外しと取り付け	65
ホースとクランプ	46
保管、作業機の準備	78
保管、作業機の復帰	79
保証メンテナンスに関する声明、エンジン	40
補助油圧、整備	57

ゆ

有効積載量	33
輸送、ユーティリティビークル	31

ら

ライトスイッチ、使用	21
ラジエータスクリーンの清掃	43

り

リフトシリンダの安全	17
リフトシリンダレバー、使用	22

れ

冷却システム、安全な整備	46
冷却システム、整備	47
レバー、デフロックの使用	21